

令和 5 年度

少子対策・子育て支援に関する県民意識調査

報告書

2024 年 2 月

株式会社東京商工リサーチ

## 目次

I 調査の概要	4
1. 調査目的	4
2. 調査設計	4
3. 調査報告書の読み方及び注意事項	4
II 結果の概要	7
III 調査の結果	18
1. 回答者の属性について	18
(1) 性別	18
(2) 年代	18
(3) 居住地域	20
(4) 兵庫県での居住経験	24
(5) 兵庫県に転入したきっかけ	27
(6) 職業	30
(7) 家族構成	32
(8) 未既婚	34
(9) 配偶者の就業状況	37
(10) 世帯年収	40
(11) 個人年収	42
(12) 子どもの人数	44
(13) 子どもの年齢	46
2. 少子化の進展、子ども・子育て支援を取り巻く状況について	48
(1) 少子化の要因	48
(2) 少子化が与える影響	51
3. 結婚について	53
(1) 結婚のイメージ	53
(2) 結婚願望	55
(3) 未婚・独身でいる理由	58
(4) 結婚できる環境整備について、行政が行うべき取り組み	60
(5) 理想とする女性の生き方	62
4. 妊娠・出産について	69
(1) 理想とする子どもの数	69
(2) 理想と実際の子どもの数の差	71
(3) 理想よりも実際の子どもの数が少ない理由	74
(4) 不妊について	78
5. 子育てについて	84

(1) 子育てのイメージ.....	84
(2) 子育てにかかる費用の負担感.....	87
(3) 子育てにかかる費用の中で、現在、負担を感じている費用.....	91
(4) 子育てにかかる費用の中で、今後、負担が増えそうな費用.....	93
(5) 子育て中において、住宅を選択するにあたり、重要と考える点.....	95
(6) 子育てに悩んだ時の相談先.....	98
6. 子育てと仕事の両立支援について.....	100
(1) 子育てをしながら働く際に困難なこと.....	100
(2) 男性が子育てに積極的に参加するために必要なこと.....	104
(3) 育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと.....	106
(4) 子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度.....	110
7. 保育施設等の利用について.....	112
(1) 幼稚園や保育施設の利用状況.....	112
(2) 子どもが利用したことのある施設.....	114
(3) 子どもの保育所等を選ぶときに重視した点.....	116
(4) 保育所や保育施設に子どもを預けた際に困ったこと.....	118
(5) 放課後児童クラブの利用状況.....	120
(6) 放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったこと.....	122
8. 行政への意見・要望について.....	124
(1) 充実してほしい支援策.....	124
(2) 現在行っている支援策の評価.....	129
(3) 意見・要望【自由回答】.....	130

# I 調査の概要

## 1. 調査目的

少子対策・子育て支援に係る環境、県民のニーズ、意見、課題などを把握し、次期プラン改定のための基礎資料とする。

## 2. 調査設計

- (1) 調査地域 兵庫県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満 15～79 歳までの男女
- (3) 調査方法 インターネットによるアンケート調査

※インターネット調査会社の株式会社アスマークのモニタ会員に対して、メールを配信、ウェブサイトへ誘導し、アンケート形式で回答を得た。

- (4) 調査時期 令和 5 年 12 月 6 日（水）～15 日（金）
- (5) サンプル数 4,000 サンプル
- (6) 地域区分

県民局	該当市町
神戸	神戸市
阪神南	尼崎市、西宮市、芦屋市
阪神北	伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
東播磨	明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町
北播磨	西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町
中播磨	姫路市、市川町、福崎町、神河町
西播磨	相生市、赤穂市、宍粟市、たつの市、太子町、上郡町、佐用町
但馬	豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町
丹波	丹波篠山市、丹波市
淡路	洲本市、南あわじ市、淡路市

## 3. 調査報告書の読み方及び注意事項

- 図表中の構成比率は、小数点第 2 位を四捨五入している関係で、必ずしも 100.0%とはならないことがある。
- 複数回答の設問は、回答が 2 つ以上ありうるため、合計は 100.0%を超えることもある。
- 図表中の「n」とは回答件数の総数のことで、100.0%が何件の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 回答選択肢は、図表及び文章中において簡略化しているものがある。
- 集計表は、特に説明のないものは表側を実数とした横%表としている。
- 回答が 5 未満のものに関しては参考値とし、原則コメントは省略している。
- クロス分析を行う上で、回答者の性別や年代、職業などから、選択肢を再分類化している場合がある。

(1) 年代別

項目	内容
10代	15歳～19歳
20代	20歳～24歳、25歳～29歳
30代	30歳～34歳、35歳～39歳
40代	40歳～44歳、45歳～49歳
50代以上	50歳～59歳、60歳～69歳、70歳～79歳
Z世代	15歳～19歳、20歳～24歳、25歳～29歳

(2) 地域別

項目	内容
神戸	神戸市
阪神南	尼崎市、西宮市、芦屋市
阪神北	伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
東播磨	明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町
北播磨	西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町
中播磨	姫路市、市川町、福崎町、神河町
西播磨	相生市、赤穂市、宍粟市、たつの市、太子町、上郡町、佐用町
但馬	豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町
丹波	丹波篠山市、丹波市
淡路	洲本市、南あわじ市、淡路市

(3) ライフステージ別

項目	内容
独身者	結婚したことはない・結婚していたが、離別・死別した ／子どもがいない
夫婦のみ	結婚している（初めて・再婚）／子どもがいない
ベビーファミリー層	末子が就学前（0～6歳）
ヤングファミリー層	末子が小学生
ファミリー層	末子が中学生以上

(4) 夫婦の就業状況別

項目	内容
共働き世帯	結婚している（初めて・再婚）／回答者と配偶者の両方が有職者
片働き世帯	結婚している（初めて・再婚）／回答者と配偶者のどちらかが有職者、 他方が無職者
その他	結婚している（初めて・再婚）／回答者と配偶者の両方が無職者

(5) 結婚願望別

項目	内容
結婚したい意思がある	結婚したい、どちらかといえば結婚したい、結婚が決まっている
結婚したい意思がない	どちらかといえば結婚したくない、結婚したくない
わからない	わからない

(6) 子どもの数別

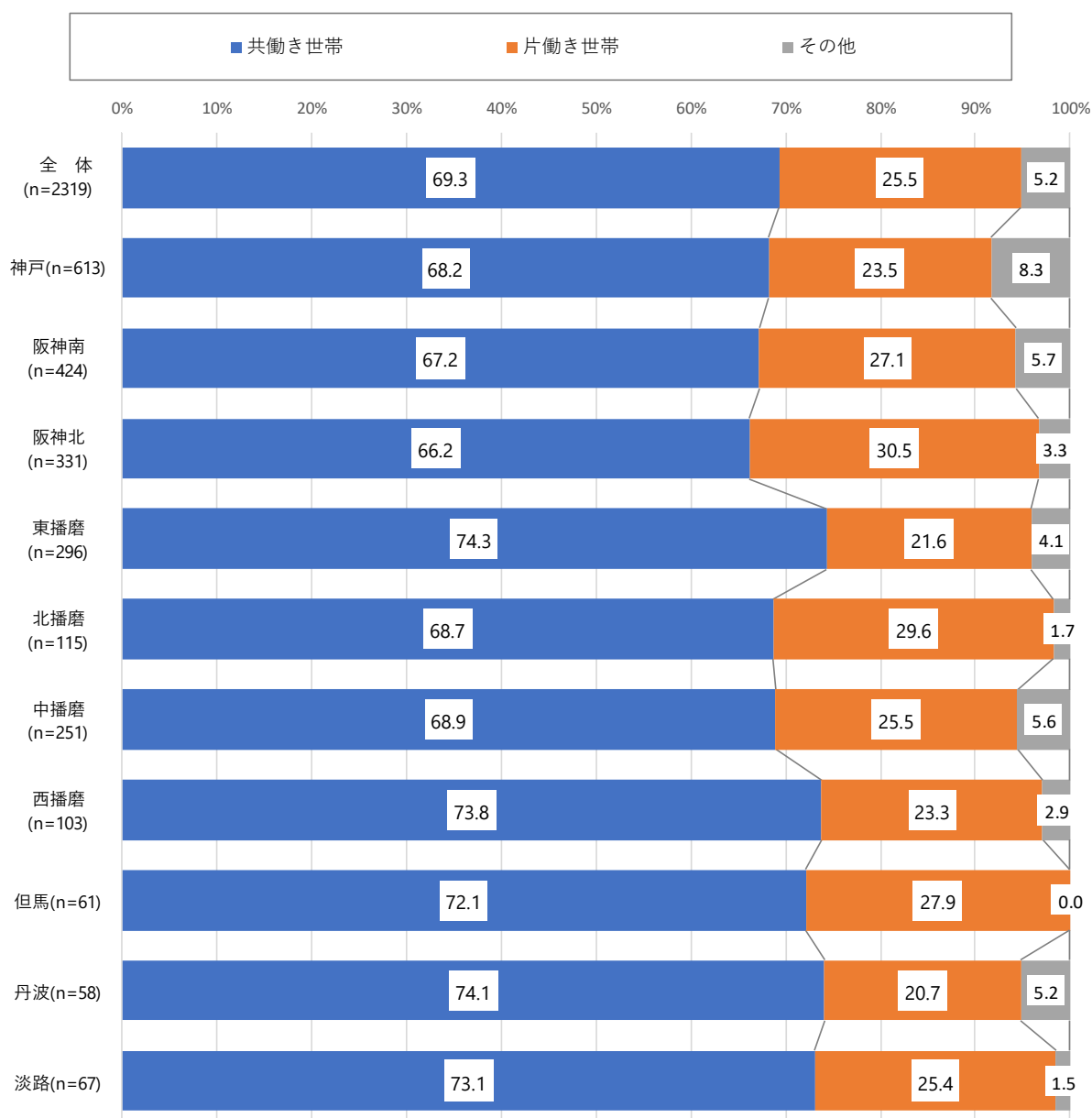
項目	内容
1人	1人
2人	2人
3人以上	3人、4人、5人以上



◆夫婦の就業状況は「共働き世帯」が約 7 割。阪神北は「片働き世帯」が他地域よりやや割合が高い。

共働き世帯（69.3%）が約 7 割となっており、片働き世帯（25.5%）よりもかなり割合が高い。地域別で見ると、東播磨（74.3%）、西播磨（73.8%）、但馬（72.1%）、丹波（74.1%）、淡路（73.1%）では「共働き世帯」が 7 割超と高くなっている。一方、阪神北では「片働き世帯」が 30.5%と他の地域と比べ比較的高くなっている。

■ 夫婦の就業状況（地域別）





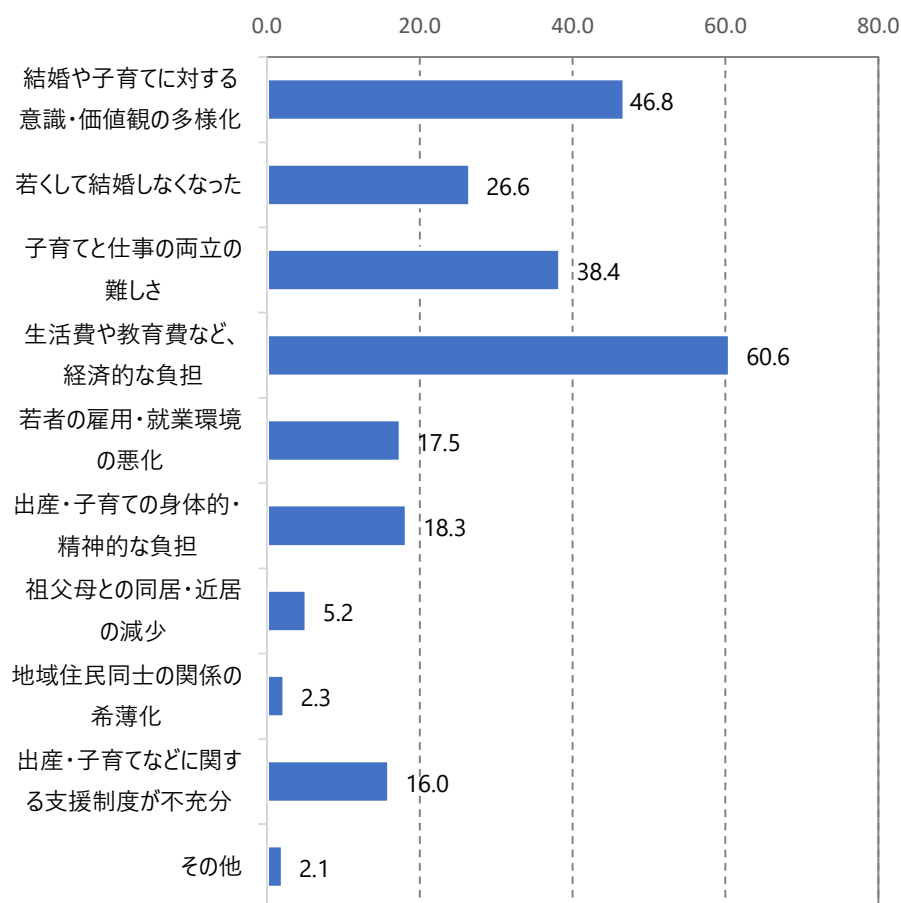
## ◆少子化の要因として、経済的な負担を感じる人が多く、なかでも教育費に負担や不安を感じる声が多い。

少子化の要因として、最も多くあげられているのが「生活費や教育費など、経済的な負担」(60.6%)で、全体の6割となっている。以下、「結婚や子育てに対する意識・価値観の多様化」(46.8%)と「子育てと仕事の両立の難しさ」(38.4%)が続く。

また、今後、負担になりそうな費用としては、「大学にかかる費用」(49.5%)が約半数を占める。次点の「小中高校にかかる費用」(40.3%)は、現在負担を感じている費用でも、40.2%と「食費」(40.8%)に次いで割合が高くなっている。

なかでも、小学生以下の子どもがいるベビーファミリー層やヤングファミリー層で多くみられ、将来的な“教育費”の負担に不安を感じる家庭が多くなっている。

■少子化の要因（複数回答：n=4,000）（%）

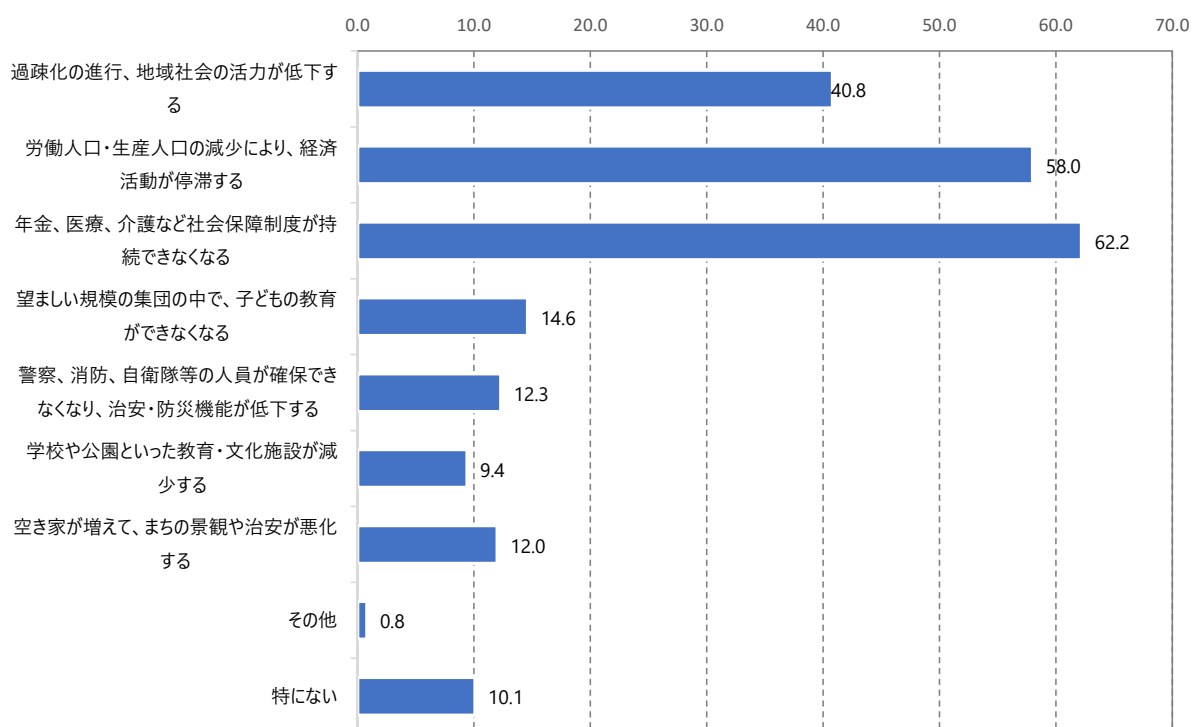


◆少子化が与える影響として、主に経済面での影響が大きく、社会保障における適正な給付や雇用環境の整備を期待。

少子化が与える影響は、「年金、医療、介護など社会保障制度が持続できなくなる」(62.2%)や「労働人口・生産人口の減少により、経済活動が停滞する」(58.0%)など、経済や福祉面での影響を懸念する声が多くなっている。

また、「過疎化の進行、地域社会の活力が低下する」(40.8%)も続いて割合が高く、地域社会の変容を危惧する声も多くなっている。

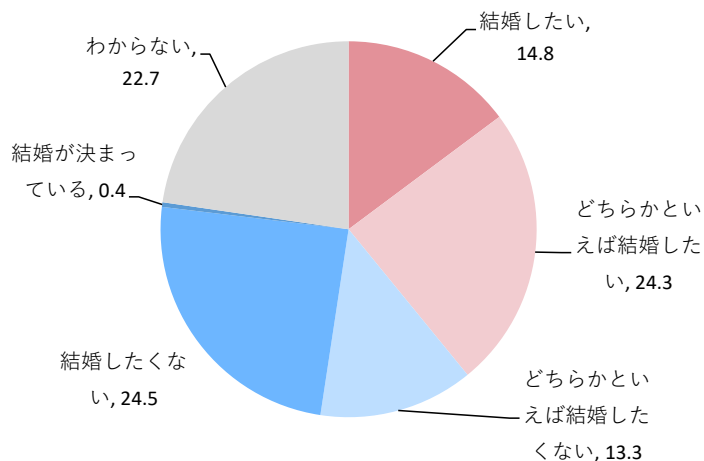
■少子化が与える影響（複数回答：n=4,000） (%)



◆未婚者のうち、結婚願望がある人は約4割と過半数割れ。結婚願望のない人は、結婚しないことによる気楽さ、必要性を感じないなどの傾向がある。

■結婚願望 (n=1,681) (%)

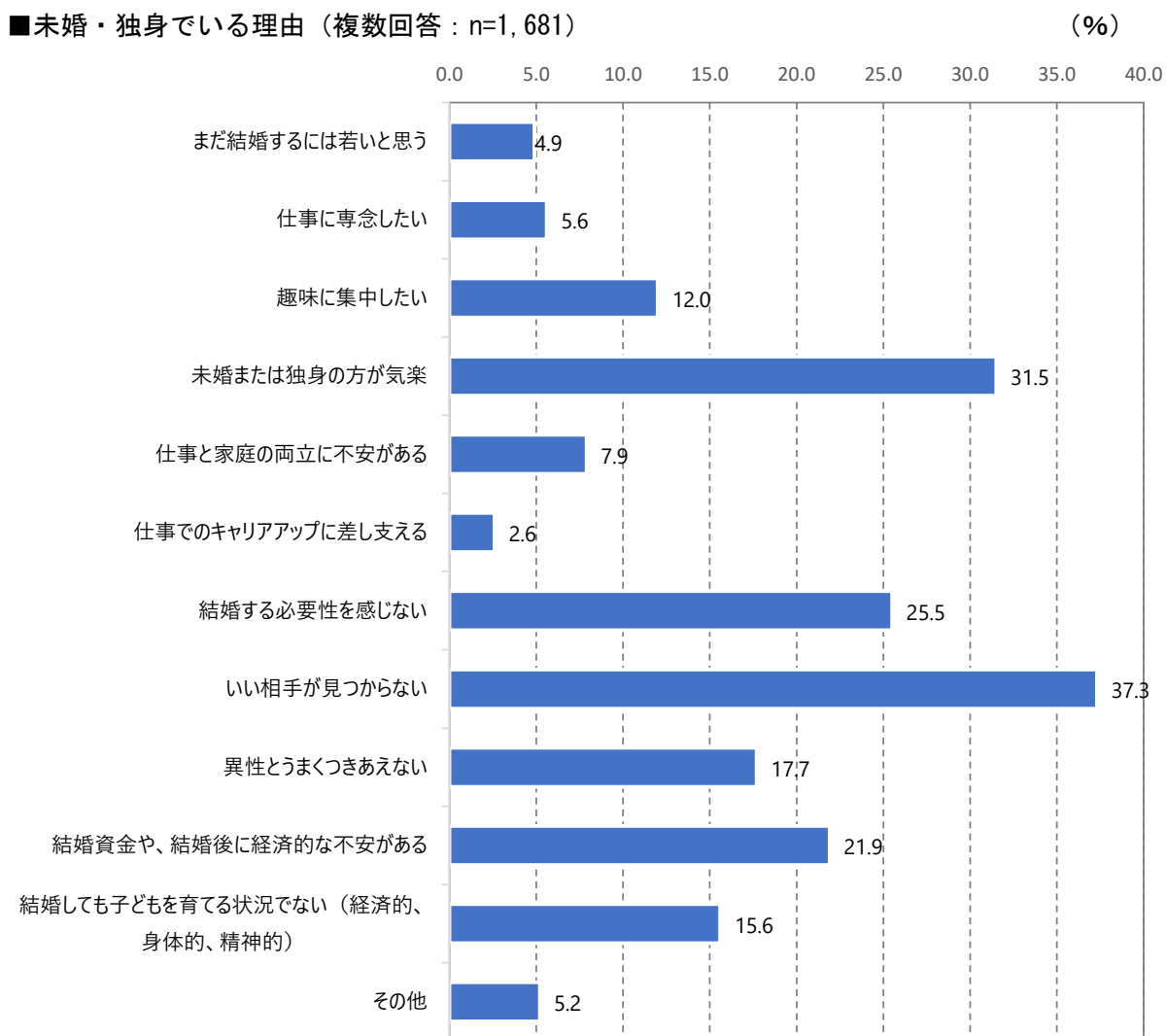
現在未婚者の結婚願望をみると、「結婚したい」(14.8%)と「どちらかといえば結婚したい」(24.3%)をあわせると、「結婚したい」と回答したのは約4割と半数に届かなかった。



未婚・独身でいる理由は「いい相手がみつからない」(37.3%)が最も割合が高いが、行政への要望として直接的な「出会いの場の提供」(5.8%※)を望む声は少なく、「安定した雇用環境の整備」(30.0%※)や「賃金を上げるなど、安定して生活ができるための支援」(28.7%※)を望む声が多くなっている。

また、「未婚または独身の方が気楽」(31.5%)、「結婚する必要性を感じない」(25.5%)も未婚・独身でいる理由として割合が高い。結婚願望がない人は、結婚に対して「自由に使えるお金や時間、行動が制約される」(53.2%)や「責任が増す」(49.8%)、「相手の家族や親族との付き合いがわずらわしい」(47.6%)など、束縛感や息苦しさのようなイメージを持つ傾向がある。

※1～3位まで順位付けをして回答したうち、1位に選択した回答者の割合、それ以外の数値は複数回答で得られた回答者の割合

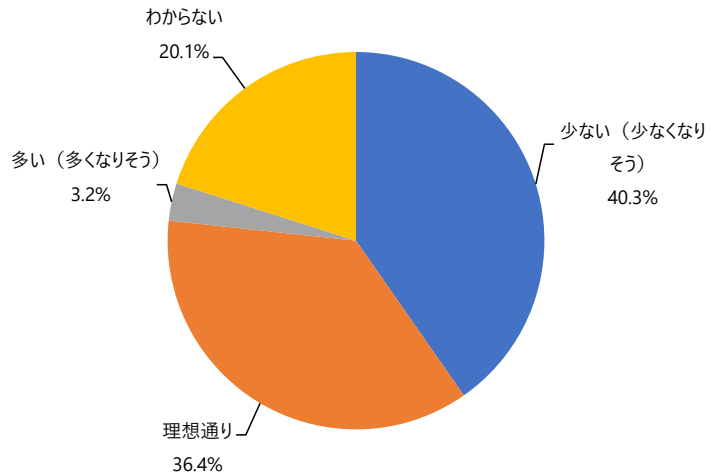


◆経済的なことを理由に、理想よりも子どもの数が少ない人が多い。

■理想と実際の子どもの数の差 (n=3, 180)

子どもの数が「理想よりも少ない (少なくなりそう)」が4割 (40.3%) と最も割合が高く、子どもの数が「理想通り」の人は3割程度 (36.4%) となっている。

「理想よりも少ない (少なくなりそう)」理由として、「子育てや教育にお金がかかる」を半数以上 (51.1%) があげており、少子化の要因と同様、経済的な理由をあげる人が多い。



◆不妊について現在や過去に悩みをもった人は約 4 割。

現在、不妊についての悩みがある (12.9%)、あるいは過去に悩みがあった (24.5%) は約4割 (37.4%) となっている。そのうち、現在、または過去に不妊治療の検査や治療を経験した人は約4割と、悩みを持っている人のうち半数以下となっている。

充実してほしい支援策としても「不妊・不育治療への支援」は7.7%にとどまっているが、現在行っている支援策への評価としては「もう少し努力が必要」(14.2%)、「もっと努力が必要」(17.3%) を合わせて更なる取り組みを求める声が約3割となっており、「取り組みを知らない」も2割となっているため、行政の取り組みについてさらなる周知や、悩みがしながら不妊治療の検査や治療を行わない人達に対しての理由の深堀り調査なども必要と思われる。

■現在行っている支援策への評価 (不妊治療への支援)

(%)

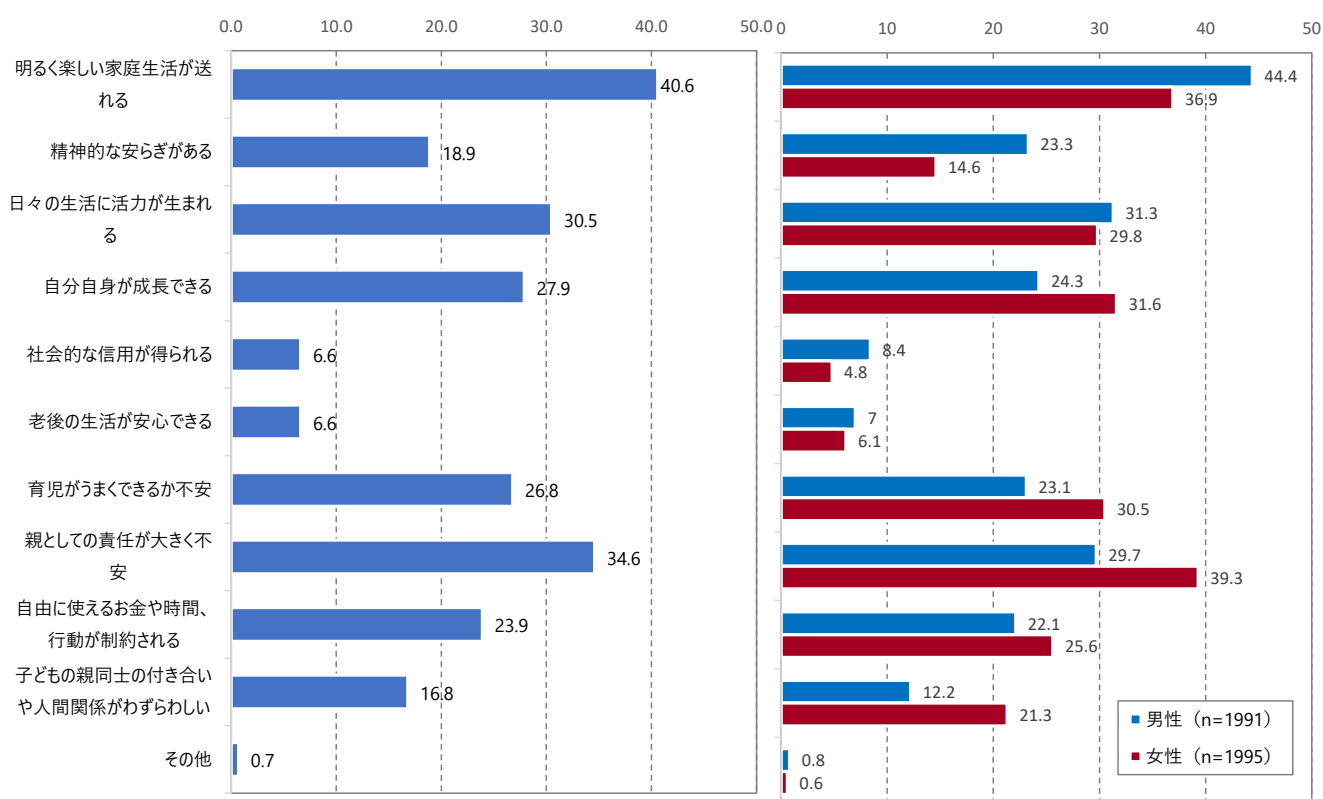
	る や よ っ く て い	る や ま っ あ て よ い く	い も ど い ち え ら な と	要 努 も 力 う が 少 必 し	要 努 も 力 っ が と 必	い を 取 知 り ら 組 な み
不妊・不育治療への支援	1.5	9.0	36.5	14.2	17.3	21.6

## ◆子育てのイメージは、男性はポジティブな印象をもつ人が多く、女性は不安を感じる人が多い。

子育てのイメージは、全体では「明るく楽しい家庭生活が送れる」(40.6%)、「親としての責任が大きく不安」(34.6%)、「日々の生活に活力が生まれる」(30.5%)、「自分自身が成長できる」(27.9%)の順に割合が高くなっており、悪いイメージも混ざるものの良いイメージが上位に多い結果となっている。

一方、性別にみると「明るく楽しい家庭生活が送れる」や「日々の生活に活力が生まれる」、「精神的な安らぎがある」などポジティブな項目は男性が女性より割合が高く、「親としての責任が大きく不安」、「育児がうまくできるか不安」、「自由に使えるお金や時間、行動が制約される」、「子供の親同士の付き合いや人間関係がわずらわしい」などネガティブな項目は女性の割合が高い結果となり、女性の子育てに対する不安感がうかがえる。

■子育てのイメージ（全体、性別） (％)

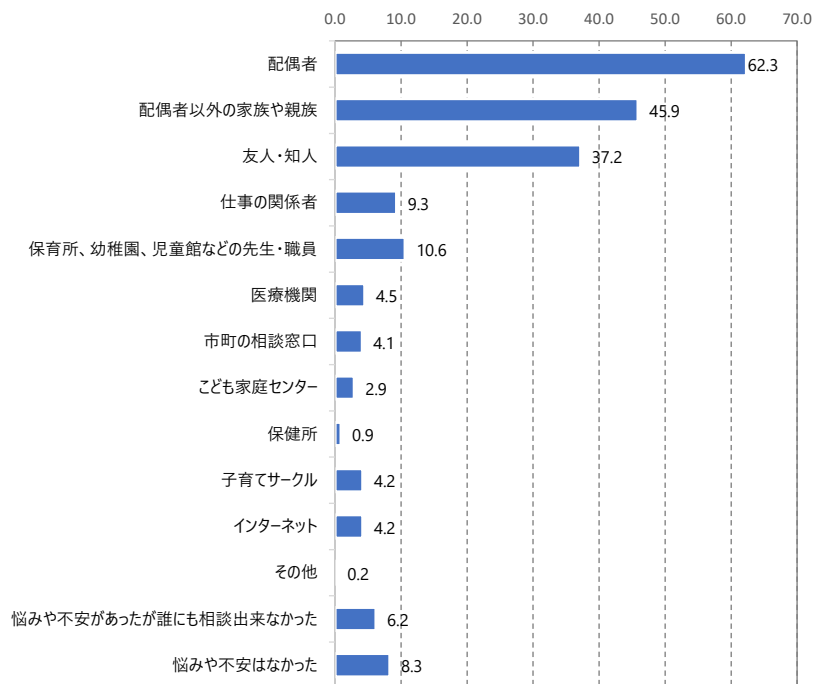


◆子育てに悩んだ時の相談先は身近な人が多い。一方、公的な支援を望む声もある。

■子育てに悩んだ時の相談先（複数回答：n=2,048）（%）

子育てに悩んだ時の相談先は、「配偶者」（62.3%）をはじめ、「配偶者以外の家族や親族」（45.9%）や「友人・知人」（37.2%）といった身近な人に相談する人が多く、公的な機関や地域のコミュニティなどを相談先にあげる人は低くなっている。

一方、行政への具体的な要望を自由回答形式で聞くと、子育てに関する支援制度や相談先に関する情報発信を望む声も散見され、現状の支援情報が行き届かず、認知されていないことがうかがえる。



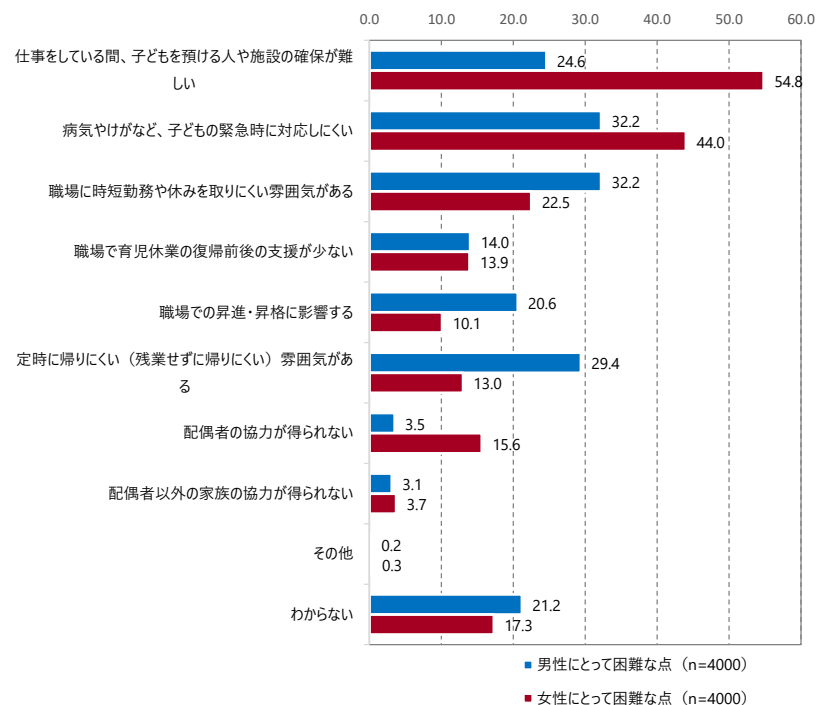
◆子育てをしながら働く際に

困難なことは、女性は「子どもの預け先」の確保。男性は職場の雰囲気に関する項目が多い。

■女性にとって、子育てをしながら働く際に困難な点（性別）（%）

女性にとって、子育てをしながら働く際に困難なことは、「仕事をしている間、子どもを預ける人や施設の確保が難しい」や「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」といった“子どもの預け先”をあげる人が多くなっている。

一方、男性にとって、子育てをしながら働く際に困難なことは、女性と同様に「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」も割合が高いが、「職場に時短勤務や休みを取りにくい雰囲気がある」や「定時に帰りにくい（残業せずに帰りにくい）雰囲気がある」など職場の雰囲気に関する項目が多くなっており、性別による意識の差がみられる。



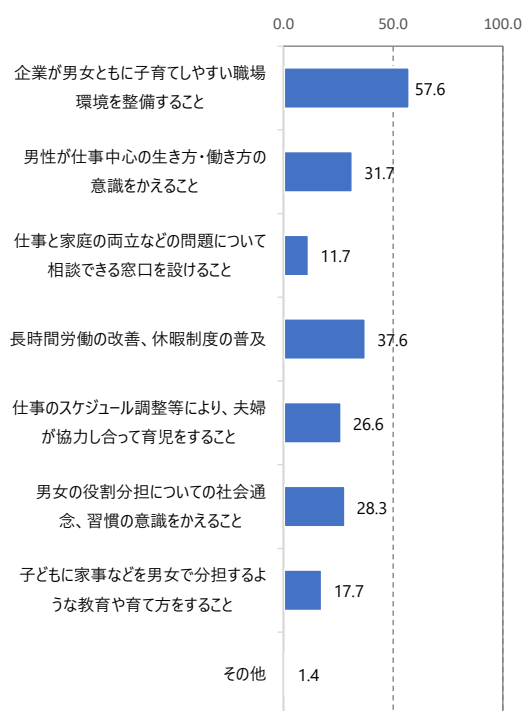
◆男性の子育てへの積極的な参加には、職場の理解と社会全体の意識改革が必要。  
子育てと仕事の両立には、多様な働き方に応じた“働き方改革”の推進が不可欠。

男性が子育てに積極的に参加するために必要なこととして、「企業が子育てしやすい職場環境を整備すること」(57.6%)や「長時間労働の改善、休暇制度の普及」(37.6%)など、職場の理解や働き方に関する項目が多くあげられている。次に、「男性が仕事中心の生き方・働き方の意識をかえること」(31.7%)や「男女の役割分担についての社会通念、習慣の意識をかえること」(28.3%)が続いており、性別による役割分担への意識改革を促進する必要がある。

また職場において、子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度をみると、「短時間勤務やフレックスタイム制」(41.2%)や「育児休業期間(最大2年)の更なる延長」(26.9%)、「子どもが2歳になるまで、希望する全ての親へ育児休業期間を延長」(26.8%)、「在宅勤務制度」(26.6%)、「残業をさせない制度」(24.4%)などが上位にあげられており、多様な働き方に応じた“働き方改革”を推進し、働きやすい職場環境を作ることが求められている。

■男性が子育てに積極的に参加するために必要なこと

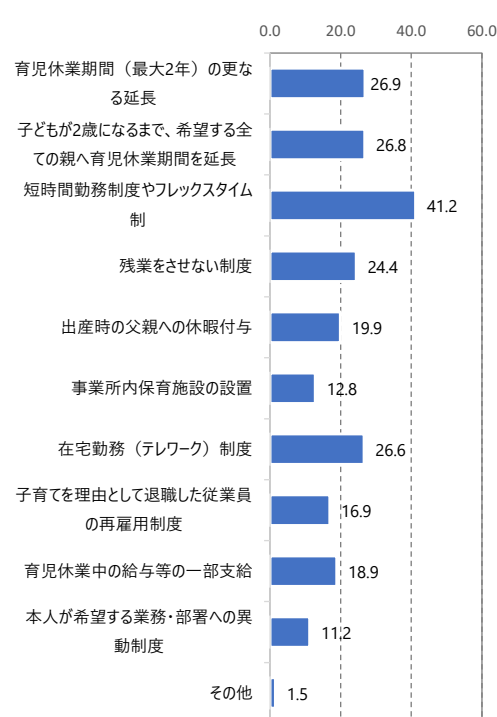
(複数回答：n=4,000) (%)



■子育てと仕事の両立のために必要

だと思う制度 (複数回答：n=4,000)

(%)



## ◆充実してほしい支援策として授業料や保育料の軽減など教育費の負担軽減を望む声が多い。

充実してほしい支援策は、「授業料軽減・免除、給付型奨学金など教育費用の軽減・助成」が最も割合が高く、次いで「保育料の軽減・助成」や「保育所・認定こども園等の増設・充実」が続いており、これらは女性が多い。また、「経済の活性化・雇用の充実」や「出会い・結婚支援」は男性が比較的割合が高い。

各支援策の評価をみると、充実してほしい支援策として上位に挙げられている項目は、比較的评价が高い傾向がみられるものの、全体的に平均点（※）で2.0点前後の“もう少し努力が必要”という評価となっている。また、点数の低い項目では「取り組みを知らない」の割合が高く、支援内容に加えて、情報の周知方法についても課題があるといえる。

※平均点は各項目に対して、「よくやっている」が5点、「まあよくやっている」が4点、「どちらともいえない」が3点、「もう少し努力が必要」が2点、「もっと努力が必要」が1点、「取り組みを知らない」が0点として加点し、平均点を算出した

### ■ 充実してほしい支援策（複数回答:n=4,000） (%)

【若者・Z世代の応援・支援】	【子育て支援】	【その他】
公立学校における施設環境の改善・充実	12.2	保育所・認定こども園等の増設・充実 18.6 その他 1.0
授業料軽減・免除、給付型奨学金など教育費用の軽減・助成	28.7	放課後児童クラブ（学童保育）の増設・充実 7.1 特にない 18.6
奨学金の返済支援	15.3	地域における子育て支援サービスの充実 6.3
不妊・不育治療への支援	7.7	子育てに関する情報の発信 2.8
新婚・子育て向けの住宅に関する支援	7.3	発達障害児や医療的ケア児等、特別な支援が必要な子どもや家庭への支援の拡充 5.0
【就業・出会い・結婚・出産支援】		育児と仕事を両立するための企業への働きかけ・支援 9.2
若者の就業支援	9.8	【経済的負担の軽減】
経済の活性化・雇用の充実	18.1	保育料の軽減・助成 19.2
出会い・結婚支援	9.2	子どもの医療費助成の充実 13.3
出産に関する費用・医療費等の軽減・助成	13.0	児童手当等による経済的支援の充実 17.8

### ■ 現在行っている支援策の評価（n=4,000） (%、点)

	よくやっている	まあよくやっている	どちらともいえない	もう少し努力が必要	もっと努力が必要	取り組みを知らない	平均点
若者の就業支援	2.6	7.2	39.1	13.2	14.8	23.3	2.00
出会い・結婚支援	1.4	6.6	40.2	13.4	13.0	25.4	1.94
不妊・不育治療への支援	1.5	9.0	36.5	14.2	17.3	21.6	1.98
出産費用・医療費等の軽減・助成	2.9	13.6	33.2	15.8	17.7	16.8	2.18
出産や育児に関する相談機関の充実	1.7	10.8	39.7	14.3	13.9	19.7	2.13
小児医療体制の充実	2.7	13.8	35.7	14.5	15.1	18.3	2.20
保育所等の増設・充実	2.1	11.2	35.8	16.8	17.9	16.2	2.14
放課後児童クラブの増設・充実	1.6	10.2	38.7	16.4	14.8	18.3	2.13
公立学校における施設環境の充実	1.7	10.0	40.5	15.5	13.5	18.9	2.14
子育てに関する情報の発信	2.1	12.3	41.2	13.4	11.9	19.2	2.22
子どもと一緒に集まれる場づくり	2	12.4	40.2	14.4	11.9	19.1	2.21
保育料の軽減・助成	2.5	11.4	34.3	16.4	17.7	17.7	2.12
こどもの医療費助成の充実	5.8	15.8	31.8	14.7	16.3	15.6	2.33
授業料軽減・免除、奨学金など教育費用の軽減・助成	2.3	11.0	34.0	15.8	19.9	17.1	2.09
奨学金の返済支援	1.6	6.0	36.3	15.4	20.5	20.4	1.92
児童手当等による経済的支援の充実	2.4	9.8	36.7	15.1	19.2	17.0	2.10
仕事と子育ての両立支援	1.5	6.4	35.8	16.4	20.9	19.0	1.94



## ■まとめ

### ◆少子化について

近年の物価高騰もあり、生活費や教育費など経済的な負担を感じる声が大きくなっている。特に兵庫県では大学への進学率が全国的にも高い傾向にあり、その点で不安に思う人も多くなっていると思われる。自由回答では義務教育以降の教育費への支援も一定数見受けられた。また、少子化により経済・福祉面への影響が懸念されており、労働人口・生産人口の減少が危惧されている。若年層の雇用安定に加え、高齢者や女性の就業環境の整備といった対策が必要であると考えられる。

また、不妊に悩んでいる人達に対する支援では、そもそも行政の取り組みを知らないと思われる意見もみられ、周知方法の検討が期待される。

### ◆結婚・子育てのイメージについて

未婚・独身者は、結婚しない理由として“いい相手がみつからない”としながらも、直接的な「出会いの場の提供」を求める声は少なく、結婚する必要性を感じない人や自由や気楽さを求める人が多いという結果が出ている。

また、子育てに対しては、男性は明るく楽しい家庭生活が送れる、日々の生活に活力が生まれるなど親としての責任を感じつつもよいイメージを持つ人が比較的多いが、女性は責任や育児への不安を感じる意見が多く、ネガティブなイメージを持つ人が多くなっている。男性の育児休暇取得率の向上など、男性の育児参加も進んできてはいるものの女性の育児に対する不安や負担は依然強くあると考えられる。男性のさらなる育児参加の推進と、職場や社会全体としての意識改革が進む取り組みを期待したい。

### ◆子育てと仕事の両立について

男女とも理想とする人生として、子育てと仕事の両立を望む声が多い。一方、その実現には職場の理解が必要不可欠であり、結婚して子育てを理想としながらも、現実には結婚はせずに働き続ける人生を送ることを想定しているという意見もみられる。

子育てと仕事の両立のためには短時間勤務やフレックスタイム制、在宅勤務の促進など、多様な働き方に応じた“働き方改革”の推進が必要であると考えられる。そのためには、企業への柔軟な働き方促進の啓蒙や、企業努力だけでは対応が難しい企業に対するサポート、例えば採用活動費や求職者の情報提供、業務合理化や在宅勤務促進のための助成など、働きやすい職場環境を整備するための支援も必要と考えられる。

### ◆行政が行っている支援策について

行政に重点的に充実してほしい支援策として、「授業料軽減・免除、給付型奨学金など教育費用の軽減・助成」、「保育料の軽減・助成」、「保育所・認定こども園等の増設・充実」、「経済の活性化・雇用の充実」などが多くなっている。これらの支援策に対する評価は得点式にして平均点を算出したところ比較的高い傾向がみられた。しかし、全体的に2.0点前後の“もう少し努力が必要”という評価となっており、引き続き制度の充実が期待される。

### Ⅲ 調査の結果

#### 1. 回答者の属性について

##### (1) 性別

**【全員】**

SC1 あなたの性別を教えてください。(1つ選択)

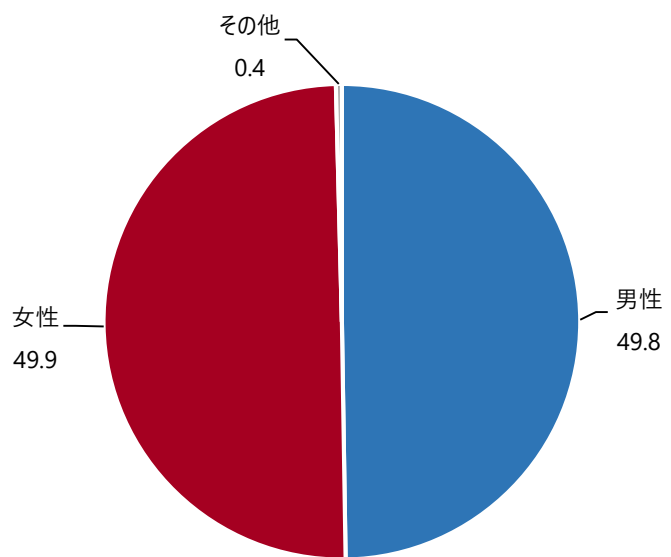
1. 男性 2. 女性 3. その他

**【性別 (全体)】**

■ 性別 (全体) (n=4,000)

(%)

- ・あらかじめ男女の構成比を設定した上で調査を実施した。
- ・「男性」が49.8%、「女性」が49.9%とほぼ同じ割合となっている。



##### (2) 年代

**【全員】**

SC2 あなたの年齢を教えてください。(1つ選択)

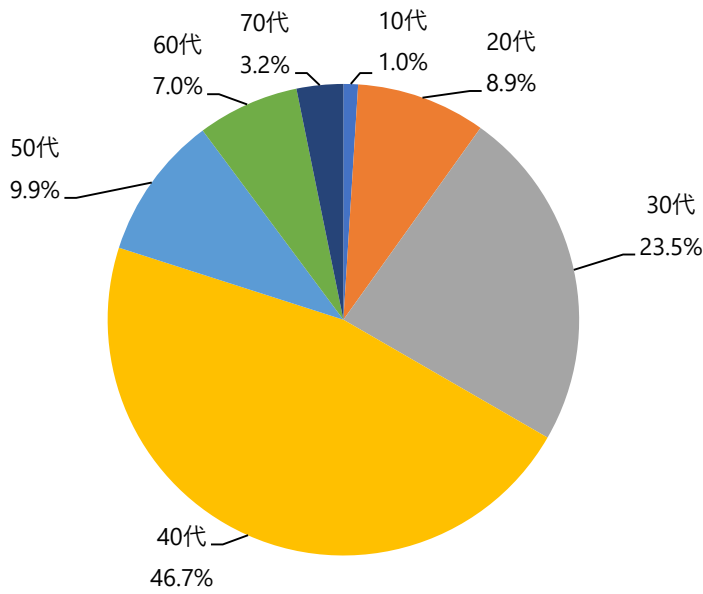
2. 15歳～19歳                      3. 20歳～24歳                      4. 25歳～29歳  
5. 30歳～34歳                      6. 35歳～39歳                      7. 40歳～44歳  
8. 45歳～49歳                      9. 50歳～59歳                      10. 60歳～69歳  
11. 70歳～79歳

※選択肢1と12は対象年齢絞り込みのための選択肢のため割愛

**【年代 (全体)】**

- ・性別と同様、あらかじめ年代の構成比を設定した上で調査を実施した。
- ・「10代」が1.0%、「20代」が8.9%、「30代」が23.5%、「40代」が46.7%、「50代以上」が20.1%となっており、子育て世代ともいえる20～40代をあわせて約8割を占めている。

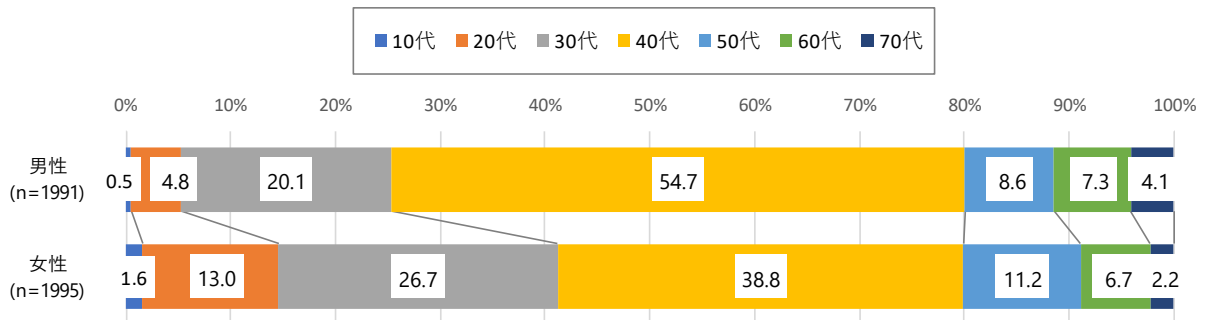
■ 年代（全体）（n=4,000） (%)



【年代（性別）】

・男性と女性の年代構成比はいずれも 20～40 代で約 8 割を占めているが、女性は「20 代」「30 代」の回答者が男性より高い傾向がある。

■ 年代（性別）



### (3) 居住地域

【全員】

SC3 あなたの住んでいる都道府県を教えてください。(1つ選択)

▼47 都道府県表示

28.兵庫県のみ対象

【全員】

SC4 あなたの住んでいる地域を教えてください。(1つ選択)

※選択肢は、本項目の表「■ 居住地域・市・町単位」を参照

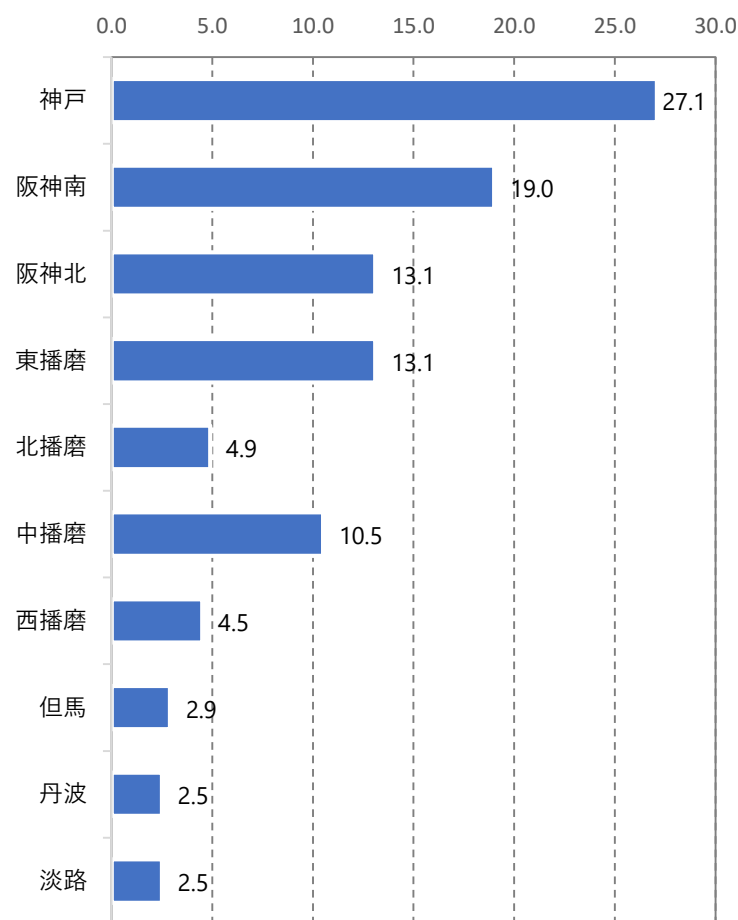
#### 【居住地域（県民局別）】

・性別と年代同様、居住地の構成比についても、県民局別で人口の構成比【※】となるよう、あらかじめ設定した上で調査を実施した。

・「神戸」が27.1%と最も割合が高く、以下、「阪神南」(19.0%)、「阪神北」、「東播磨」がともに(13.1%)、「中播磨」(10.5%)、「北播磨」(4.9%)、「西播磨」(4.5%)、「但馬」(2.9%)、「丹波」、「淡路」がともに(2.5%)の順となっており、おおむね人口構成比と同様の結果が得られた。

【※】総務省「令和2年国勢調査」より

■ 居住地域（県民局別）(n=4,000) (%)



【居住地域（市町別）】

・市町別でみると、「神戸市」（27.2%）が最も割合が高く、以下、「姫路市」（10.0%）、「尼崎市」、「西宮市」がともに（8.7%）、「明石市」（6.1%）、「加古川市」（4.5%）と続く。

■ 居住地域（市町別）（n=4,000）

（%）

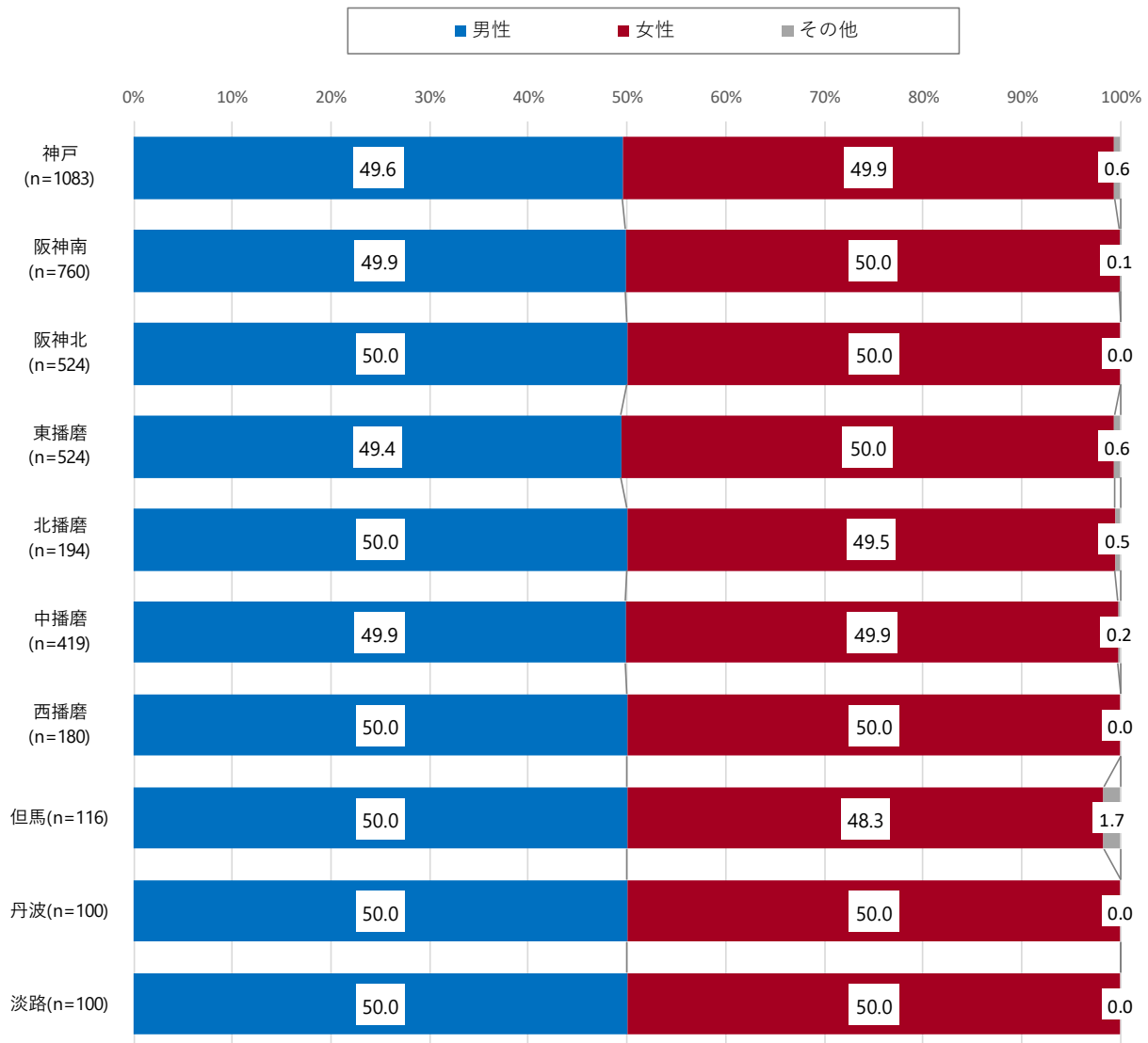
地域		回答者割合	人口構成比 【※】	地域		回答者割合	人口構成比 【※】
神戸	神戸市	27.2	27.9	中播磨	姫路市	10.0	9.7
阪神南	尼崎市	8.7	8.4		市川町	0.2	0.2
	西宮市	8.7	8.9		福崎町	0.2	0.4
	芦屋市	1.7	1.7		神河町	0.1	0.2
阪神北	伊丹市	4.0	3.6	西播磨	相生市	0.6	0.5
	宝塚市	4.1	4.1		赤穂市	0.8	0.8
	川西市	3.1	2.8		宍粟市	0.3	0.6
	三田市	1.6	2.0		たつの市	1.6	1.4
	猪名川町	0.4	0.5		太子町	0.9	0.6
東播磨	明石市	6.1	5.6		上郡町	0.2	0.3
	加古川市	4.5	4.8		佐用町	0.3	0.3
	高砂市	1.6	1.6	但馬	豊岡市	1.9	1.4
	稲美町	0.4	0.6		養父市	0.3	0.4
	播磨町	0.6	0.6		朝来市	0.4	0.5
北播磨	西脇市	0.7	0.7		香美町	0.1	0.3
	三木市	1.8	1.4		新温泉町	0.3	0.2
	小野市	0.8	0.9	丹波	丹波篠山市	1.0	0.7
	加西市	0.9	0.8		丹波市	1.5	1.1
	加東市	0.6	0.7	淡路	洲本市	1.0	0.8
	多可町	0.2	0.4		南あわじ市	0.9	0.8
				淡路市	0.7	0.8	

【※】 総務省「令和2年国勢調査」より

### 【地域別にみた性別】

・全ての地域で男女比率に大きな差はみられなかったが、「但馬」ではやや女性の割合が低くなっている。

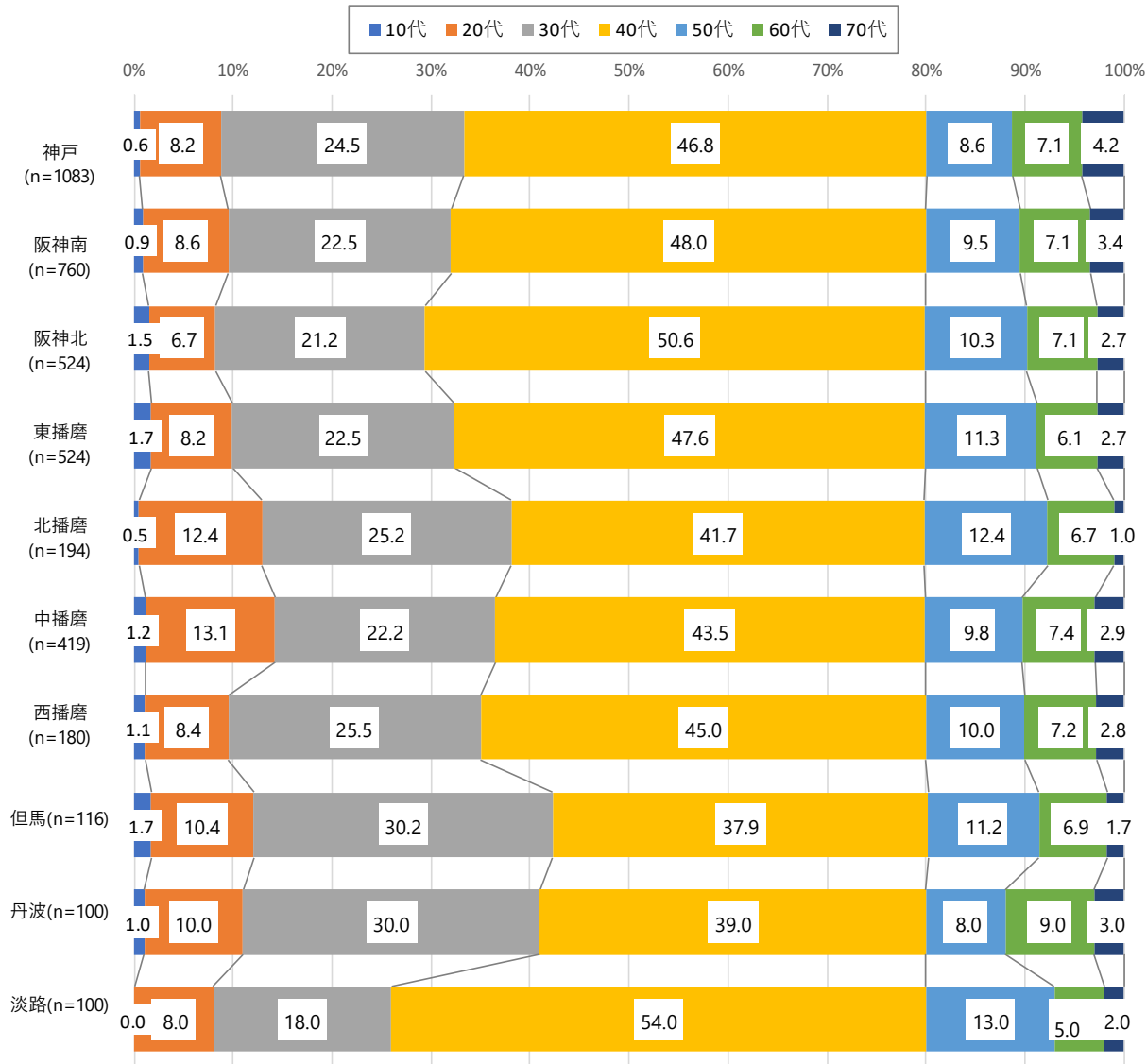
#### ■ 地域別にみた性別



### 【地域別にみた年代】

・全ての地域で40代の割合が最も割合が高く、淡路や北播磨、神戸、阪神南で10代の割合が比較的低くなっている。

### ■ 地域別にみた年代



#### (4) 兵庫県での居住経験

##### 【全員】

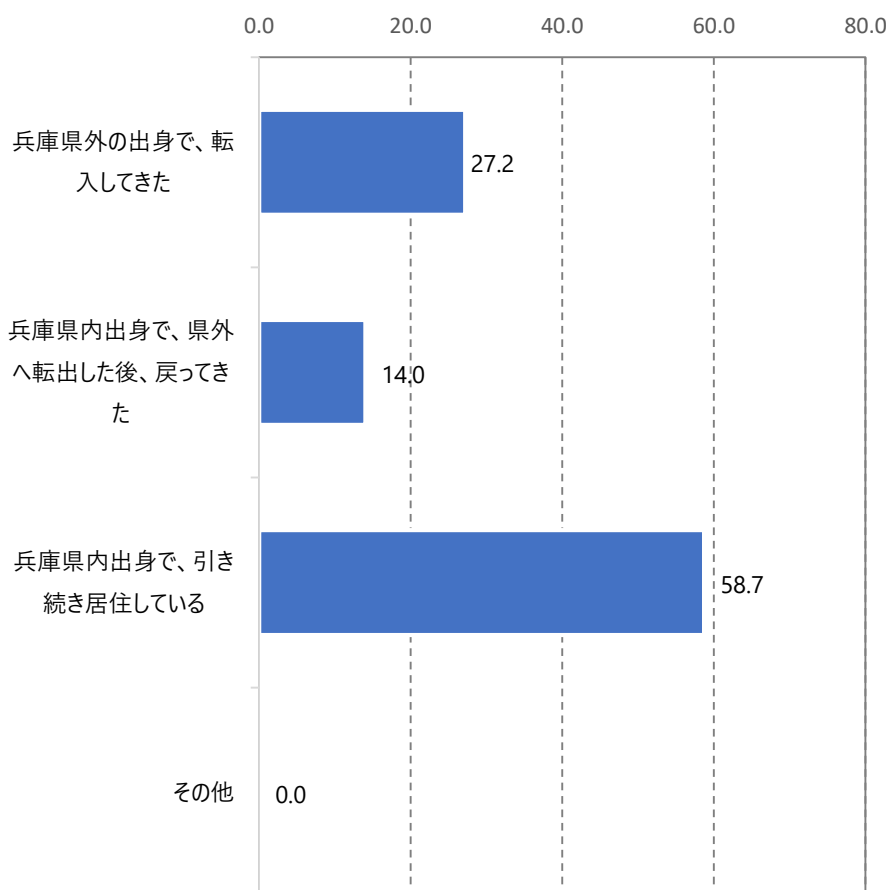
Q1 兵庫県での居住経験について教えてください。(1つ選択)

1. 兵庫県外の出身で、転入してきた ⇒Iターン
2. 兵庫県内出身で、県外へ転出した後、戻ってきた ⇒Uターン
3. 兵庫県内出身で、引き続き居住している
4. その他 ( )

##### 【兵庫県での居住経験 (全体)】

・兵庫県での居住経験は「兵庫県内出身で、引き続き居住している」が58.7%と半数以上を占めて最も割合が高く、以下、「兵庫県外の出身で、転入してきた」が27.2%、「兵庫県内出身で、県外へ転出した後、戻ってきた」が14.0%と続いている。

##### ■ 兵庫県での居住経験 (全体) (n=4,000) (%)

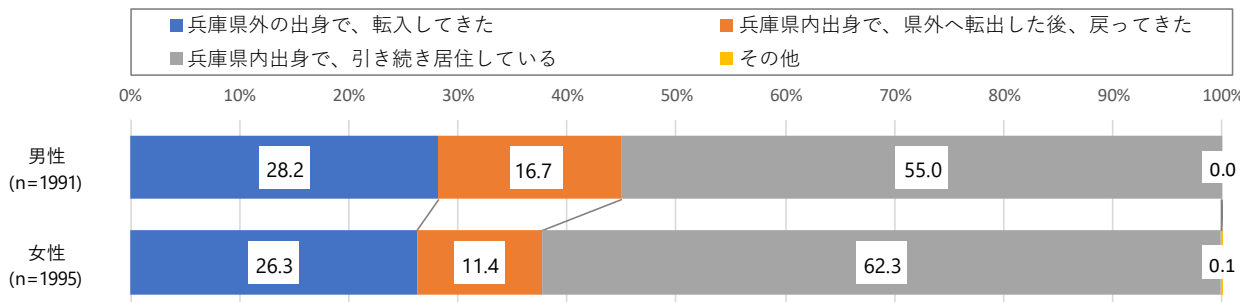




### 【兵庫県での居住経験（性別）】

・男女ともに「兵庫県内出身で、引き続き居住している」が半数以上を占めて最も割合が高く、以下、「兵庫県外の出身で、転入してきた」、「兵庫県内出身で、県外へ転出した後、戻ってきた」と続いている。

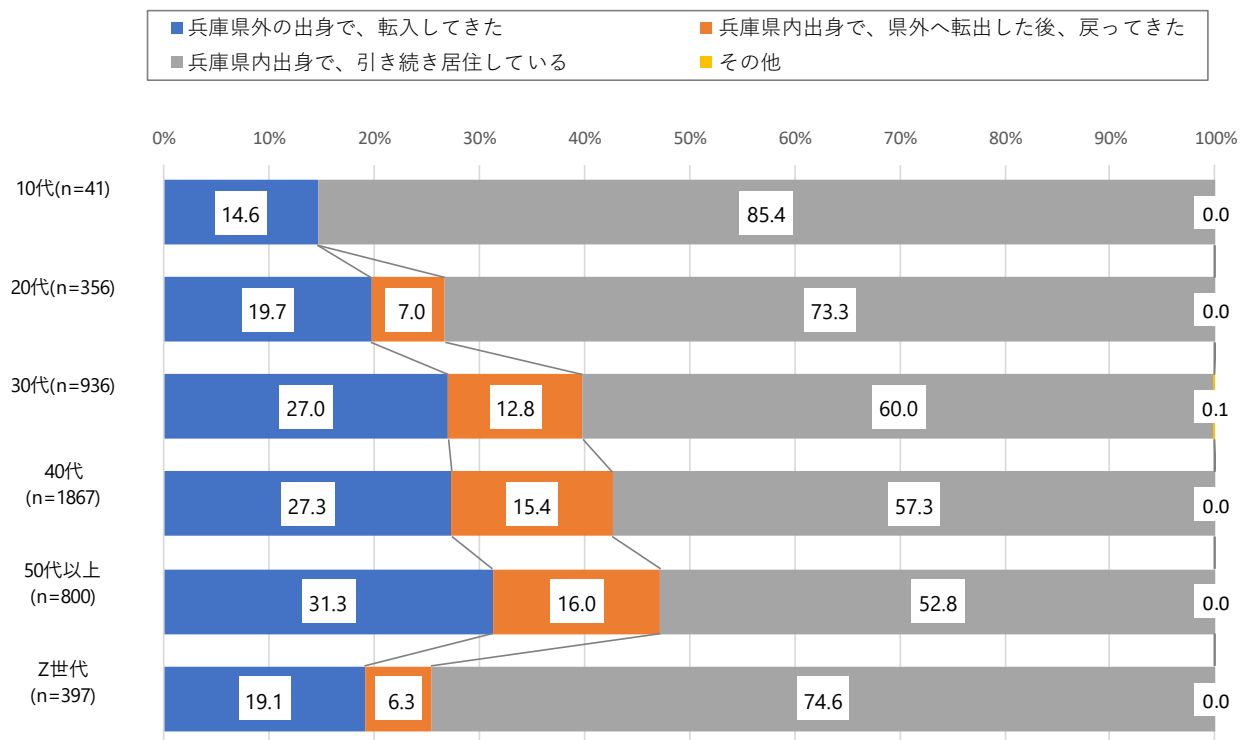
#### ■ 兵庫県での居住経験（性別）



### 【兵庫県での居住経験（年代別）】

・年代が上がるにつれて、「兵庫県外の出身で、転入してきた」の割合が大きくなっている。また、「兵庫県内出身で、引き続き居住している」では年代が上がるにつれて、割合が小さくなっている。

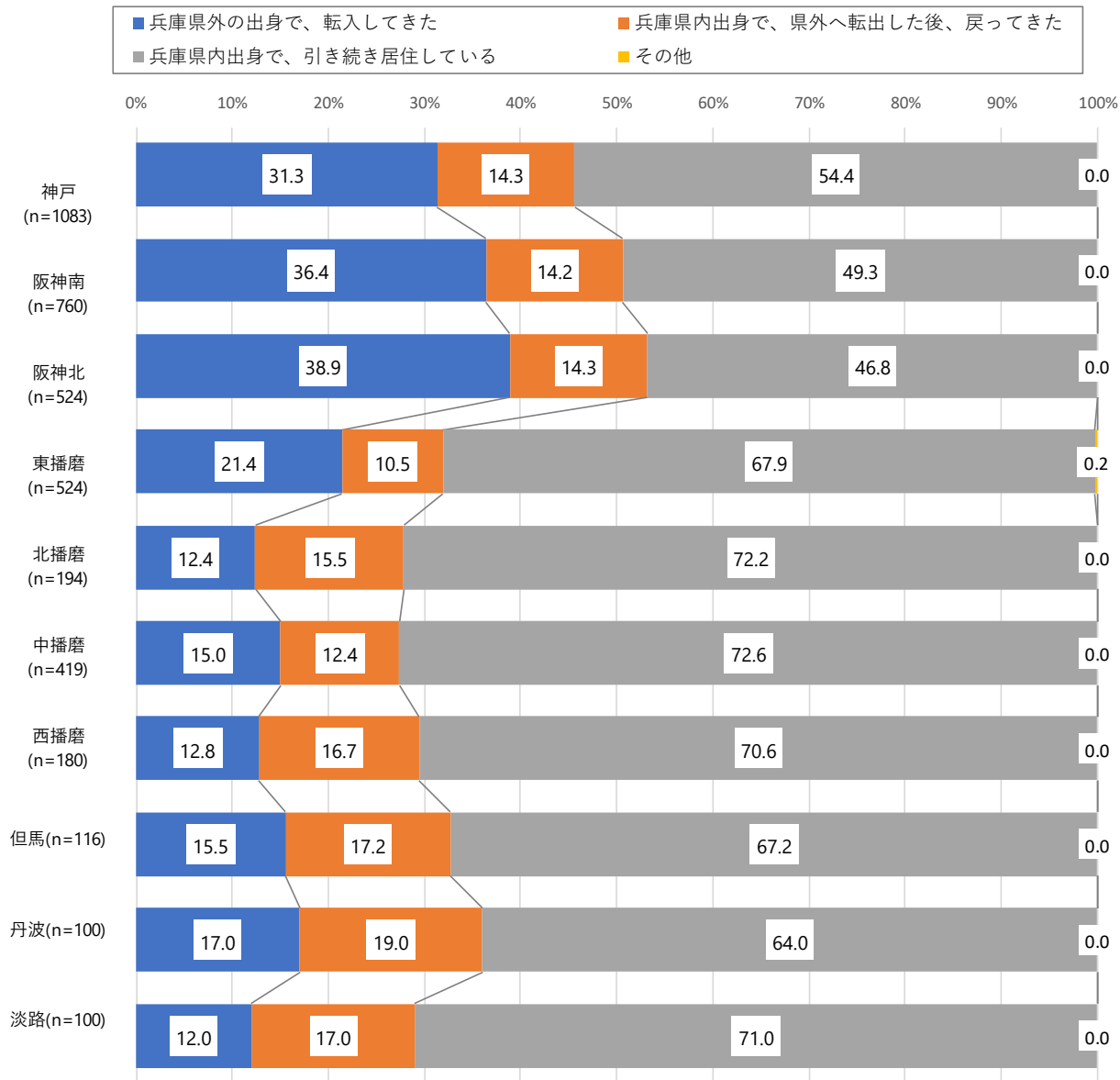
#### ■ 兵庫県での居住経験（年代別）



【兵庫県での居住経験（地域別）】

・阪神南と阪神北、神戸では「兵庫県外の出身で、転入してきた」がそれぞれ3割以上を占め、他の地域に比べて割合が高くなっている。

■ 兵庫県での居住経験（地域別）



## (5) 兵庫県に転入したきっかけ

【U・Iターンしている方のみ】※Q1で「1または2」を選択した方

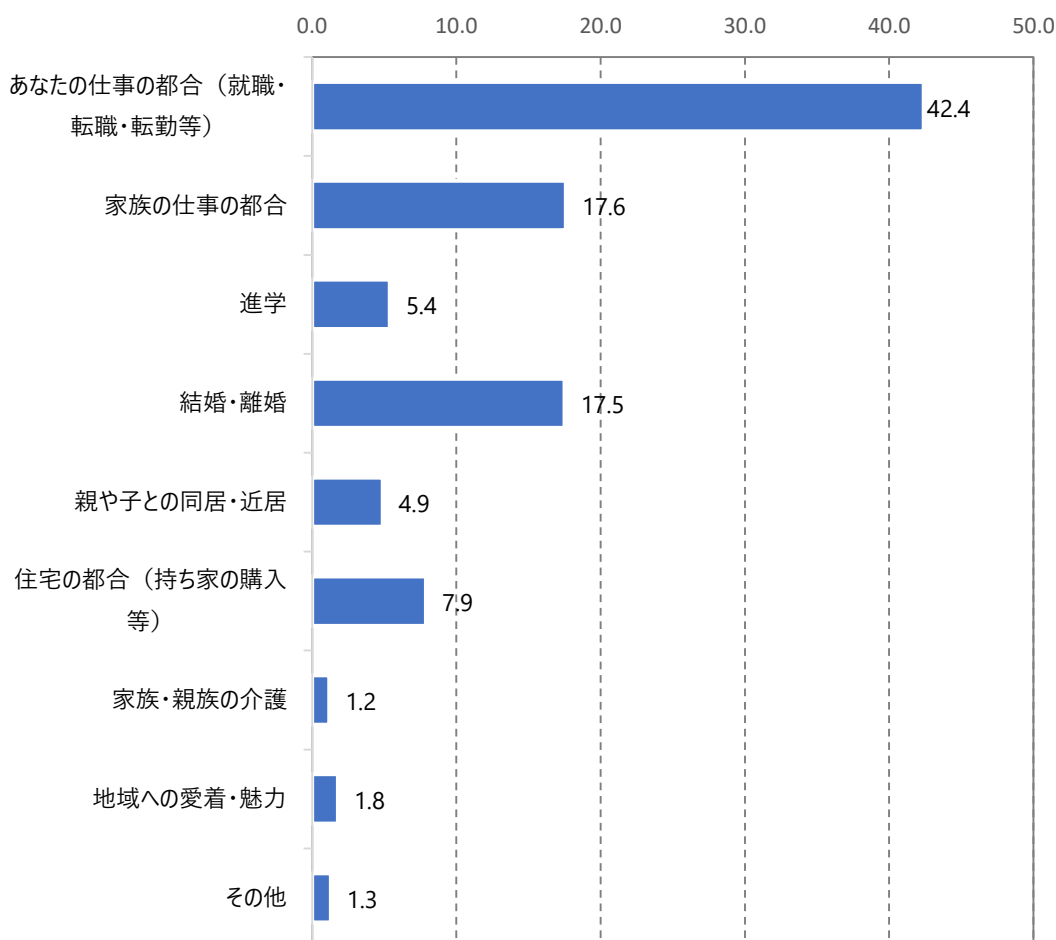
Q2 兵庫県に転入したきっかけについて、教えてください。（1つ選択）

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| 1. あなたの仕事の都合（就職・転職・転勤等） | 2. 家族の仕事の都合       |
| 3. 進学                   | 4. 結婚・離婚          |
| 5. 親や子との同居・近居           | 6. 住宅の都合（持ち家の購入等） |
| 7. 家族・親族の介護             | 8. 地域への愛着・魅力      |
| 9. その他（ ）               |                   |

### 【兵庫県に転入したきっかけ（全体）】

・兵庫県に転入したきっかけは「あなたの仕事の都合（就職・転職・転勤等）」が42.4%と最も割合が高く、以下、「家族の仕事の都合」（17.6%）、「結婚・離婚」（17.5%）、「住宅の都合（持ち家の購入等）」（7.9%）と続いている。

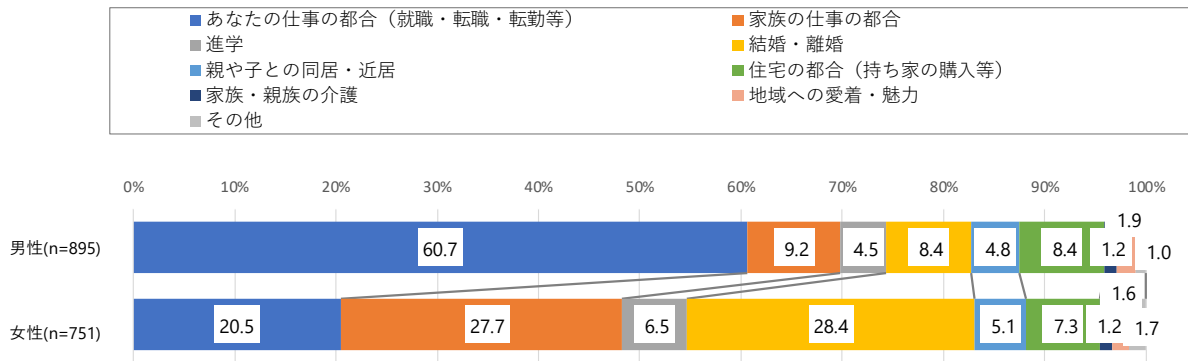
### ■ 兵庫県に転入したきっかけ（全体）（n=1,650）（%）



### 【兵庫県に転入したきっかけ（性別）】

- ・男性は「あなたの仕事の都合（就職・転職・転勤等）」が60.7%と6割を占めている。
- ・女性は「結婚・離婚」が28.4%と最も割合が高く、次いで「家族の仕事の都合」（27.7%）、「あなたの仕事の都合（就職・転職・転勤等）」（20.5%）と続いている。

### ■ 兵庫県に転入したきっかけ（性別）



### 【兵庫県に転入したきっかけ（年代別）】

- ・10代、20代、Z世代では、「進学」が約2割と他の年代に比べて割合が高くなっている。
- ・20～50代では年代が上がるにつれて、「住宅の都合（持ち家の購入等）」の割合が高くなっている。

### 【兵庫県に転入したきっかけ（地域別）】

- ・丹波と但馬では「結婚・離婚」がそれぞれ2割を超え（丹波：25.0%、但馬：23.7%）、阪神北では「住宅の都合（持ち家の購入等）」（19.7%）が他の居住区に比べてそれぞれ割合が高くなっている。
- ・全ての地域で「あなたの仕事の都合（就職・転職・転勤等）」が最も割合が高いが、丹波では2割台、阪神南と阪神北では3割台にとどまっている。

### 【兵庫県に転入したきっかけ（ライフステージ別（※区分についてはP.5参照））】

- ・独身者では「あなたの仕事の都合（就職・転職・転勤等）」が56.1%と他のライフステージに比べて特に割合が高くなっている。
- ・子供がいる層では、子供の成長が進むにつれて「住宅の都合（持ち家の購入等）」の割合が比較的高くなっている。

■ 兵庫県に転入したきっかけ（年代別、地域別、ライフステージ別）

		全 体	職 ・ 転 勤 等 )	あ な た の 仕 事 の 都 合 ( 就 職 ・ 転 )	家 族 の 仕 事 の 都 合	進 学	結 婚 ・ 離 婚	親 や 子 と の 同 居 ・ 近 居	住 宅 の 都 合 ( 持 ち 家 の 購 入 等 )	家 族 ・ 親 族 の 介 護	地 域 へ の 愛 着 ・ 魅 力	そ の 他
全 体		1650	42.4	17.6	5.4	17.5	4.9	7.9	1.2	1.8	1.3	
年代別	10代	6	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	
	20代	95	40.0	20.0	16.8	12.6	7.4	2.1	0.0	1.1	0.0	
	30代	373	42.6	19.6	5.4	19.3	5.4	4.6	1.1	1.6	0.5	
	40代	798	44.5	16.2	4.9	17.3	5.0	7.8	0.6	2.3	1.5	
	50代以上	378	38.6	18.3	3.4	17.5	3.7	12.4	2.9	1.1	2.1	
	Z世代	101	38.6	19.8	16.8	12.9	6.9	4.0	0.0	1.0	0.0	
地域別	神戸	494	47.0	18.2	7.3	14.6	4.9	4.5	1.0	1.4	1.2	
	阪神南	385	35.6	21.3	5.2	19.7	4.4	9.1	0.8	2.3	1.6	
	阪神北	279	31.5	19.0	2.2	19.7	4.3	19.7	1.1	1.1	1.4	
	東播磨	167	44.3	21.6	3.6	18.0	4.8	4.2	0.6	2.4	0.6	
	北播磨	54	53.7	7.4	7.4	13.0	9.3	9.3	0.0	0.0	0.0	
	中播磨	115	55.7	8.7	7.8	14.8	5.2	1.7	1.7	2.6	1.7	
	西播磨	53	56.6	11.3	1.9	17.0	1.9	1.9	7.5	0.0	1.9	
	但馬	38	55.3	5.3	7.9	23.7	2.6	0.0	0.0	2.6	2.6	
	丹波	36	27.8	13.9	5.6	25.0	11.1	8.3	2.8	2.8	2.8	
	淡路	29	48.3	10.3	6.9	17.2	10.3	0.0	3.4	3.4	0.0	
ライフステージ別	独身者	451	56.1	18.4	8.9	1.3	5.8	4.4	1.8	1.8	1.6	
	夫婦のみ	242	38.8	17.4	4.5	23.1	3.3	7.9	2.1	1.2	1.7	
	ベビーファミリー層	285	37.2	15.8	6.0	26.0	7.0	4.9	0.4	2.1	0.7	
	ヤングファミリー層	235	38.7	15.3	3.4	26.0	6.0	7.7	0.9	1.7	0.4	
	ファミリー層	437	35.5	19.5	3.0	21.1	3.0	13.5	0.9	1.8	1.8	

## (6) 職業

### 【全員】

Q3 あなたの職業を教えてください。(1つ選択)

- |                      |                               |
|----------------------|-------------------------------|
| 1. 会社員・公務員 (正規社員・職員) | 2. 会社員・公務員 (契約社員・嘱託社員・派遣社員など) |
| 3. 自営業・自由業           | 4. パート・アルバイト                  |
| 5. 専業主婦 (夫)          | 6. 無職                         |
| 7. 求職中               | 8. 病気療養中                      |
| 9. 学生                | 10. その他 (具体的に : )             |

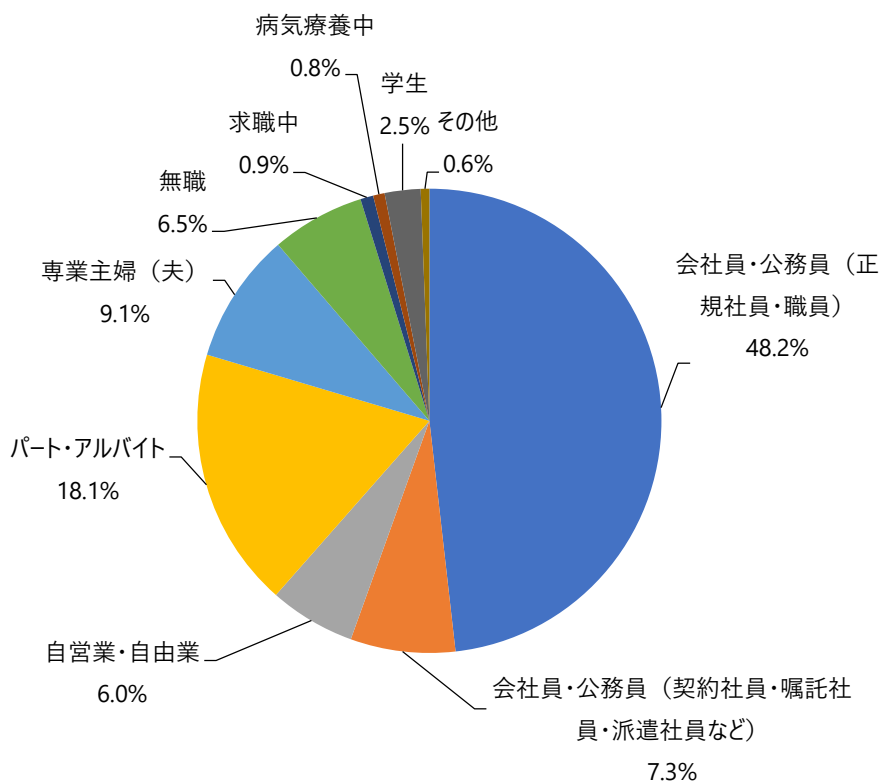
### 【職業 (全体)】

・職業は「会社員・公務員 (正規社員・職員)」が 48.2%と最も割合が高く、以下、「パート・アルバイト」(18.1%)、「専業主婦 (夫)」(9.1%)、「会社員・公務員 (契約社員・嘱託社員・派遣社員など)」(7.3%)と続いている。

・働いて収入を得ている人 (以下、有職者【※】) はあわせて 79.6%となっており、おおよそ全体の 8 割を占めている。

【※】“有職者”とは、ここでは「会社員・公務員 (正規社員・職員)」、「会社員・公務員 (契約・嘱託・派遣など)」、「自営業・自由業」、「パート・アルバイト」が含まれる

### ■ 職業 (全体) (n=4,000)



### 【職業 (性別)】

- ・男性は「会社員・公務員 (正規社員・職員)」が 66.9%と約 7 割を占めている。
- ・女性は「会社員・公務員 (正規社員・職員)」が 29.7%と最も割合が高く、次いで「パート・アルバイト」(29.4%)、「専業主婦 (夫)」(17.9%)と続いている。
- ・男性の“有職者”は 87.6%となっており、女性 (71.8%) と比べて割合が高くなっている。

### 【職業 (年代別)】

- ・30代、40代では「会社員・公務員 (正社員・職員)」がそれぞれ半数 (30代 : 53.5%、40代 : 55.9%) を占めている。
- ・20代以上 (Z世代含む) で「パート・アルバイト」が 1 割を超えている。

【職業（地域別）】

・丹波と西播磨では「パート・アルバイト」（丹波：24.0%、西播磨：23.9%）が、但馬では「無職」（10.3%）が他の地域に比べてそれぞれ割合が高くなっている。

■ 職業（性別、年代別、地域別）

		全 体	会 社 員 ・ 公 務 員 （ 正 規 社 員 ・ 職 員 ）	会 社 員 ・ 公 務 員 （ 契 約 社 員 ・ 嘱 託 社 員 ・ 派 遣 社 員 な ど ）	自 営 業 ・ 自 由 業	パ ー ト ・ ア ル バ イ ト	専 業 主 婦 （ 夫 ）	無 職	求 職 中	病 気 療 養 中	学 生	そ の 他
全 体		4000	48.2	7.3	6.0	18.1	9.1	6.5	0.9	0.8	2.5	0.6
性別	男性	1991	66.9	5.5	8.5	6.7	0.2	8.6	0.9	0.7	1.4	0.7
	女性	1995	29.7	9.1	3.6	29.4	17.9	4.4	0.9	1.0	3.5	0.6
年代別	10代	41	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	97.6	0.0
	20代	356	47.5	6.2	1.7	16.9	3.9	5.9	0.6	0.3	16.9	0.3
	30代	936	53.5	6.9	3.8	19.9	9.4	4.2	1.1	0.9	0.0	0.3
	40代	1867	55.9	7.3	6.7	17.5	6.7	3.3	1.0	0.9	0.0	0.6
	50代以上	800	26.9	8.5	9.1	18.9	16.8	17.3	0.6	0.8	0.0	1.3
	Z世代	397	42.6	5.5	1.5	15.4	3.5	5.3	0.5	0.3	25.2	0.3
地域別	神戸	1083	48.4	6.9	6.6	17.3	8.8	7.4	0.6	0.8	2.4	0.9
	阪神南	760	48.7	8.8	5.8	16.6	9.9	5.7	0.7	0.9	2.5	0.5
	阪神北	524	47.3	7.1	6.1	17.7	11.1	5.2	1.0	0.8	3.1	0.8
	東播磨	524	51.0	8.0	4.4	17.6	6.5	6.9	1.3	1.0	2.9	0.6
	北播磨	194	45.9	6.2	7.2	22.7	10.8	4.1	0.5	1.0	1.5	0.0
	中播磨	419	47.0	6.9	7.2	20.0	9.5	6.2	0.2	0.5	2.1	0.2
	西播磨	180	45.0	5.6	5.0	23.9	7.8	7.2	1.7	0.0	3.3	0.6
	但馬	116	47.4	6.0	3.4	16.4	8.6	10.3	2.6	0.9	2.6	1.7
	丹波	100	48.0	5.0	7.0	24.0	5.0	7.0	2.0	1.0	1.0	0.0
	淡路	100	50.0	7.0	7.0	13.0	10.0	7.0	3.0	1.0	2.0	0.0





【家族構成（性別）】

- ・男性は「1人暮らし」が18.6%と女性（14.0%）と比べて割合が高くなっている。
- ・一方、女性は「あなた・子ども」が5.4%と男性（0.7%）に比べて割合が高くなっている。

【家族構成（年代別）】

- ・10代では「あなた・親」が82.9%と最も割合が高くなっているが、20代で45.2%、30代では22.2%と、年代が上がるにつれてその割合は低くなっている。
- ・30～40代は「あなた・配偶者・子ども」が最も割合が高く、4割を占めている。
- ・50代以上は「あなた・配偶者」が35.1%となっており、他の年代に比べて割合が高くなっている。

【家族構成（地域別）】

- ・阪神北と淡路では「あなた・配偶者・子ども」が40%以上となっており、他の地域に比べて割合が高くなっている。

■ 家族構成（性別、年代別、地域別）

		回答者数 (n)	1人暮らし	あなた・配偶者	あなた・配偶者・子ども	あなた・配偶者・親	あなた・配偶者・子ども・親	あなた・子ども	あなた・親	あなた・子ども・親	その他
全体		4000	16.4	16.6	35.0	2.1	2.9	3.0	20.8	1.0	2.3
性別	男性	1991	18.6	17.2	36.0	2.3	3.2	0.7	20.1	0.3	1.6
	女性	1995	14.0	15.9	34.1	1.9	2.6	5.4	21.5	1.7	3.0
年代別	10代	41	2.4	0.0	0.0	7.3	0.0	0.0	82.9	0.0	7.3
	20代	356	19.7	11.0	12.1	2.0	1.1	1.1	45.2	0.8	7.0
	30代	936	15.0	11.9	40.9	2.5	2.4	2.4	22.2	1.3	1.6
	40代	1867	15.6	12.4	41.2	1.5	3.6	3.1	19.3	1.2	2.0
	50代以上	800	19.1	35.1	25.5	2.6	2.8	4.5	8.6	0.3	1.5
	Z世代	397	17.9	9.8	10.8	2.5	1.0	1.0	49.1	0.8	7.1
地域別	神戸	1083	21.2	18.5	33.4	1.2	1.9	3.0	18.4	0.6	1.8
	阪神南	760	19.9	17.8	33.0	1.3	2.2	2.9	18.8	0.9	3.2
	阪神北	524	11.6	16.0	40.5	2.3	3.4	2.5	20.2	1.0	2.5
	東播磨	524	12.8	14.1	36.3	2.3	2.1	4.6	24.2	1.0	2.7
	北播磨	194	12.9	12.4	38.1	2.6	5.7	2.1	21.6	1.5	3.1
	中播磨	419	13.4	19.3	32.5	2.9	3.6	4.5	22.2	1.0	0.7
	西播磨	180	9.4	11.7	36.1	2.2	6.1	0.6	28.9	2.2	2.8
	但馬	116	17.2	14.7	27.6	3.4	5.2	1.7	26.7	0.9	2.6
	丹波	100	15.0	13.0	31.0	5.0	4.0	3.0	24.0	2.0	3.0
	淡路	100	13.0	13.0	47.0	5.0	2.0	0.0	16.0	2.0	2.0

## (8) 未既婚

【全員】

Q5 あなたは現在、結婚（いわゆる事実婚を含む）していますか？（1つ選択）

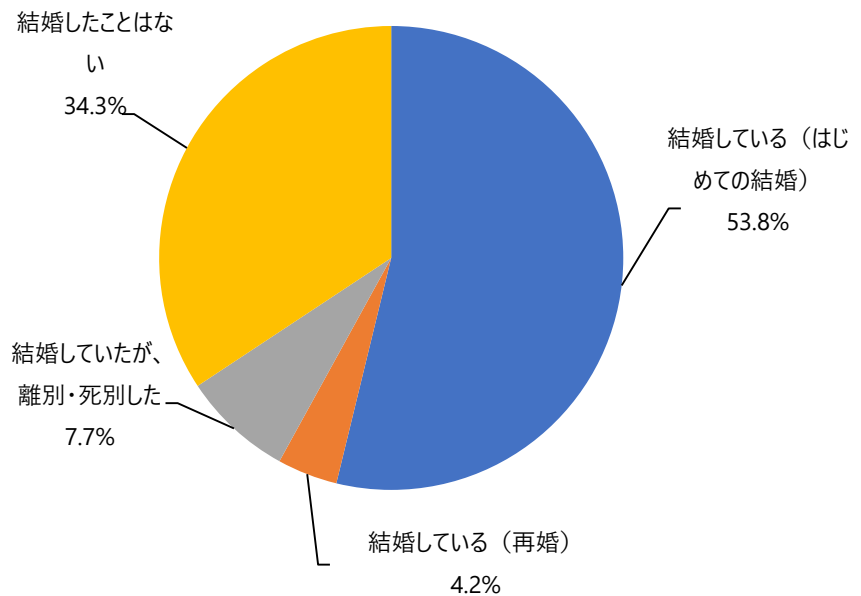
- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| 1. 結婚している（はじめての結婚） | 2. 結婚している（再婚） |
| 3. 結婚していたが、離別・死別した | 4. 結婚したことはない  |

### 【未既婚（全体）】

・未既婚をみると、「結婚している（はじめての結婚）」が53.8%と最も割合が高く、次いで「結婚したことはない」が34.3%で続く。

・“現在、結婚している人”（はじめての結婚+再婚）はあわせて58.0%となっており、“現在、結婚していない人”（離別・死別した+結婚したことはない）はあわせて42.0%となっている。

### ■ 未既婚（全体）（n=4,000）

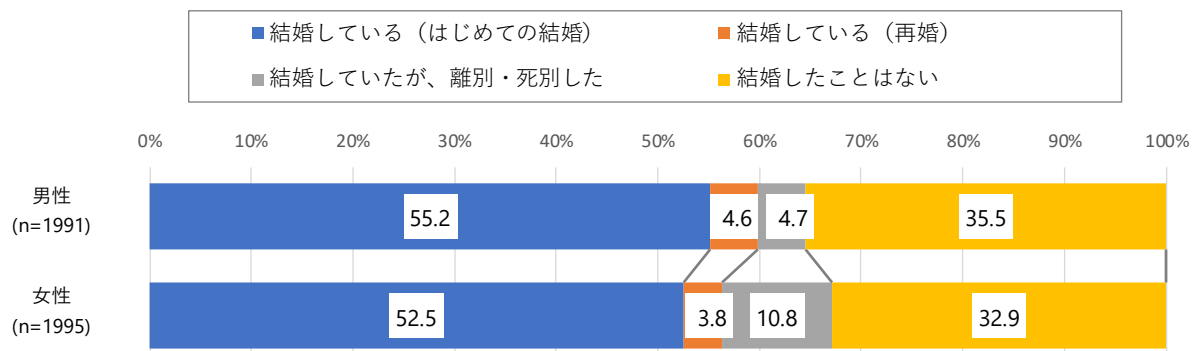


### 【未既婚（性別）】

・男性は“現在、結婚している人”が59.8%、“現在、結婚していない人”は40.2%となっており、結婚している人が約2割高くなっている。

・また、女性は“現在、結婚している人”が56.3%となっており、男女比ではほぼ差がない。

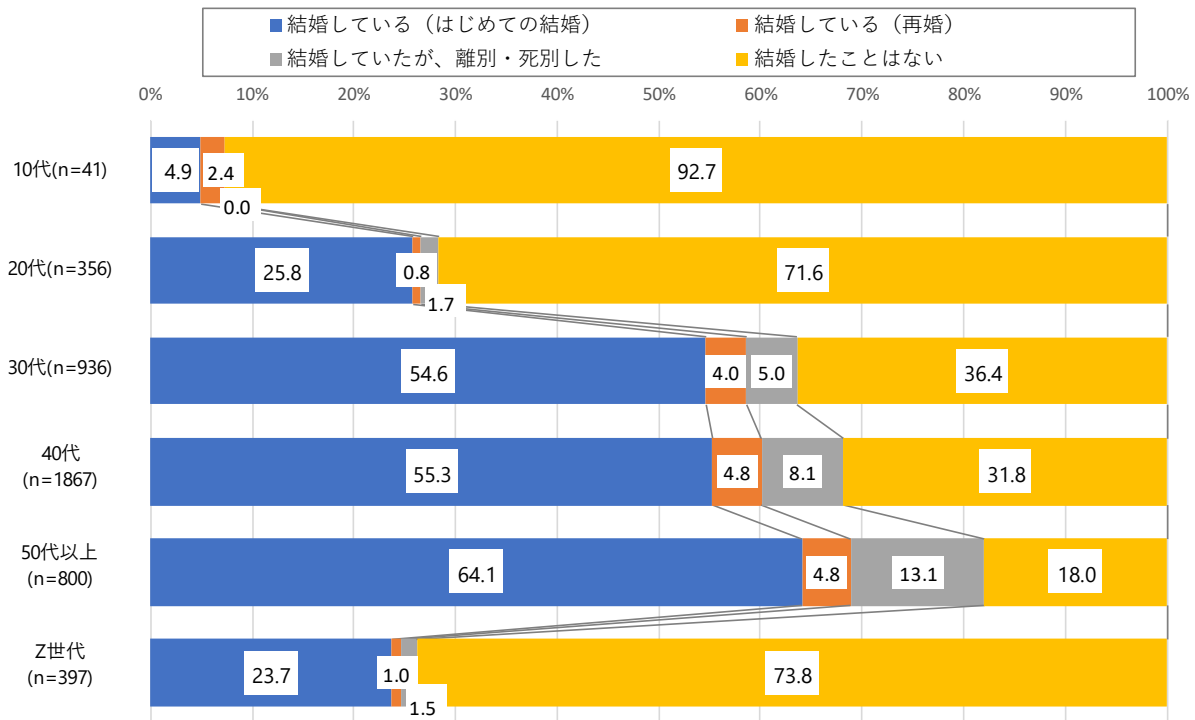
### ■ 未既婚（性別）



【未既婚（年代別）】

・年代が高くなるにつれて“現在、結婚している人”の割合は高くなる傾向にあり、30～40代では半数以上、50代では6割超となっている。

■ 未既婚（年代別）

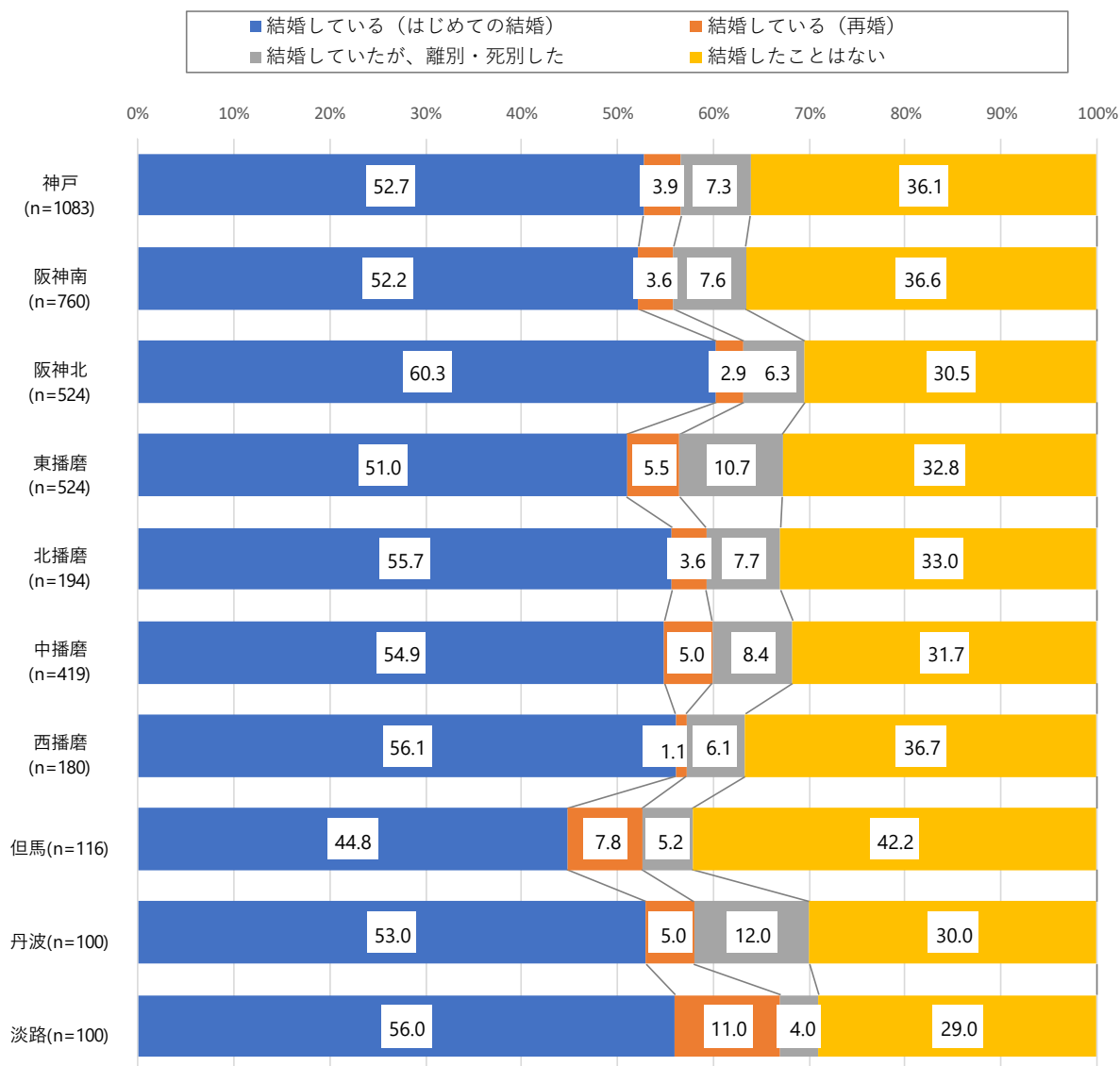


## 【地域別】

・但馬を除く地域で「結婚している（はじめての結婚）」が半数以上となっており、阪神北では 60.3% と他の地域に比べて比較的高くなっている。

・一方、但馬では「結婚している（はじめての結婚）」が 44.8% と半数を下回り、他の地域に比べて低くなっている。

## ■ 未既婚（地域別）





【配偶者の就業状況（年代別）】

・20～50代（Z世代含む）では「会社員・公務員（正規社員・職員）」が最も高く、20代と30代、Z世代では7割を超えている。

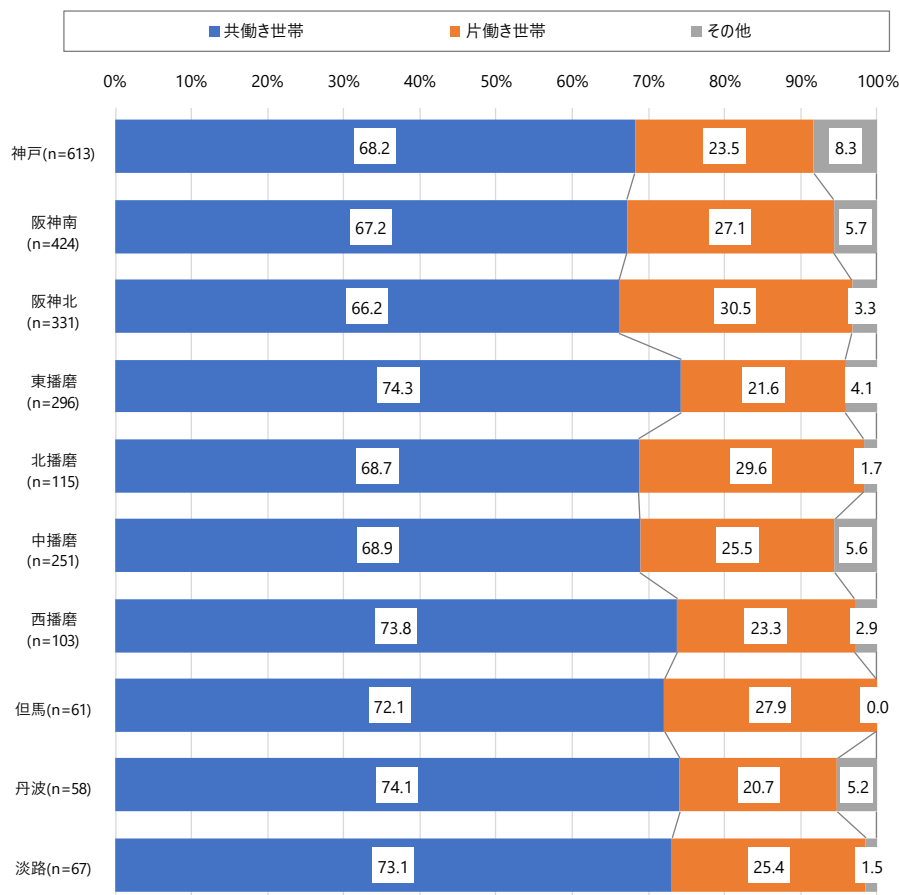
■ 配偶者の就業状況（年代別）

		全体	会社員・公務員（正規社員・職員）	会社員・公務員・派遣社員・嘱託社員（契約社員など）	自営業・自由業	パート・アルバイト	専業主婦（夫）	無職	学生	その他
全体		2319	54.5	4.3	5.8	18.4	11.6	4.8	0.1	0.4
年代別	10代	3	-	-	33.3	33.3	-	-	33.3	-
	20代	95	72.6	1.1	4.2	12.6	4.2	4.2	1.1	-
	30代	548	70.3	2.6	5.7	12.0	8.2	1.1	0.2	-
	40代	1122	56.7	3.7	5.3	22.1	9.9	2.0	-	0.4
	50代以上	551	31.8	7.8	7.1	18.1	19.8	14.3	-	1.1
	Z世代	98	70.4	1.0	5.1	13.3	4.1	4.1	2.0	-

【夫婦の就業状況（地域別）】

・全ての地域で「共働き世帯」がおおむね3分の2を占めている。

■ 夫婦の就業状況（地域別）



【夫婦の就業状況別にみた世帯年収】

・共働き世帯では“600万円以上”があわせて53.7%となっており、片働き世帯（39.9%）と比べて高くなっている。

■夫婦の就業状況別にみた世帯年収 (%)

	回答者数 (n)	20万円未満	20万円～40万円未満	40万円～60万円未満	60万円～80万円未満	80万円～100万円未満	100万円～150万円未満	150万円以上	わからない
全体	2319	2.5	12.6	21.5	21.0	15.0	11.9	15.4	
共働き世帯	1606	2.2	9.4	20.5	23.3	17.1	13.3	14.1	
片働き世帯	592	1.9	13.3	25.8	17.9	12.0	10.0	19.1	
その他	121	9.9	51.2	14.0	5.0	2.5	2.5	14.9	

## (10) 世帯年収

【既婚者のみ】

Q7

※Q5で「1または2」を選択した方

あなたの世帯年収（あなたと配偶者の合算）をお聞かせください。（1つ選択）

- |                |                  |                |
|----------------|------------------|----------------|
| 1. 200万円未満     | 2. 200～400万円未満   | 3. 400～600万円未満 |
| 4. 600～800万円未満 | 5. 800～1,000万円未満 | 6. 1,000万円以上   |
| 7. わからない       |                  |                |

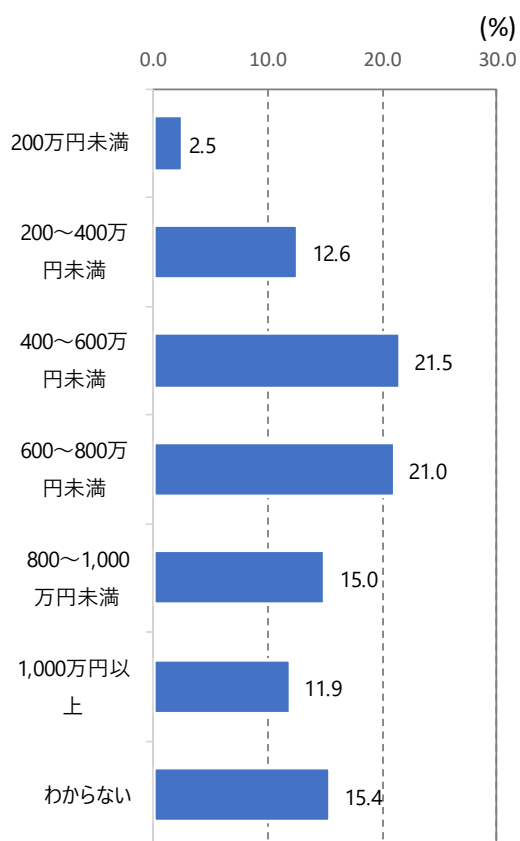
### 【世帯年収（全体）】

- ・世帯年収は「400～600万円未満」が21.5%と最も高く、次いで「600～800万円未満」（21.0%）、「800～1,000万円未満」（15.0%）と続き、以下、「200～400万円未満」（12.6%）、「1,000万円以上」（11.9%）、「200万円未満」（2.5%）となっている。
- ・“600万円以上”をあわせると47.9%となっており、およそ半数を占める。

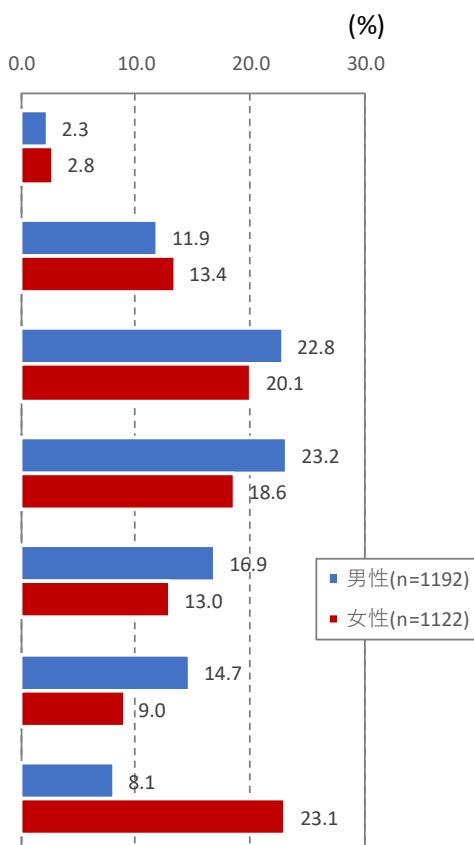
### 【世帯年収（性別）】

- ・男性は“600万円以上”が54.8%となっており、女性（40.6%）と比べて高くなっている。

■ 世帯年収（全体）（n=2,319）



■ 世帯年収（性別）





【世帯年収（年代別）】

- ・20～40代（Z世代含む）では「400～600万円未満」と「600～800万円未満」が2割台で高く、50代以上では「200～400万円未満」が21.6%と最も高くなっている。
- ・また、40代では「800～1,000万円未満」が17.6%と他の年代に比べて比較的高くなっている。

【地域別】

- ・但馬では「200～400万円未満」が29.5%で他の地域と比べて高くなっている。
- ・また、阪神南と阪神北では「1,000万円以上」（阪神南：17.5%、阪神北：15.4%）が、他の地域に比べて比較的高くなっている。

■ 世帯年収（年代別、地域別） (％)

		回答者数 (n)	200万円未満	200～400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1,000万円未満	1,000万円以上	わからない
全体		2319	2.5	12.6	21.5	21.0	15.0	11.9	15.4
年代別	10代	41	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
	20代	356	4.2	17.9	25.3	21.1	13.7	2.1	15.8
	30代	936	2.0	8.6	25.5	25.4	14.4	10.4	13.7
	40代	1867	2.0	9.6	20.7	21.4	17.6	13.7	15.0
	50代以上	800	4.0	21.6	18.7	16.0	10.7	11.4	17.6
	Z世代	397	4.1	18.4	24.5	20.4	13.3	2.0	17.3
地域別	神戸	1083	2.1	13.9	20.7	19.6	15.8	13.5	14.4
	阪神南	760	1.4	9.4	19.3	18.9	17.9	17.5	15.6
	阪神北	524	1.2	9.7	24.2	22.7	12.4	15.4	14.5
	東播磨	524	3.7	13.5	21.3	23.0	16.6	8.8	13.2
	北播磨	194	4.3	8.7	16.5	24.3	16.5	12.2	17.4
	中播磨	419	2.4	11.6	25.1	21.5	15.5	7.6	16.3
	西播磨	180	4.9	16.5	28.2	25.2	8.7	3.9	12.6
	但馬	116	4.9	29.5	9.8	18.0	13.1	3.3	21.3
	丹波	100	5.2	19.0	25.9	17.2	10.3	3.4	19.0
	淡路	100	4.5	14.9	22.4	22.4	7.5	1.5	26.9

## (11) 個人年収

【独身者のみ】

Q7

※Q5で「3または4」を選択した方

あなた個人の年収をお聞かせください。(1つ選択)

- |                |                  |                |
|----------------|------------------|----------------|
| 1. 200万円未満     | 2. 200～400万円未満   | 3. 400～600万円未満 |
| 4. 600～800万円未満 | 5. 800～1,000万円未満 | 6. 1,000万円以上   |
| 7. わからない       |                  |                |

### 【個人年収（全体）】

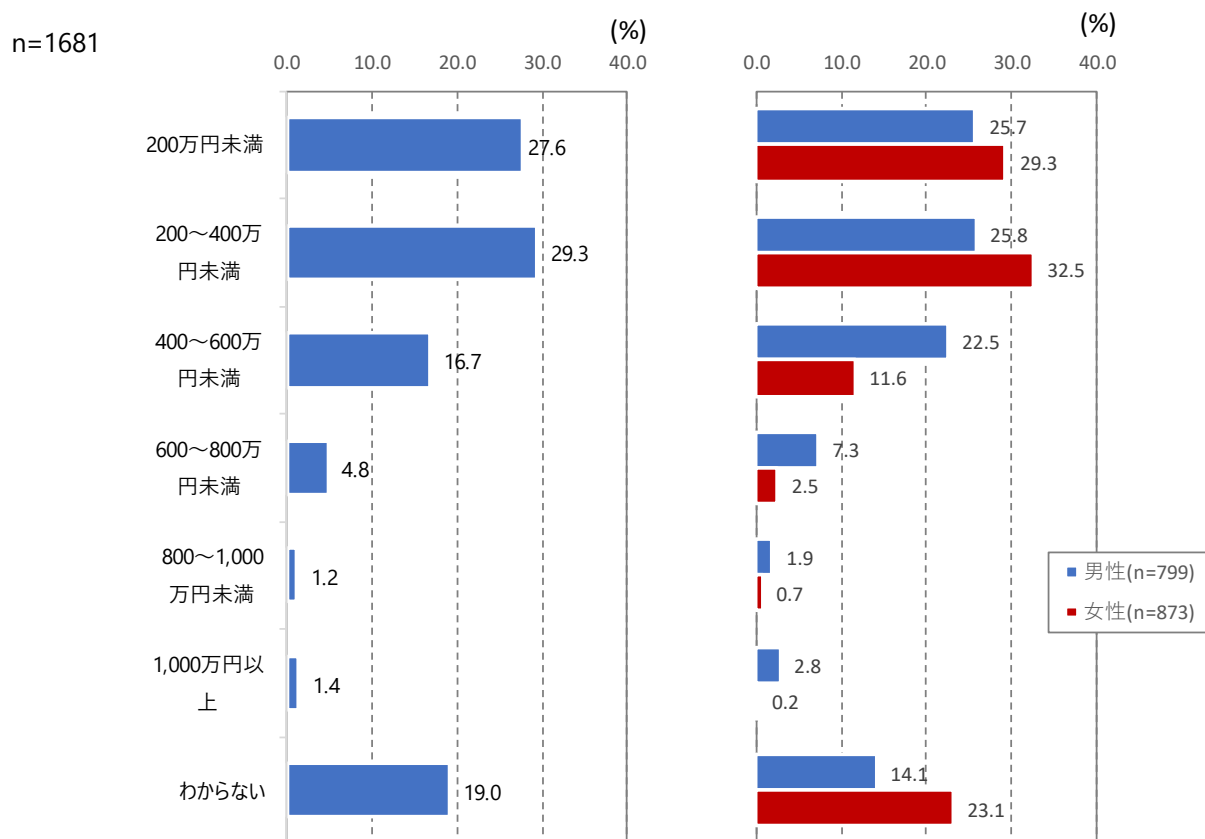
- ・個人年収は「200～400万円未満」が29.3%と最も高く、次いで「200万円未満」(27.6%)と続き、以下、「400～600万円未満」(16.7%)、「600～800万円未満」(4.8%)となっている。
- ・“600万円以上”をあわせると7.4%となっており、1割に満たない。

### 【個人年収（性別）】

- ・男性は“600万円以上”が12.0%となっており、女性(3.4%)と比べて高くなっている。

■ 個人年収（全体）(n=1,681)

■ 個人年収（性別）



【個人年収（年代別）】

- ・10～20代（Z世代含む）、50代以上では「200万円未満」が3割台で高く、30～40代では「200～400万円未満」が30%前後で高くなっている。
- ・また、40代では「400～600万円未満」が20.5%と他の年代に比べて比較的高くなっている。

【地域別】

- ・阪神北、東播磨、北播磨、西播磨、但馬、淡路では「200万円未満」が3割台と他の地域と比べて高くなっている。

■ 個人年収（年代別、地域別）

(%)

		回答者数 (n)	200万円未満	200万円～400万円未満	400万円～600万円未満	600万円～800万円未満	800万円～1,000万円未満	1,000万円以上	わからない
全体		1681	27.6	29.3	16.7	4.8	1.2	1.4	19.0
年代別	10代	38	39.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.5
	20代	261	35.6	28.7	9.2	2.3	0.4	1.1	22.6
	30代	388	25.0	32.0	18.3	4.6	1.5	0.8	17.8
	40代	745	23.1	29.3	20.5	6.4	1.7	1.6	17.3
	50代以上	249	34.9	30.1	13.3	3.2	0.4	2.4	15.7
	Z世代	299	36.1	25.1	8.0	2.0	0.3	1.0	27.4
地域別	神戸	470	26.4	30.0	18.7	5.3	2.1	2.6	14.9
	阪神南	336	23.5	30.7	19.6	4.5	1.5	0.6	19.6
	阪神北	193	31.1	26.9	13.0	7.3	0.5	1.0	20.2
	東播磨	228	31.1	25.4	17.5	5.3	1.3	1.8	17.5
	北播磨	79	31.6	31.6	8.9	1.3	0.0	2.5	24.1
	中播磨	168	25.0	32.1	15.5	3.6	0.6	1.2	22.0
	西播磨	77	32.5	32.5	14.3	3.9	0.0	0.0	16.9
	但馬	55	30.9	23.6	9.1	5.5	0.0	0.0	30.9
	丹波	42	23.8	28.6	16.7	2.4	2.4	0.0	26.2
	淡路	33	33.3	27.3	18.2	0.0	0.0	0.0	21.2

## (12) 子どもの人数

### 【全員】

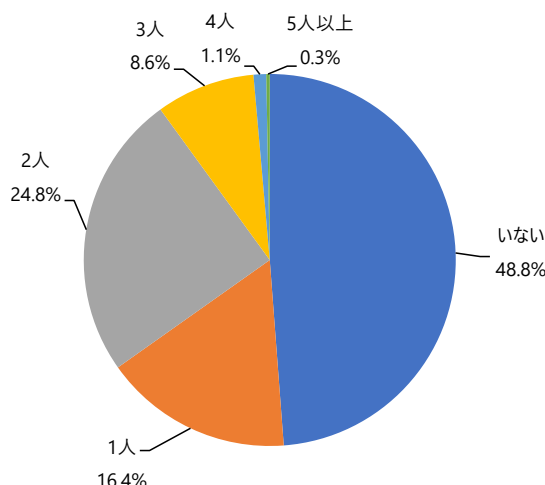
Q8 あなたには子どもが何人いますか（同居・別居含む）。（1つ選択）

1. いない 2. 1人 3. 2人 4. 3人 5. 4人 6. 5人以上

### 【子どもの人数（全体）】

- ・子どもが“いる”人が51.2%と半数以上を占めており、子どもが「いない」人の48.8%よりもやや高くなっている。
- ・子どもが“いる”人の内訳は、「2人」が24.8%、「1人」が16.4%と続き、“3人以上”はあわせて10.0%となっている。

### ■ 子どもの人数（全体）（n=4,000）



### 【子どもの人数（年代別）】

- ・子どもが「いない」人は年代が低い層ほど割合が高く、年代があがるにつれて子どもが“いる”人が高くなっている。
- ・また、子どもが“2人以上いる”人は、20代で5.6%、30代は29.4%、40代は36.7%、50代では51.1%と年代が上がるにつれて高くなっている。

### 【子どもの人数（地域別）】

- ・神戸や阪神南、但馬では「いない」が半数以上を占めており、比較的割合が高くなっている。
- ・西播磨や丹波、淡路で“2人以上”子どもがいる世帯をあわせると、それぞれ40%程度みられ、比較的割合が高くなっている。
- ・また、丹波では“3人以上”があわせて17.0%となっており、他の地域に比べて多子世帯の割合が高くなっている。

### 【子どもの人数（夫婦の就業状況別）】

- ・共働き世帯では、子どもが「いない」が22.6%となっており、片働き世帯の17.9%と比べて割合が高くなっている。
- ・一方、片働き世帯では子どもは「1人」が30.4%となっており、共働き世帯の22.6%と比べて割合が高くなっている。

### 【子どもの人数（世帯年収別）】

- ・世帯年収が多いほど“2人以上”子どもがいる傾向にあり、800万円以上では5割を超えている。
- ・一方、200万円未満では子どもは「いない」が79.9%と最も割合が高くなっている。

■ 子どもの人数（年代別、地域別、世帯年収別、夫婦の就業状況別）

(%)

		回答者数 (n)	いない	1人	2人	3人	4人	5人以上
全体		4000	48.8	16.4	24.8	8.6	1.1	0.3
年代別	10代	41	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	356	83.7	10.7	5.3	0.3	0.0	0.0
	30代	936	51.4	19.1	21.0	6.9	0.9	0.6
	40代	1867	46.8	16.4	26.0	9.2	1.3	0.2
	50代以上	800	32.3	16.6	36.4	13.1	1.5	0.1
	Z世代	397	85.4	9.6	4.8	0.3	0.0	0.0
地域別	神戸	1083	51.4	16.5	23.9	7.1	0.8	0.2
	阪神南	760	53.2	17.8	20.4	7.9	0.4	0.4
	阪神北	524	42.7	20.4	27.5	8.2	1.0	0.2
	東播磨	524	46.2	16.0	27.3	9.0	1.1	0.4
	北播磨	194	45.4	14.9	24.7	12.9	2.1	0.0
	中播磨	419	48.4	11.9	26.7	11.2	1.7	0.0
	西播磨	180	47.8	12.2	28.9	10.0	0.0	1.1
	但馬	116	53.4	14.7	23.3	7.8	0.0	0.9
	丹波	100	46.0	14.0	23.0	11.0	6.0	0.0
	淡路	100	40.0	19.0	30.0	6.0	5.0	0.0
世帯年収別	200万円未満	523	79.9	8.0	7.6	3.8	0.4	0.2
	200～400万円未満	784	60.3	13.9	18.2	6.4	0.9	0.3
	400～600万円未満	780	44.5	17.4	27.7	8.2	1.7	0.5
	600～800万円未満	567	28.7	21.5	36.3	10.9	2.3	0.2
	800～1,000万円未満	370	23.2	23.5	38.6	13.0	1.1	0.5
	1,000万円以上	300	23.7	23.3	35.7	16.3	1.0	0.0
	わからない	676	58.3	13.3	20.4	7.4	0.4	0.1
夫婦の就業状況別	共働き世帯	1606	22.6	22.6	38.5	14.1	1.9	0.3
	片働き世帯	592	17.9	30.4	38.0	11.8	1.2	0.7
	その他	121	19.8	15.7	52.1	11.6	0.8	0.0

### (13) 子どもの年齢

【子どもがいる方のみ】※ Q8で「2～6」を選択した方

Q9 あなたには次の年齢に該当する子どもがいますか？それぞれひとつずつ

お答えください。(各1つ選択)

- |            |            |          |
|------------|------------|----------|
| ①就学前(0～2歳) | ②就学前(3～6歳) | ③小学1～3年生 |
| ④小学4～6年生   | ⑤中学生       | ⑥高校生     |
| ⑦大学生・専門学生  | ⑧社会人       | ⑨その他     |

1. いない 2. 1人 3. 2人 4. 3人 5. 4人 6. 5人以上

#### 【子どもの年齢(全体)】

・各年齢の子どもについて、1人でも“いる”と回答した割合をみると、「社会人」が29.1%と最も割合が高く、次いで「就学前(3～6歳)」が20.9%、「小学1～3年生」が19.7%と続いている。以下、「小学4～6年生」(18.8%)、「中学生」(18.3%)、「高校生」(16.7%)、「就学前(0～2歳)」(15.3%)、「大学生・専門学生」(13.5%)と続く。

#### ■ 子どもの年齢(全体)(n=2,048)

(%)

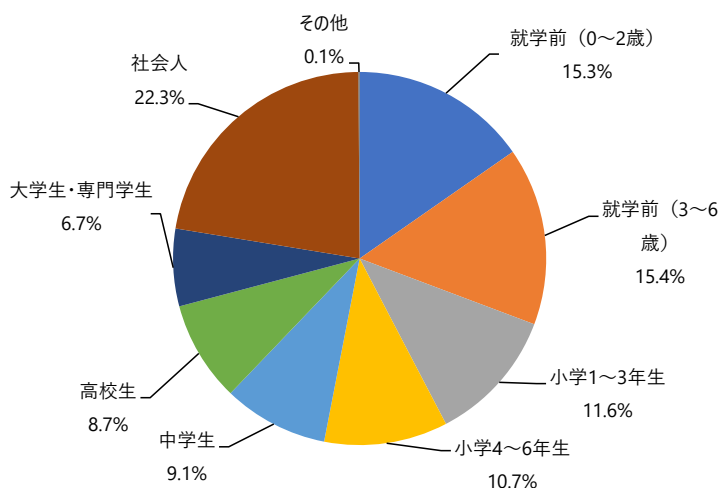
	いない	いる					
			1人	2人	3人	4人	5人以上
就学前(0～2歳)	84.7	15.3	13.7	1.7	0.0	0.0	0.0
就学前(3～6歳)	79.1	20.9	17.1	3.8	0.0	0.0	0.0
小学1～3年生	80.3	19.7	18.1	1.6	0.0	0.0	0.0
小学4～6年生	81.2	18.8	17.5	1.4	0.0	0.0	0.0
中学生	81.7	18.3	16.5	1.9	0.0	0.0	0.0
高校生	83.3	16.7	15.0	1.6	0.0	0.0	0.0
大学生・専門学生	86.5	13.5	11.6	1.9	0.0	0.0	0.0
社会人	70.9	29.1	10.9	13.1	4.5	0.5	0.0
その他	99.5	0.5	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0

<末子年齢>

【末子年齢（全体）】

・前頁の回答内容から、一番下の子どもの年齢（末子年齢）を割り出すと、「就学前（0～2歳）」が15.3%、「就学前（3～6歳）」が15.4%となっており、“未就学児”がいる人はあわせて30.7%と3割程度にとどまっている。

■ 末子年齢（全体）(n=2,048)



【末子年齢（年代別）】

・20代では「就学前（0～2歳）」が81.0%と大多数を占めている。  
 ・30代では「就学前（0～2歳）」が44.6%と最も割合が高く、「就学前（3～6歳）」が33.8%と続いている。  
 ・40代では、「就学前（3～6歳）」（14.9%）から「高校生」（14.9%）まで大きな差がなく、広く分布している。

【末子年齢（地域別）】

・丹波では“未就学児”がいる人があわせて40.7%となっており、比較的割合が高くなっている。  
 ・阪神北と淡路では“就学中”の子どもがいる人が半数以上を占めている。

■ 末子年齢（年代別、地域別）

(%)

	年代別	地域別	回答者数 (n)	就学前 (0～2歳)		就学前 (3～6歳)		小学1～3年生	小学4～6年生	中学生	高校生	大学生・専門学生	社会人	その他
				割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
	10代		0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代		58	81.0	13.8	3.4	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代		455	44.6	33.8	11.4	6.6	2.4	0.9	0.0	0.2	0.0	0.0	
	40代		993	6.4	14.9	17.9	18.1	15.0	14.9	7.2	5.5	0.0	0.0	
	50代以上		542	0.0	0.9	0.9	1.7	5.0	4.8	12.2	74.0	0.6	0.0	
	Z世代		58	81.0	13.8	3.4	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	神戸		526	15.6	14.6	11.0	12.2	10.1	7.8	5.9	22.6	0.2	0.0	
	阪神南		356	13.5	18.0	12.6	15.2	7.3	5.1	7.3	21.1	0.0	0.0	
	阪神北		300	13.3	14.0	9.7	9.7	12.3	9.7	8.7	22.7	0.0	0.0	
	東播磨		282	15.2	15.6	13.1	8.9	8.5	8.9	6.7	22.7	0.4	0.0	
	北播磨		106	19.8	16.0	9.4	5.7	9.4	11.3	5.7	22.6	0.0	0.0	
	中播磨		216	15.3	13.0	15.7	9.7	6.5	8.3	7.9	23.6	0.0	0.0	
	西播磨		94	14.9	14.9	10.6	5.3	11.7	16.0	4.3	22.3	0.0	0.0	
	但馬		54	16.7	22.2	9.3	7.4	9.3	5.6	3.7	24.1	1.9	0.0	
	丹波		54	22.2	18.5	5.6	3.7	3.7	16.7	5.6	24.1	0.0	0.0	
	淡路		60	20.0	11.7	10.0	16.7	8.3	13.3	5.0	15.0	0.0	0.0	





### 【少子化の要因（性別）】

- ・男女ともに「生活費や教育費など、経済的な負担」が6割前後と最も割合が高く、次いで「結婚や子育てに対する意識・価値観の多様化」、「子育てと仕事の両立の難しさ」と続いている。
- ・女性は「子育てと仕事の両立の難しさ」が44.4%となっており、男性（32.2%）よりも10ポイント以上多くなっている。
- ・また、女性は「出産・子育ての身体的・精神的な負担」（21.8%）が男性（14.6%）を上回るなど“出産・子育て”に関する項目が男性より高い傾向がある。

### 【少子化の要因（年代別）】

- ・全ての年代で「生活費や教育費など、経済的な負担」が最も割合が高く、次いで「結婚や子育てに対する意識・価値観の多様化」、「子育てと仕事の両立の難しさ」と続いている。
- ・10代では「若者の雇用・就業環境の悪化」が他の年代に比べて比較的低くなっている。

### 【少子化の要因（地域別）】

- ・但馬では「結婚や子育てに対する意識・価値観の多様化」が53.4%と他の地域に比べて比較的多くなっている。
- ・また、但馬では「出産・子育てなどに関する支援制度が不十分」が10%を下回っており、地域に比べて比較的低くなっている。

### 【少子化の要因（ライフステージ別）】

- ・子どもがいる全ての層で「生活費や教育費など、経済的な不安」が6割を超えており、独身者、夫婦のみに比べて割合が高くなっている。
- ・ベビーファミリー層では「子育てと仕事の両立の難しさ」が49.1%となっており、他の年代に比べて比較的割合が高くなっている。

■ 少子化の要因（性別、年代別、地域別、ライフステージ別）

(%)

		回答者数 (n)	結婚や子育てに対する意識・価値観の多様化	若くして結婚しなくなった	子育てと仕事の両立の難しさ	生活費や教育費など、経済的な負担	若者の雇用・就業環境の悪化	出産・子育ての身体的・精神的な負担	祖父母との同居・近居の減少	地域住民同士の関係の希薄化	制度が不十分	出産・子育てなどに関する支援	その他
性別	男性	1991	46.4	28.9	32.2	59.0	19.5	14.6	5.6	3.0	16.6	2.8	
	女性	1995	47.3	24.3	44.4	62.3	15.6	21.8	4.7	1.6	15.4	1.5	
年代別	10代	41	51.2	26.8	34.1	51.2	4.9	14.6	7.3	0.0	17.1	2.4	
	20代	356	39.3	25.3	37.1	58.4	12.6	19.4	2.8	1.4	21.3	2.0	
	30代	936	45.3	22.6	41.3	60.7	16.6	21.8	4.2	1.9	18.4	2.1	
	40代	1867	47.7	26.8	37.0	61.6	17.7	16.2	5.0	2.3	14.8	2.2	
	50代以上	800	49.6	31.0	39.0	59.5	21.0	18.5	7.5	3.3	13.6	2.0	
	Z世代	397	40.6	25.4	36.8	57.7	11.8	18.9	3.3	1.3	20.9	2.0	
地域別	神戸	1083	47.5	28.1	35.5	59.8	17.2	18.1	4.6	2.1	16.4	2.4	
	阪神南	760	47.8	27.4	39.9	60.9	17.8	16.6	5.0	2.8	15.9	1.8	
	阪神北	524	46.0	25.4	38.5	65.1	18.1	19.1	4.8	1.5	17.9	2.5	
	東播磨	524	46.4	26.1	37.6	57.4	19.3	18.5	5.0	2.7	12.2	1.5	
	北播磨	194	47.9	26.8	41.8	57.2	16.0	22.2	7.2	3.6	16.5	2.1	
	中播磨	419	45.1	24.1	40.3	59.4	18.9	21.0	4.3	1.9	16.5	2.6	
	西播磨	180	46.1	25.6	36.1	62.8	14.4	17.2	7.8	2.2	19.4	1.7	
	但馬	116	53.4	26.7	42.2	62.1	15.5	15.5	5.2	3.4	6.9	1.7	
	丹波	100	44.0	26.0	42.0	60.0	17.0	17.0	9.0	1.0	17.0	3.0	
	淡路	100	41.0	24.0	42.0	66.0	13.0	14.0	6.0	2.0	23.0	1.0	
ライフステージ別	独身者	1459	46.1	28.9	32.5	58.5	20.6	15.7	4.5	2.7	14.0	3.1	
	夫婦のみ	493	50.1	29.4	34.5	49.3	16.6	17.8	4.3	2.0	14.4	2.0	
	ベビーファミリー層	629	43.9	22.9	49.1	65.3	12.2	22.6	4.6	1.3	21.3	1.4	
	ヤングファミリー層	457	45.1	23.0	38.3	64.6	13.6	20.1	6.6	1.5	16.8	2.2	
	ファミリー層	962	49.1	25.7	42.3	64.6	18.6	18.6	6.2	2.9	16.1	1.1	



【少子化が与える影響（性別）】

・女性は「年金、医療、介護など社会保障制度が持続できなくなる」が65.2%となっており、男性(59.4%)に比べて比較的割合が高くなっている。

【少子化が与える影響（年代別）】

・年代が上がるにつれて「労働人口・生産人口の減少により、経済活動が停滞する」と「年金、医療、介護など社会保障制度が持続できなくなる」の割合が高くなっている。

【少子化が与える影響（地域別）】

・丹波と淡路で「過疎化の進行、地域社会の活力が低下する」が半数以上を占めている。

■ 少子化が与える影響（性別、年代別、地域別） (％)

		回答者数 (n)	が過疎化の進行、地域社会の活力が低下する	労働人口・生産人口の減少により、経済活動が停滞する	年金、医療、介護など社会保障制度が持続できなくなる	望ましい規模の集団の中で、子どもの教育ができなくなる	機能が低下する	警察、消防、自衛隊等の人員が確保できなくなり、治安・防災が	施設が減少する	学校や公園といった教育・文化	治安が悪化する	空き家が増えて、まちの景観や	その他	特にな
性別	男性	1991	44.3	60.9	59.4	13.3	12.3	8.2	11.5	1.0	9.8			
	女性	1995	37.1	55.3	65.2	16.0	12.4	10.6	12.5	0.5	10.3			
年代別	10代	41	39.0	36.6	36.6	22.0	12.2	9.8	12.2	4.9	22.0			
	20代	356	33.7	45.5	46.1	18.8	12.6	12.1	7.0	0.0	20.8			
	30代	936	42.2	54.4	58.1	17.0	14.6	9.7	7.9	0.4	13.2			
	40代	1867	41.4	59.4	63.8	13.9	11.5	9.2	12.3	1.0	8.4			
	50代以上	800	40.8	65.8	71.9	11.4	11.4	8.4	18.1	0.8	5.3			
	Z世代	397	34.3	44.6	45.1	19.1	12.6	11.8	7.6	0.5	20.9			
地域別	神戸	1083	39.5	57.3	61.7	14.9	13.0	9.0	13.6	0.8	9.9			
	阪神南	760	39.7	58.7	64.3	13.0	13.4	9.2	9.9	0.9	11.3			
	阪神北	524	38.9	62.6	65.1	16.0	12.2	8.6	13.2	0.8	9.0			
	東播磨	524	34.4	57.1	62.0	13.7	13.2	7.6	10.9	0.4	10.3			
	北播磨	194	45.9	61.9	61.3	14.9	12.9	9.3	10.3	0.5	9.3			
	中播磨	419	44.2	53.7	58.7	15.3	11.2	11.2	12.4	1.0	10.7			
	西播磨	180	43.3	58.9	65.6	13.9	10.6	8.9	12.2	0.0	10.0			
	但馬	116	49.1	59.5	61.2	17.2	12.9	12.9	8.6	0.9	6.9			
	丹波	100	52.0	52.0	56.0	18.0	7.0	16.0	14.0	1.0	10.0			
	淡路	100	55.0	55.0	56.0	13.0	3.0	12.0	13.0	1.0	12.0			



【結婚のイメージ（年代別）】

- ・年代が低いほど「明るく楽しい生活が送れる」の割合が高くなる傾向にある。
- ・10～20代（Z世代含む）で「責任が増す」が最も割合が高くなっている。
- ・30～50代以上では「精神的な安らぎがある」が最も割合が高くなっており、年代が上がるにつれてその割合は増加する傾向がみられる。
- ・10代は「社会的な信用が得られる」と「老後の生活が安心できる」が10%未満となり、他の層に比べて低くなっている。

【結婚のイメージ（地域別）】

- ・阪神北では「自分自身が成長する」が22.7%と2割を超え、他の地域に比べ比較的割合が高くなっている。

【結婚のイメージ（ライフステージ別）】

- ・独身者は「相手の家族や親族との付き合いがわずらわしい」が30.5%と他のライフステージに比べて10ポイント以上高くなっている。
- ・夫婦のみは「精神的な安らぎがある」が49.9%と最も多く、「明るく楽しい生活が送れる」が34.5%と比較的高くなっている。
- ・“子どもがいる”層では「子どもを生み、育てる基盤となる」が最も高く、4割を超えている。
- ・一方、独身者と夫婦のみは「子どもを生み、育てる基盤となる」が1割台となっており、“子どもがいる”層に比べて低くなっている。

■ 結婚のイメージ（年代別、地域別、ライフステージ別） (%)

		回答者数 (n)	明るく楽しい生活が送れる	精神的な安らぎがある	自分自身が成長する	社会的な信用が得られる	子どもを生み、育てる基盤となる	老後の生活が安心できる	責任が増す	行動、自由が制約されるお金や時間	相手の家族や親族との付き合いがわずらわしい	その他
全体		4000	26.8	37.8	19.4	17.3	30.9	11.9	35.9	29.8	20.0	1.0
年代別	10代	41	34.1	31.7	14.6	7.3	31.7	7.3	36.6	26.8	17.1	2.4
	20代	356	29.2	27.8	18.8	11.8	28.4	15.2	30.6	29.8	18.8	0.6
	30代	936	29.2	35.6	19.3	16.6	30.6	12.4	35.5	30.3	19.4	0.7
	40代	1867	27.3	38.2	18.9	16.9	29.1	11.0	36.5	31.2	20.4	1.3
	50代以上	800	21.5	44.3	20.9	22.1	36.5	11.9	37.1	26.0	20.3	0.5
	Z世代	397	29.7	28.2	18.4	11.3	28.7	14.4	31.2	29.5	18.6	0.8
地域別	神戸	1083	25.6	38.7	19.7	16.6	31.6	11.3	37.2	28.6	20.5	0.7
	阪神南	760	26.3	39.3	18.9	19.9	30.0	13.2	37.1	29.6	18.2	0.8
	阪神北	524	27.7	38.0	22.7	18.3	31.5	11.5	36.6	33.0	21.0	1.1
	東播磨	524	27.9	37.2	19.7	16.8	31.5	10.1	31.7	29.6	18.5	1.0
	北播磨	194	27.3	34.5	18.0	17.0	30.4	10.3	34.0	27.8	24.7	1.0
	中播磨	419	27.7	37.5	17.9	16.2	29.4	12.4	34.6	27.2	19.8	1.4
	西播磨	180	26.1	33.3	13.9	16.1	29.4	15.0	39.4	36.1	21.1	0.0
	但馬	116	25.9	34.5	19.8	16.4	32.8	15.5	31.9	30.2	25.9	0.0
	丹波	100	26.0	36.0	17.0	14.0	27.0	11.0	40.0	38.0	24.0	4.0
	淡路	100	32.0	40.0	20.0	15.0	36.0	11.0	32.0	22.0	9.0	1.0
ライフステージ別	独身者	1459	18.9	26.5	13.5	16.2	17.4	15.1	42.4	38.3	30.5	1.4
	夫婦のみ	493	34.5	49.9	22.5	18.1	14.8	14.8	25.8	20.3	15.8	1.6
	ベビーファミリー層	629	34.0	42.0	24.0	17.3	45.5	8.7	31.6	28.0	8.7	0.3
	ヤングファミリー層	457	33.9	42.5	20.8	17.1	43.5	7.9	32.4	25.4	12.5	0.7
	ファミリー層	962	26.7	43.8	22.9	18.8	44.1	9.3	35.6	24.9	17.0	0.4

## (2) 結婚願望

【独身者のみ】※Q5で「3または4」を選択した方

Q13 あなたは今後、結婚をしたいと思いますか？（1つ選択）

- |            |                  |                    |
|------------|------------------|--------------------|
| 1. 結婚したい   | 2. どちらかといえば結婚したい | 3. どちらかといえば結婚したくない |
| 4. 結婚したくない | 5. 結婚が決まっている     | 6. わからない           |

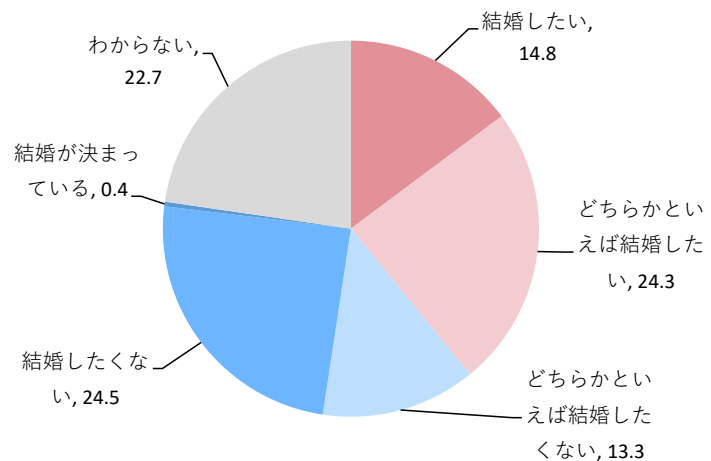
### 【結婚願望（全体）】

■ 結婚願望（全体）(n=1,681)

(%)

・現在、独身者に結婚願望について聞くと、「結婚したい」が14.8%、「どちらかといえば結婚したい」が24.3%となっており、あわせると39.1%が“結婚したい”と回答している。

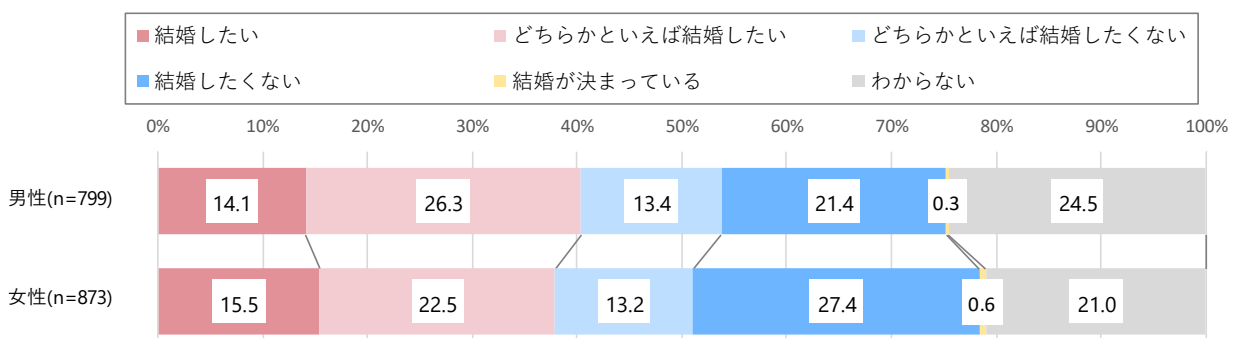
・一方、「結婚したくない」が24.5%、「どちらかといえば結婚したくない」が13.3%となっており、あわせると37.8%が“結婚したくない”と回答している。



### 【結婚願望（性別）】

・女性は「結婚したくない」が27.4%となっており、男性（21.4%）と比べてやや高くなっている。

### ■ 結婚願望（性別）



### 【結婚願望（年代別）】

・10～20代（Z世代含む）では「結婚したい」と「どちらかといえば結婚したい」をあわせると半数を占める。

・20～50代では年代が低い層ほど“結婚したい”の割合が高く、年代が上がるにつれて“結婚したくない”が高くなっている。

【結婚願望（地域別）】

- ・淡路では“結婚したい”が57.6%と半数を占めており、他の地域に比べ比較的割合が高くなっている。
- ・一方、東播磨と但馬では“結婚したくない”が4割台となっている。

【結婚願望（世帯年収別）】

- ・800～1,000万円未満では“結婚したくない”が61.9%と6割を占めており、他の地域に比べ比較的割合が高くなっている。
- ・一方、600～800万円未満では“結婚したい”が約5割となっている。

■ 結婚願望（年代別、地域別、世帯年収別） (％)

		回答者数 (n)	結婚したい	どちらかといえば	どちらかといえ	結婚したくない	結婚が決まっている	わからない
全体		1681	14.8	24.3	13.3	24.5	0.4	22.7
年代別	10代	38	21.1	28.9	5.3	18.4	0.0	26.3
	20代	261	27.2	28.4	9.2	13.4	0.8	21.1
	30代	388	17.8	28.1	9.8	21.4	0.5	22.4
	40代	745	11.9	24.7	15.6	25.5	0.4	21.9
	50代以上	249	4.8	12.0	17.3	39.0	0.0	26.9
	Z世代	299	26.4	28.4	8.7	14.0	0.7	21.7
地域別	神戸	470	13.4	24.9	13.4	26.4	0.2	21.7
	阪神南	336	14.9	28.9	9.8	24.4	0.6	21.4
	阪神北	193	12.4	22.3	14.5	22.8	1.0	26.9
	東播磨	228	11.8	21.5	20.2	24.1	0.9	21.5
	北播磨	79	16.5	32.9	11.4	25.3	0.0	13.9
	中播磨	168	22.0	18.5	8.9	23.8	0.0	26.8
	西播磨	77	15.6	14.3	11.7	27.3	0.0	31.2
	但馬	55	18.2	18.2	10.9	29.1	0.0	23.6
	丹波	42	14.3	28.6	21.4	11.9	0.0	23.8
	淡路	33	21.2	36.4	15.2	15.2	0.0	12.1
世帯年収別	200万円未満	464	13.8	18.8	12.3	33.6	0.4	21.1
	200～400万円未満	492	13.6	28.7	16.1	22.0	0.4	19.3
	400～600万円未満	281	21.7	26.3	14.2	18.9	0.0	18.9
	600～800万円未満	80	23.8	25.0	10.0	21.3	1.3	18.8
	800～1,000万円未満	21	14.3	9.5	33.3	28.6	4.8	9.5
	1,000万円以上	24	29.2	16.7	12.5	16.7	4.2	20.8
	わからない	319	8.8	25.1	9.1	21.3	0.0	35.7



### 【結婚願望別にみた結婚のイメージ】

・結婚したい意志があるでは「精神的な安らぎがある」が 44.9%と最も割合が高くなっており、「責任が増す」が 35.5%、「明るく楽しい生活が送れる」が 31.0%となっている。結婚に対して、プレッシャー無あるが比較的よいイメージを持つ人が多い。

・一方、結婚したい意思がないでは、「自由に使えるお金や時間、行動が制約される」が 53.2%と半数を超えて最も高く、「責任が増す」(49.8%)や「相手の家族や親族との付き合いがわずらわしい」(47.6%)も半数近くの人が回答している。

### ■ 結婚願望別にみた結婚のイメージ

(%)

	回答者数 (n)	明るく楽しい生活が送れる	精神的な安らぎがある	自分自身が成長する	社会的な信用が得られる	子どもを基盤とする	老後の生活が安心できる	責任が増す	行動が制約される	自由に使えるお金や時間	相手の家族や親族との付き合いがわずらわしい	その他
全体	4000	26.8	37.8	19.4	17.3	30.9	11.9	35.9	29.8	20.0	1.0	
結婚願望別	結婚したい意思がある	664	31.0	44.9	19.6	19.7	29.4	20.5	35.5	25.6	13.0	0.8
	結婚したい意思がない	635	8.0	12.9	8.8	14.2	14.3	9.9	49.8	53.2	47.6	1.6
	わからない	382	16.5	20.7	14.1	12.8	12.6	13.4	39.0	36.4	31.7	2.1



【未婚・独身でいる理由（性別）】

・男女ともに「いい相手が見つからない」が最も割合が高くなっており、次いで男性は「結婚資金や結婚後に経済的な不安がある」、女性は「未婚または独身の方が気楽」が高くなっている。

【未婚・独身でいる理由（年代別）】

・20～30代、Z世代では「趣味に集中したい」が他の年代に比べて比較的割合が高く、30～40代では「いい相手が見つからない」が他の年代に比べて高い傾向になっている。  
 ・50代以上は「結婚する必要性を感じない」が40%代で他の年代に比べて特に高くなっている。

【未婚・独身でいる理由（地域別）】

・丹波で「いい相手が見つからない」が半数を超え最も割合が高く、「未婚または独身の方が気楽」が他の地域に比べて低くなっている。

【未婚・独身でいる理由（結婚願望別）】

・結婚したい意思がある人は「いい相手が見つからない」が52.1%と半数を超え最も割合が高く、「結婚資金や、結婚後に経済的な不安がある」が26.4%と続く。  
 ・結婚したい意思がない人は「結婚する必要性を感じない」が48.3%、「未婚または独身の方が気楽」が45.7%といずれも半数近くと割合が高くなっている。

■ 未婚・独身でいる理由（性別、年代別、地域別、結婚願望別） (％)

	全 体	まだ結婚するには若いと思う	仕事に専念したい	趣味に集中したい	未婚または独身の方が気楽	仕事と家庭の両立に不安がある	仕事でのキャリアアップに差し支える	結婚する必要性を感じない	いい相手が見つからない	異性とうまくつきあえない	不安がある、結婚後に経済的	結婚して子どもを育てる状況でない（経済的、身体的、精神的）	その他	
全体	1681	4.9	5.6	12.0	31.5	7.9	2.6	25.5	37.3	17.7	21.9	15.6	5.2	
性別	男性	799	4.0	5.3	14.0	26.9	8.5	2.8	20.8	36.8	20.3	28.8	19.5	3.0
	女性	873	5.7	6.0	10.0	35.9	7.2	2.5	29.7	37.9	15.2	15.8	11.9	7.2
年代別	10代	38	50.0	0.0	7.9	10.5	2.6	5.3	10.5	21.1	15.8	2.6	10.5	10.5
	20代	261	18.4	10.3	16.1	19.9	13.0	5.0	16.1	29.1	11.5	23.0	16.9	4.6
	30代	388	1.8	6.7	17.5	33.2	7.7	3.1	20.4	39.9	23.5	23.2	18.0	3.6
	40代	745	1.1	4.8	9.9	32.6	7.7	2.1	26.2	41.1	19.9	24.0	15.4	4.6
	50代以上	249	0.0	2.0	5.6	41.0	4.0	0.4	43.8	32.9	8.8	15.3	11.6	9.6
	Z世代	299	22.4	9.0	15.1	18.7	11.7	5.0	15.4	28.1	12.0	20.4	16.1	5.4
地域別	神戸	470	5.3	5.5	10.0	28.3	9.1	2.8	29.6	39.4	16.8	17.4	15.1	4.3
	阪神南	336	5.1	5.4	12.5	33.6	8.3	2.1	17.0	40.2	17.6	20.2	14.9	6.0
	阪神北	193	3.6	4.1	11.4	34.7	7.3	3.1	23.8	36.3	20.7	28.5	17.6	7.8
	東播磨	228	6.1	7.0	14.0	33.3	5.7	3.1	29.8	28.1	14.9	20.6	15.4	4.8
	北播磨	79	5.1	3.8	15.2	34.2	3.8	2.5	19.0	38.0	25.3	26.6	19.0	2.5
	中播磨	168	5.4	7.1	11.3	28.6	7.7	2.4	29.8	35.7	18.5	23.2	13.7	5.4
	西播磨	77	6.5	6.5	14.3	39.0	10.4	3.9	26.0	37.7	18.2	23.4	15.6	2.6
	但馬	55	1.8	5.5	16.4	36.4	9.1	3.6	29.1	29.1	16.4	27.3	20.0	3.6
	丹波	42	0.0	0.0	7.1	14.3	9.5	0.0	28.6	54.8	14.3	26.2	21.4	9.5
	淡路	33	0.0	9.1	12.1	30.3	3.0	0.0	18.2	45.5	15.2	36.4	6.1	9.1
結婚願望別	結婚したい意思がある	664	8.6	6.3	9.9	21.7	12.2	3.6	5.9	52.1	21.2	26.4	13.0	5.9
	結婚したい意思がない	635	1.4	4.9	13.9	45.7	5.5	1.7	48.3	20.3	14.2	19.2	17.2	5.5
	わからない	382	4.2	5.5	12.3	25.1	4.2	2.4	21.7	39.8	17.3	18.6	17.5	3.7



【結婚できる環境整備について行政が行うべき取り組み（性別）】

・女性は「夫婦がともに働き続けられるような職場環境の整備支援」が9.9%となっており、男性(5.8%)と比べて4.1ポイント高くなっている。

【結婚できる環境整備について行政が行うべき取り組み（年代別）】

- ・10代で「交際や結婚に対する相談支援」が9.8%と他の年代に比べて比較的割合が高くなっている。
- ・20代では「結婚にかかる費用への経済的支援」が10.1%と他の年代に比べて比較的割合が高くなっている。
- ・年代が上がるとともに「取り組む必要はない」が低くなる傾向にある。

【結婚できる環境整備について行政が行うべき取り組み（結婚願望別）】

- ・結婚したい意思がある人は「結婚にかかる費用への経済的支援」(7.4%)や「出会いの場の提供」(10.4%)などが結婚したい意思がない人に比べて比較的割合が高くなっている。
- ・また、結婚願望の有無にかかわらず「安定した雇用環境の整備」と「賃金を上げるなど、安定して生活ができるための支援」が約3割と、経済的な支援を求める声が多くなっている。

■ 結婚できる環境整備について行政が行うべき取り組み（性別、年代別、結婚願望別） (%)

		回答者数 (n)	安定した雇用環境の整備	賃金を上げるなど、安定して生活ができるための支援	結婚にかかる費用への経済的支援	住宅確保に対する経済的支援	出会いの場の提供	交際や結婚に対する相談支援	結婚したほうが有利となる税制の整備	夫婦がともに働き続けられるような職場環境の整備支援	キャリア形成ができる職場環境の整備支援	結婚しても、昇進・昇格等の醸成	結婚を推奨する啓発活動・機運	その他	取り組む必要はない
性別	男性	1991	32.0	27.5	5.4	2.3	6.5	1.7	7.2	5.8	0.9	1.2	1.0	8.4	
	女性	1995	28.1	29.8	3.7	2.4	5.0	1.6	6.0	9.9	3.5	0.7	0.7	8.8	
年代別	10代	41	22.0	24.4	4.9	2.4	4.9	9.8	4.9	9.8	0.0	0.0	2.4	14.6	
	20代	356	29.5	27.0	10.1	2.0	5.1	2.0	3.9	3.9	2.8	0.0	0.3	13.5	
	30代	936	26.6	30.9	4.5	3.0	5.2	1.9	6.7	6.9	3.3	0.7	0.4	9.7	
	40代	1867	31.8	29.2	4.3	1.9	5.5	1.4	7.6	7.1	1.6	1.0	1.0	7.6	
	50代以上	800	30.4	25.8	2.8	2.6	7.4	1.1	5.5	12.4	2.4	1.5	0.9	7.4	
	Z世代	397	28.7	26.7	9.6	2.0	5.0	2.8	4.0	4.5	2.5	0.0	0.5	13.6	
結婚願望別	結婚したい意思がある	664	27.9	28.9	7.4	1.4	10.4	2.7	5.6	5.6	1.5	0.9	0.6	7.2	
	結婚したい意思がない	635	27.2	27.2	3.8	1.6	5.5	1.7	5.2	5.4	2.2	1.1	0.8	18.3	
	わからない	382	29.3	24.9	2.9	1.0	3.4	2.4	5.5	5.2	2.4	0.8	0.8	21.5	

## (5) 理想とする女性の生き方

【全員】（前回の問 30 を改・国の出生動向調査と同項目）

Q16 下の枠の中に女性の生き方のタイプがいくつか示してあります。それぞれ、最も近いと思われるタイプの番号を下の枠から選び、解答欄に記入してください。（女性は（1）、（2）、男性は（3）でそれぞれ1つ選択）

（女性の方へ）（1）あなたの理想とする人生はどのタイプですか。

（2）実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか。

（男性の方へ）（3）パートナーあるいは妻となる（である）女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか。

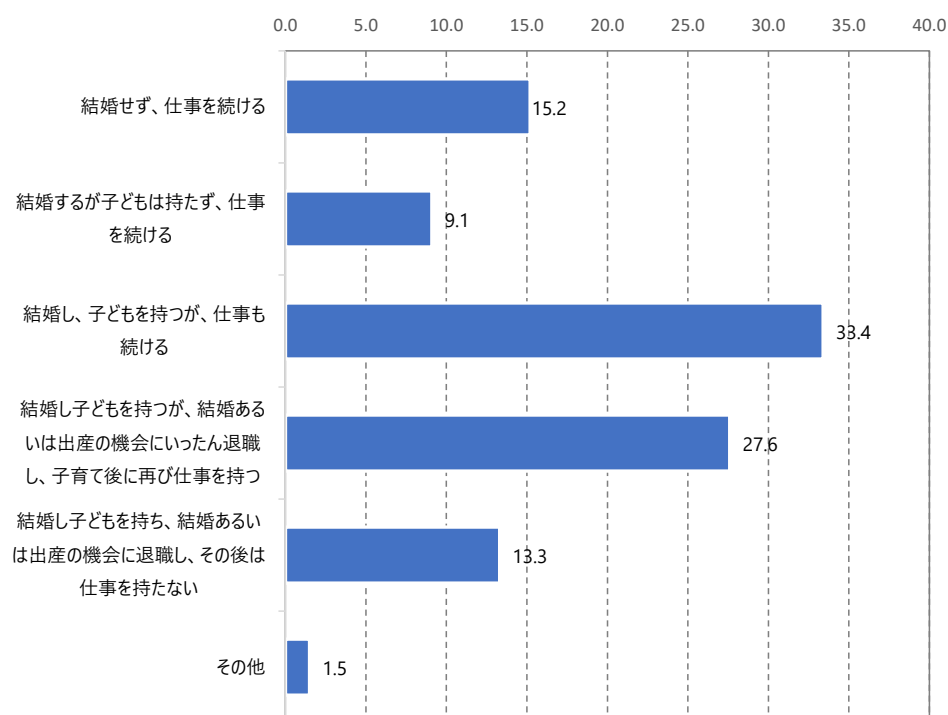
1. 結婚せず、仕事を続ける
2. 結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける
3. 結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける
4. 結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ
5. 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない
6. その他（ ）

### (5) -1 女性が理想とする人生のタイプ（女性のみ）

#### 【女性が理想とする人生のタイプ（全体）】

・女性が理想とする人生のタイプを女性に聞いたところ「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」が33.4%と最も割合が高く、次いで「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」（27.6%）、「結婚せず、仕事を続ける」（15.2%）と続いている。

#### ■ 女性が理想とする人生のタイプ（全体）（n=1,995）（%）



#### 【女性が理想とする人生のタイプ（年代別）】

- ・全ての年代で「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」が最も割合が高く、3割を占めている。
- ・「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」も全年代で割合が高く、50代以上では3割を超えている。
- ・“仕事を持つ”（結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない+その他以外）が、全ての年代で8割台となっており、どの年代の女性も仕事も続ける意思が高いことがうかがえる。

#### 【女性が理想とする人生のタイプ（地域別）】

- ・全ての地域で「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」と「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の回答が多い傾向にある。
- ・また、丹波と淡路では「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」が4割超え、他の地域に比べて割合が高くなっている。

#### 【女性が理想とする人生のタイプ（世帯年収別）】

- ・400万円未満で「結婚せず、仕事も続ける」が2割台と他の年収層に比べて10ポイント以上高くなっている。
- ・また、400万円以上で「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」が4割を超えている。

#### 【女性が理想とする人生のタイプ（子どもの人数別）】

- ・子どもの人数にかかわらず「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」が最も高く「3人以上」では4割を超えている。
- ・また、「結婚するが子どもは持たず、仕事も続ける」が1割未満と低く、子供の人数が多いほど割合が低い傾向にある。

■ 女性が理想とする人生のタイプ（年代別、地域別、世帯年収別、子どもの人数別）（％）

		回答者数 (n)	結婚せず、仕事を続ける	結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける	結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける	つ職る結後い結結 しはははは 、はし婚婚婚 子出子事出婚 育産産事産産 ての機をの機 後会に会に会 に再いにに び仕た 事ん を持退	13.3	1.5
全体		1995	15.2	9.1	33.4	27.6	13.3	1.5
年代別	10代	31	12.9	6.5	38.7	22.6	19.4	0.0
	20代	258	22.1	5.8	36.8	22.1	12.0	1.2
	30代	533	14.1	9.6	35.8	27.8	11.8	0.9
	40代	773	15.5	11.1	30.8	27.3	13.7	1.6
	50代以上	400	11.8	6.8	32.5	31.8	15.0	2.3
	Z世代	289	21.1	5.9	37.0	22.1	12.8	1.0
地域別	神戸	540	16.5	11.5	35.2	24.1	11.5	1.3
	阪神南	380	14.2	8.4	28.7	32.6	14.7	1.3
	阪神北	262	12.2	9.9	34.7	29.4	11.1	2.7
	東播磨	262	17.6	9.9	35.1	23.7	12.2	1.5
	北播磨	96	20.8	3.1	29.2	31.3	14.6	1.0
	中播磨	209	15.3	6.7	32.1	27.3	17.2	1.4
	西播磨	90	12.2	4.4	34.4	30.0	17.8	1.1
	但馬	56	17.9	12.5	28.6	28.6	12.5	0.0
	丹波	50	10.0	4.0	42.0	26.0	16.0	2.0
	淡路	50	8.0	10.0	42.0	28.0	12.0	0.0
世帯年収別	200万円未満	287	27.9	9.4	22.0	22.3	15.7	2.8
	200～400万円未満	434	20.0	9.4	29.7	26.3	12.9	1.6
	400～600万円未満	327	7.6	11.0	41.9	30.0	8.3	1.2
	600～800万円未満	231	7.8	6.5	42.0	31.2	11.7	0.9
	800～1,000万円未満	152	7.2	7.2	40.8	32.9	11.8	0.0
	1,000万円以上	103	6.8	9.7	42.7	28.2	12.6	0.0
	わからない	461	16.3	8.9	29.1	26.7	17.4	1.7
子どもの数	1人	364	10.2	4.4	38.2	32.1	14.0	1.1
	2人	482	5.8	2.3	38.4	35.9	16.6	1.0
	3人以上	191	6.3	1.6	41.4	33.0	17.3	0.5

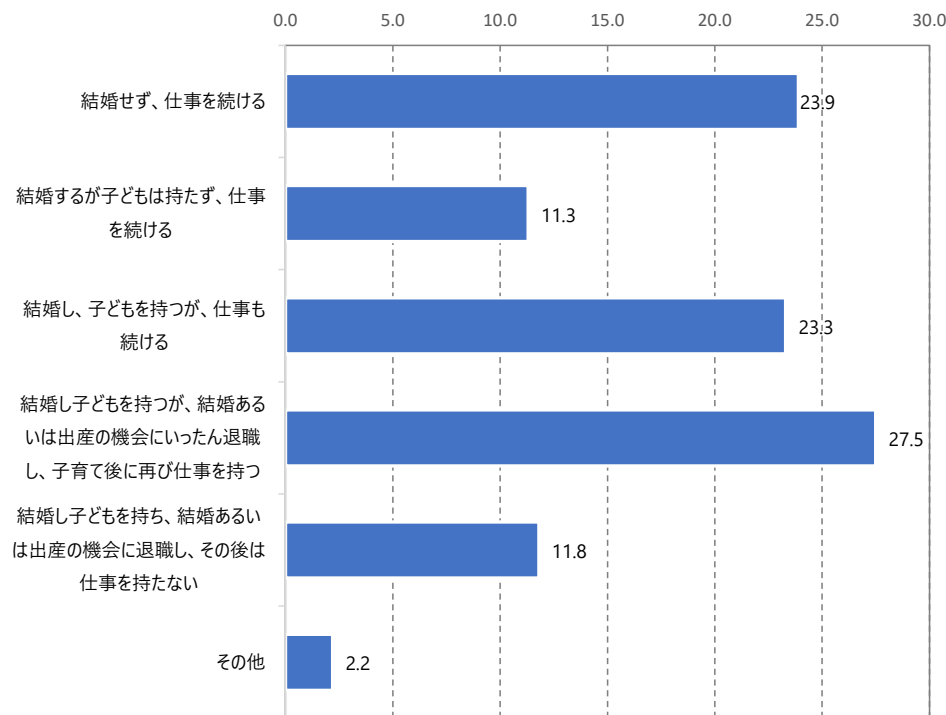


### (5) -2 女性が実際になりそうと考える人生のタイプ（女性のみ）

#### 【女性が実際になりそうと考える人生のタイプ（全体）】

・実際になりそうなあなたの人生のタイプを女性に聞いたところ、「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が27.5%で最も割合が高く、次いで「結婚せず、仕事を続ける」(23.9%)と、「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」(23.3%)がほぼ同率で並んでいる。

#### ■ 女性が実際になりそうと考える人生のタイプ（全体）(n=1,995) (%)



#### 【女性が実際になりそうと考える人生のタイプ（年代別）】

・20～30代、Z世代では「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」が3割台と他の年代に比べて比較的高くなっている。  
・30～50代以上では「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」の割合が年代が高くなるほど高くなっている。

#### 【女性が実際になりそうと考える人生のタイプ（地域別）】

・但馬と丹波淡路では「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」が3割台と高くなっている。  
・西播磨では「結婚せず、仕事を続ける」と「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が同率(32.2%)で最も高くなっている。

#### 【女性が実際になりそうと考える人生のタイプ（世帯年収別）】

・1,000万円以上では「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」が22.3%と他の世帯年収に比べて高くなっている。

#### 【女性が実際になりそうと考える人生のタイプ（子どもの人数別）】

・子ども人数にかかわらず「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が最も高く2人では約半数を占めている。  
・3人以上では「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」

が2割超で子どもが2人以下の家庭よりも高くなっている。

■ 女性が実際になりそうと考える人生のタイプ（年代別、地域別、世帯年収別、子どもの人数別）  
（%）

		回答者数 (n)	結婚せず、仕事を続ける	結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける	結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける	職し、子育て後に再び仕事を	結婚し、子どもを持つが、結婚後は仕事をしない	結婚し、子どもを持つが、結婚後は仕事をしない	結婚し、子どもを持つが、結婚後は仕事をしない	その他
全体		1995	23.9	11.3	23.3	27.5	11.8	2.2		
年代別	10代	31	35.5	9.7	25.8	9.7	19.4	0.0		
	20代	258	28.7	9.7	35.3	17.4	8.1	0.8		
	30代	533	22.0	10.1	31.7	28.5	6.6	1.1		
	40代	773	26.4	14.0	17.5	28.1	11.1	3.0		
	50代以上	400	17.8	8.8	15.5	32.8	22.0	3.3		
	Z世代	289	29.4	9.7	34.3	16.6	9.3	0.7		
地域別	神戸	540	26.5	13.3	21.9	26.5	9.6	2.2		
	阪神南	380	22.6	13.7	23.2	26.1	12.4	2.1		
	阪神北	262	21.4	8.8	20.6	33.6	12.2	3.4		
	東播磨	262	27.9	11.8	24.8	23.3	10.3	1.9		
	北播磨	96	21.9	6.3	26.0	24.0	19.8	2.1		
	中播磨	209	20.1	9.1	22.5	31.1	14.8	2.4		
	西播磨	90	32.2	5.6	18.9	32.2	10.0	1.1		
	但馬	56	19.6	12.5	30.4	23.2	12.5	1.8		
	丹波	50	20.0	6.0	34.0	30.0	8.0	2.0		
	淡路	50	12.0	14.0	34.0	24.0	16.0	0.0		
世帯年収別	200万円未満	287	44.3	10.8	14.3	15.7	9.1	5.9		
	200～400万円未満	434	35.0	9.7	23.3	20.7	9.7	1.6		
	400～600万円未満	327	17.1	10.1	24.8	36.7	9.5	1.8		
	600～800万円未満	231	8.2	10.0	32.5	38.5	10.0	0.9		
	800～1,000万円未満	152	7.9	15.8	28.3	36.2	10.5	1.3		
	1,000万円以上	103	1.0	15.5	31.1	28.2	22.3	1.9		
	わからない	461	23.9	12.1	20.0	26.0	16.3	1.7		
子どもの数	1人	364	8.2	3.3	33.0	37.4	15.9	2.2		
	2人	482	3.9	3.1	28.2	47.3	16.6	0.8		
	3人以上	191	4.7	0.5	33.5	37.2	22.5	1.6		

(5) -3 パートナー（妻）となる女性に送ってほしい人生のタイプ（男性のみ）

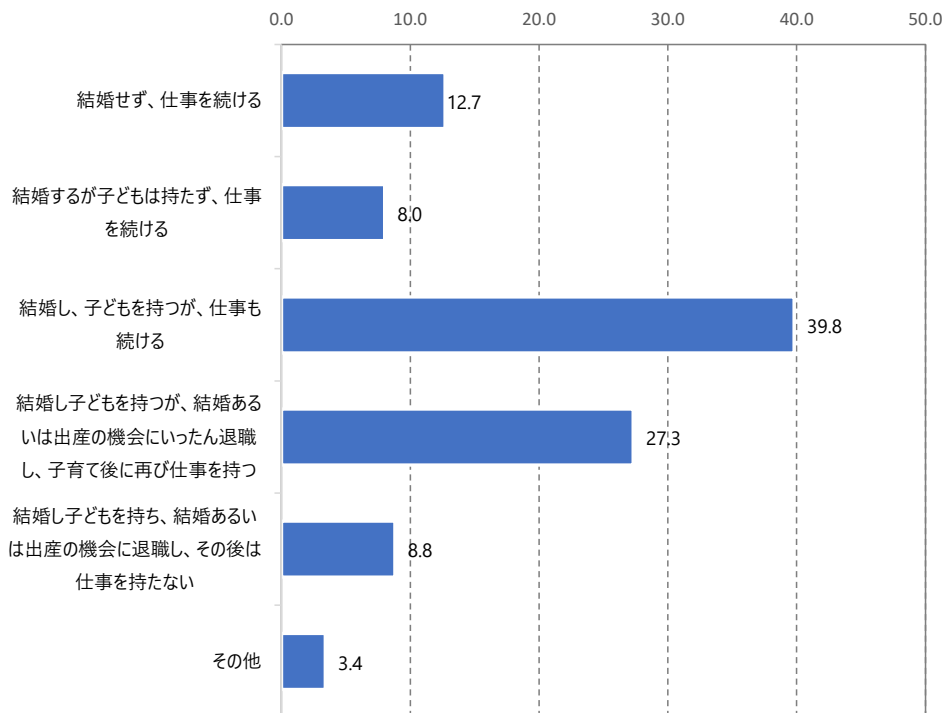
【パートナー（妻）となる女性に送ってほしい人生のタイプ（全体）】

・パートナー（妻）となる女性に送ってほしい人生のタイプを男性に聞いたところ「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」が39.8%と最も割合が高く、次いで「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」(27.3%)、「結婚せず、仕事を続ける」(12.7%)と続いている。

・「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」は8.8%と1割未満で多くの男性がパートナーに仕事を続けてもらいたいと考えていることがうかがえる。

■ パートナー（妻）となる女性に送ってほしい人生のタイプ（全体）(n=1,991)

(%)



【パートナー（妻）となる女性に送ってほしい人生のタイプ（年代別）】

・10～40代（Z世代含む）で「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」が最も割合が高くなっている。

・一方、50代以上では「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が最も割合が高くなっている。

【パートナー（妻）となる女性に送ってほしい人生のタイプ（地域別）】

・丹波では「結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける」が14.0%と他の地域に比べて比較的割合が高くなっている。

・阪神南と東播磨、西播磨で「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が3割を超えているが、但馬では1割台にとどまっている。

【パートナー（妻）となる女性に送ってほしい人生のタイプ（世帯年収別）】

・全ての世帯年収で「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」が最も割合が高くなっており、800～1,000万円未満では半数を超えている。

・「1,000万円未満の世帯」では「結婚せず、仕事を続ける」の割合は年収が増えるほど低い。

【パートナー（妻）となる女性に送ってほしい人生のタイプ（子どもの人数別）】

・子どもの人数にかかわらず「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」が最も割合が高く4割を占めている。

・子どもの人数が多いほど「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」と「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」の割合が高くなる傾向にある。

■ パートナー（妻）となる女性に送ってほしい人生のタイプ（年代別、地域別、世帯年収別、子どもの人数別）

(%)

		回答者数 (n)	結婚せず、 仕事を続ける	結婚するが 子どもは持たず、 仕事を続ける	結婚し、 子どもを持つが、 仕事を続ける	結婚し、 子どもを持つが、 仕事を退職する	結婚し、 子どもを持つが、 仕事を退職し、 子育て後に再び 仕事を持つ	結婚し、 子どもを持つが、 結婚あるいは 出産の機会に 退職し、その 後は仕事を 持たない	結婚し、 子どもを持ち、 結婚あるいは 出産の機会に 退職し、結婚 あるいはその 後は仕事を 持たない	その他
全体		1991	12.7	8.0	39.8	27.3	8.8	3.4		
年代別	10代	9	22.2	11.1	44.4	0.0	22.2	0.0		
	20代	94	19.1	13.8	34.0	18.1	10.6	4.3		
	30代	400	15.5	9.0	42.3	22.0	8.0	3.3		
	40代	1089	12.4	8.4	41.8	26.3	7.5	3.7		
	50代以上	399	8.8	4.8	33.3	38.1	12.5	2.5		
	Z世代	103	19.4	13.6	35.0	16.5	11.7	3.9		
地域別	神戸	537	16.2	8.2	35.8	28.1	8.4	3.4		
	阪神南	379	11.9	9.0	36.4	30.3	8.4	4.0		
	阪神北	262	9.2	5.7	43.5	26.7	11.5	3.4		
	東播磨	259	11.6	7.3	36.7	31.7	9.7	3.1		
	北播磨	97	11.3	8.2	45.4	22.7	9.3	3.1		
	中播磨	209	11.5	8.6	44.0	22.5	11.5	1.9		
	西播磨	90	12.2	6.7	44.4	30.0	5.6	1.1		
	但馬	58	8.6	8.6	53.4	15.5	6.9	6.9		
	丹波	50	16.0	14.0	40.0	20.0	4.0	6.0		
淡路	50	14.0	8.0	54.0	20.0	0.0	4.0			
世帯年収別	200万円未満	233	25.8	9.0	30.5	21.5	7.7	5.6		
	200～400万円未満	348	14.1	10.6	35.9	25.6	10.1	3.7		
	400～600万円未満	452	12.4	10.2	35.4	29.0	11.1	2.0		
	600～800万円未満	335	7.5	6.0	40.6	33.7	8.7	3.6		
	800～1,000万円未満	217	4.6	4.1	55.3	27.6	5.5	2.8		
	1,000万円以上	197	9.6	7.6	48.7	26.9	5.1	2.0		
	わからない	209	15.8	5.7	40.7	22.5	10.5	4.8		
子どもの数	1人	291	8.6	6.2	47.8	28.5	5.2	3.8		
	2人	508	4.5	4.3	44.3	35.4	10.0	1.4		
	3人以上	208	2.9	4.8	41.8	38.5	12.0	0.0		

## 4. 妊娠・出産について

### (1) 理想とする子どもの数

【全員】

Q17 あなたが理想とする子どもの数は何人ですか？（1つ選択）

1. 0人 2. 1人 3. 2人 4. 3人 5. 4人 6. 5人以上 7. わからない

#### 【理想とする子どもの数（全体）】

・理想とする子どもの数は、「2人」が45.5%で最も割合が高く、次いで「3人」が20.7%、「わからない」が12.4%、「0人」が11.3%と続いている。

#### 【理想とする子どもの数（性別）】

・男女ともに「2人」が4割台で最も割合が高く、次いで「3人」が約2割、「0人」が約1割となっている。  
・女性では「0人」が13.4%で男性（9.2%）より4.2ポイント高くなっている。  
・一方、男性は「3人」が22.8%と女性（18.7%）に比べて4.1ポイント高くなっている。男性の方が子どもを多く持ちたいと考える傾向にあることがうかがえる。

#### 【理想とする子どもの数（年代別）】

・全ての年代で「2人」が最も割合が高く、20～50代以上では、年代が上がるとともに「3人」の割合が高くなっている。

#### 【理想とする子どもの数（世帯年収別）】

・世帯年収額にかかわらず「2人」が最も割合が高く、600～1,000万円未満ではそれぞれ5割を超えている。  
・また、世帯年収が上がるほど“3人以上”（3人+4人+5人以上）の割合が高くなる傾向にあり、1,000万円以上では3割を超えている。

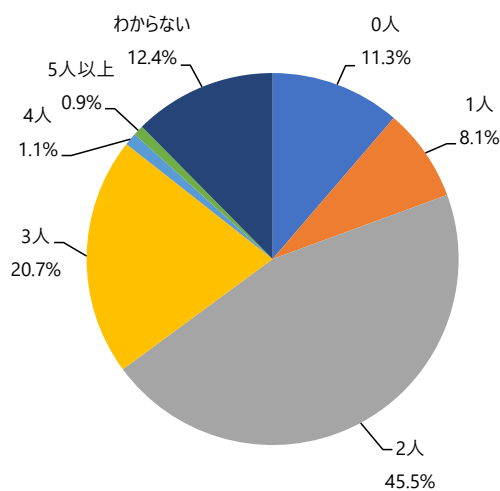
#### 【理想とする子どもの数（夫婦の就業状況別）】

・共働き、片働きどちらも「2人」が半数以上で最も高く、次いで「3人」、「1人」と続いており、夫婦の就業状況別による大きな差はみられない。

#### 【理想とする子どもの数（子どもの人数別）】

・1人の子どもがいる人は「1人」が18.4%と他に比べて比較的割合が高くなっているが、理想の人数は「2人」との回答が多くあり現状に満足していないことがうかがえる。

#### ■ 理想とする子どもの数（全体）（n=4,000）



・2人の子どもがいる人は「2人」が65.0%と最も割合が高くおおむね現状の人数に満足していると推測される。

・3人以上子どもがいる人は「3人」が67.7%と最も割合が高く、他に比べて特に高くなっている。

■ 理想とする子どもの数（性別、年代別、世帯年収別、夫婦の就業状況別、子どもの人数別）（%）

		全 体	0 人	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人 以上	わ か ら な い
全 体		4000	11.3	8.1	45.5	20.7	1.1	0.9	12.4
性別	男性	1991	9.2	7.5	45.3	22.8	1.1	1.1	13.0
	女性	1995	13.4	8.7	45.7	18.7	1.0	0.8	11.7
年代別	10代	41	17.1	7.3	31.7	22.0	2.4	0.0	19.5
	20代	356	16.6	10.7	46.9	11.5	0.6	0.6	13.2
	30代	936	12.6	9.7	45.2	17.4	1.2	1.2	12.7
	40代	1867	10.7	8.7	45.4	20.7	1.3	0.8	12.4
	50代以上	800	8.6	3.5	46.3	28.6	0.5	1.1	11.4
	Z世代	397	16.6	10.3	45.3	12.6	0.8	0.5	13.9
世帯年収別	200万円未満	523	22.0	10.3	37.1	12.2	1.1	1.0	16.3
	200～400万円未満	784	14.2	10.1	43.5	17.7	0.9	0.8	12.9
	400～600万円未満	780	9.4	8.5	48.6	23.1	1.4	0.9	8.2
	600～800万円未満	567	6.2	4.9	53.1	27.0	1.1	1.2	6.5
	800～1,000万円未満	370	3.5	8.1	52.4	26.5	0.5	1.4	7.6
	1,000万円以上	300	7.0	7.7	46.0	32.3	1.3	1.0	4.7
	わからない	676	12.6	6.2	40.5	14.5	0.9	0.6	24.7
夫婦の就業 状況別	共働き世帯	1606	5.0	6.7	50.6	28.3	1.4	1.2	6.8
	片働き世帯	592	3.4	8.4	52.2	26.2	1.4	0.8	7.6
	その他	121	6.6	1.7	52.9	30.6	0.0	0.0	8.3
子どもの数	1人	656	2.0	18.4	55.3	17.2	0.6	0.3	6.1
	2人	993	0.5	1.4	65.0	27.7	0.8	0.9	3.7
	3人以上	399	0.5	0.5	14.8	67.7	5.3	3.3	8.0

## (2) 理想と実際の子どもの数の差

【理想とする子どもの数が1名以上の方のみ】※問17で「2～6」を選択した方

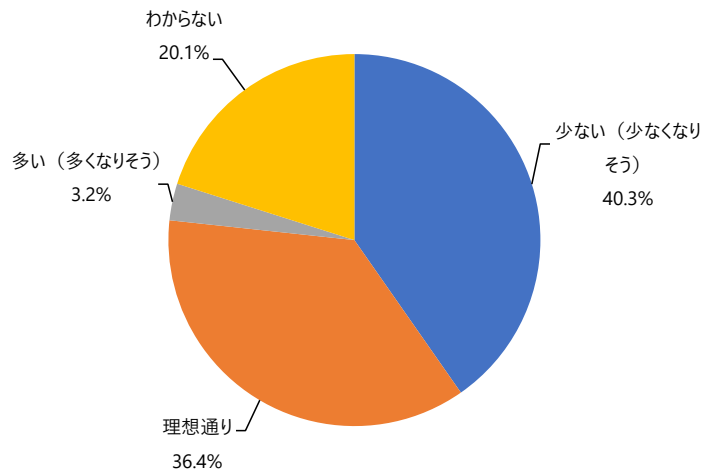
Q18 あなたが理想とする子どもの数と、実際に育てられそうな（育てている）子どもの数には差がありますか？（1つ選択）

1. 理想とする子どもの数よりも少ない（少なくなりそう）
2. 理想とする子どもの数を育てている（育てられそう）
3. 理想とする子どもの数よりも多い（多くなりそう）
4. わからない

### 【理想と実際の子どもの数の差（全体）】

・子どもの数について、「理想とする子どもの数よりも少ない（少くなりそう）」が40.3%と最も割合が高く、「理想通り」が36.4%、「多い（多くなりそう）」が3.2%、「わからない」が20.1%となっている。

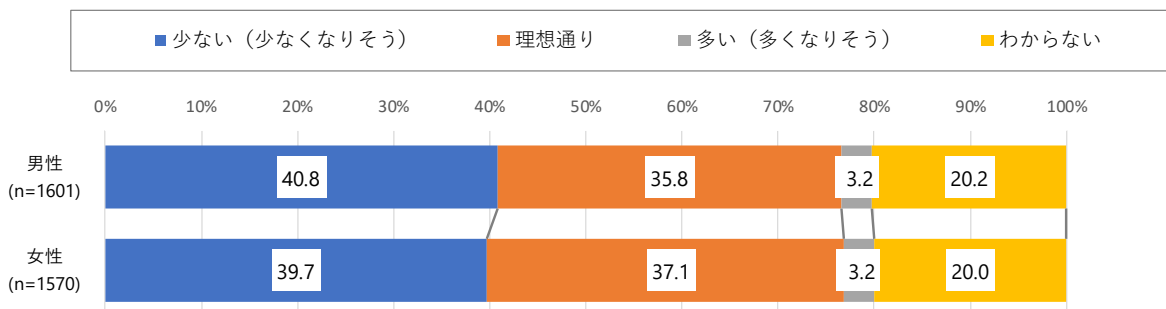
### ■ 理想と実際の子どもの数の差（全体）（n=3,180）



### 【理想と実際の子どもの数の差（性別）】

・男女ともに「少ない（少くなりそう）」が約4割となっており、男女での割合の差はほぼみられない。

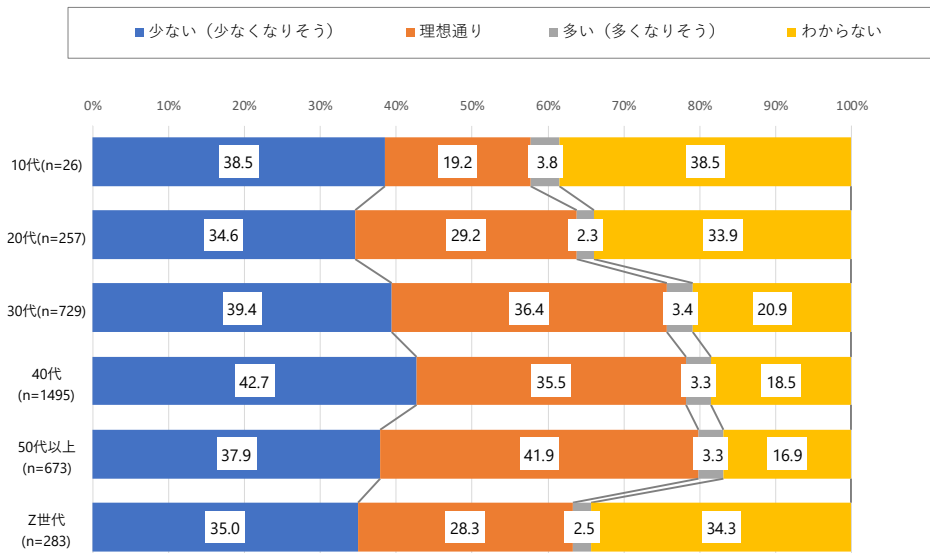
### ■ 理想と実際の子どもの数の差（性別）



【理想と実際の子どもの数の差（年代別）】

・30代では「少ない（少なくなりそう）」の39.4%とほぼ並んで、「理想通り」が36.4%と高くなっている。

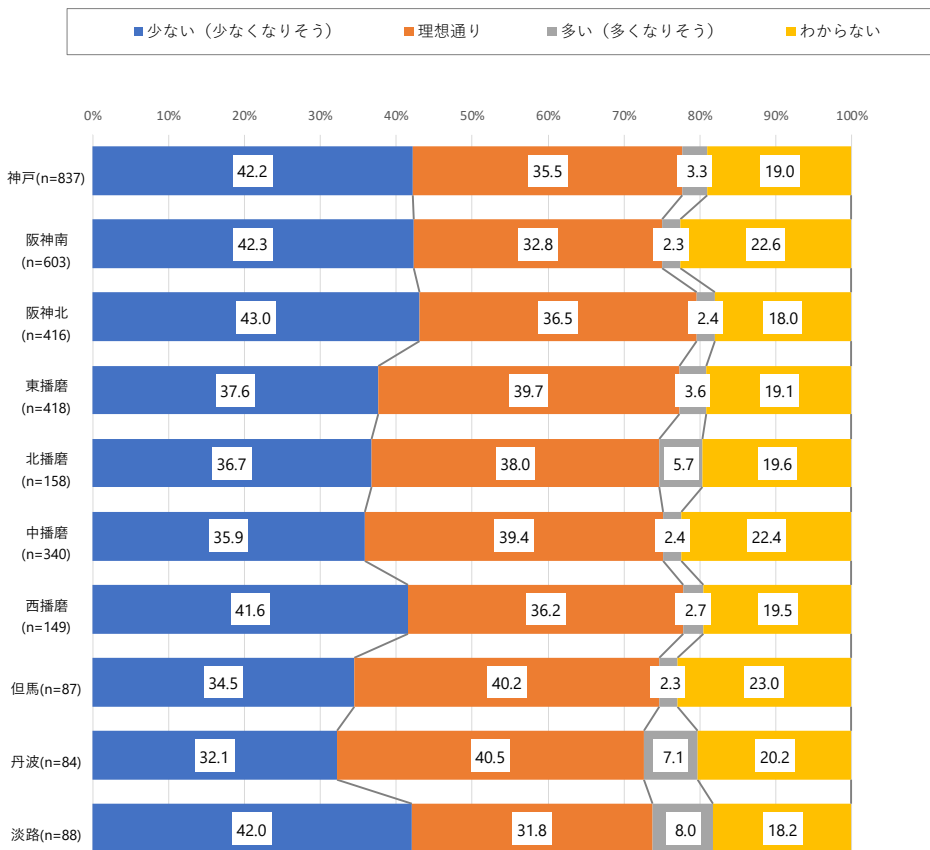
■ 理想と実際の子どもの数の差（年代別）



【理想と実際の子どもの数の差（地域別）】

・但馬と丹波では「理想通り」が40%以上を占めており、他の地域に比べてやや高くなっている。  
 ・東播磨では「理想通り」が39.7%、「少ない（少なくなりそう）」が37.6%とほぼ同率で並んでいる。

■ 理想と実際の子どもの数の差（地域別）

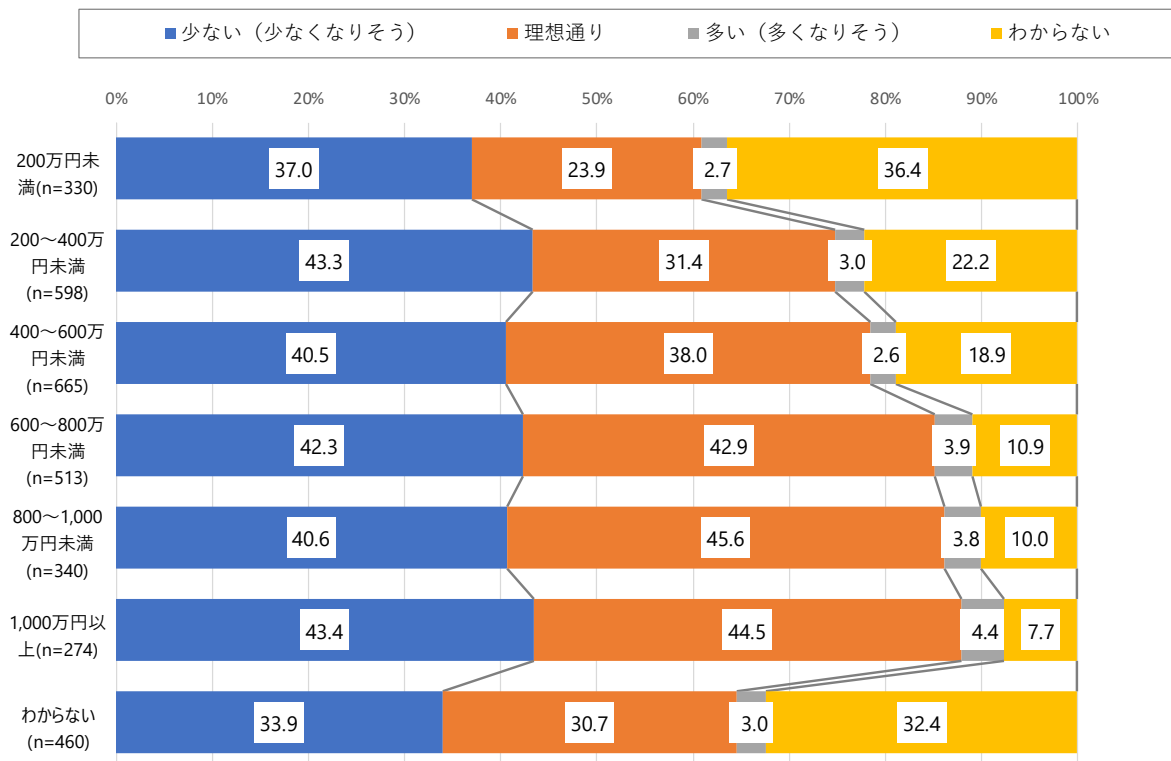




【理想と実際の子どもの数の差（世帯年収別）】

・世帯年収が上がるにつれて「理想通り」と回答する割合が高くなっている。

■ 理想と実際の子どもの数の差（世帯年収別）

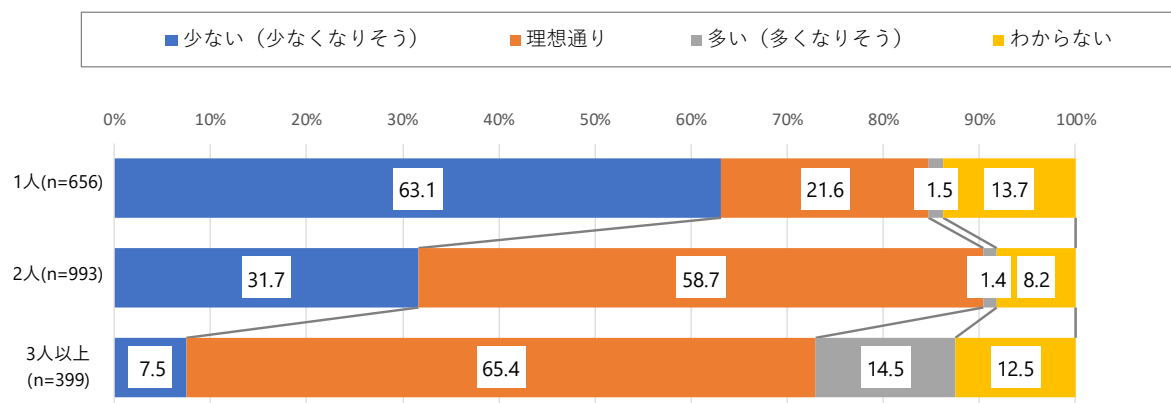


【理想と実際の子どもの数の差（子どもの人数別）】

・子どもが1人いる人で「少ない (少なくなりそう)」が63.1%と最も高くなっており、現状に満足していないことがうかがえる。

・また、子どもが“2人以上”いる人は「理想通り」が半数以上を占めて最も高く、おおむね満足していると推測される。

■ 理想と実際の子どもの数の差（子どもの人数別）





#### 【理想よりも子どもの数が少ない理由（性別）】

- ・女性は「高年齢で産むのはいやだから」が26.3%となっており、男性（19.1%）よりも高くなっている。
- ・また、女性は「子育てや教育にお金がかかる」（52.8%）や「健康上の理由で妊娠・出産が難しい」（12.0%）、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられない」（18.8%）、「育児に自信がない」（10.1%）、「欲しいけれどもできない」（15.1%）などで男性と比べて割合が高くなっている。

#### 【理想よりも子どもの数が少ない理由（年代別）】

- ・10～20代（Z世代含む）で「子育て教育にお金がかかる」が6割以上となっており、20代では7割を超えている。
- ・10代では「仕事と子育ての両立が難しい」（50.0%）や「育児に自信がない」（30.0%）が他の層に比べて割合が高くなっている。
- ・30～50代以上では「高年齢で産むのはいやだから」が低い年代よりも比較的割合が高くなっている。

#### 【理想よりも子どもの数が少ない理由（地域別）】

- ・北播磨で「育児に自信がない」が22.4%と、他の地域に比べて割合が高くなっている。
- ・西播磨や但馬、淡路で「子育て支援の施策やサービスが十分でない」が他の地域に比べて割合が高くなっている。
- ・但馬で「自分の趣味や自由な時間を優先したい」が26.7%と比較的割合が高くなっている。

#### 【理想よりも子どもの数が少ない理由（世帯年収別）】

- ・800万円未満の人で「子育てや教育にお金がかかる」が5割以上と比較的割合が高く、800万円以上になると、30～40%台に下がっている。

#### 【理想よりも子どもの数が少ない理由（夫婦の就業状況別）】

- ・片働きの世帯は「育児の心理的、肉体的負担に耐えられない」が20.5%となっており、やや共働き世帯（14.3%）より高くなっているが、大きな差はみられない。

#### 【理想よりも子どもの数が少ない理由（子どもの人数別）】

- ・子どもが3人以上の人は「自分の趣味や自由な時間を優先したい」（26.7%）が比較的割合が高い。
- ・子どもが1～2人では「健康上の理由で妊娠・出産が難しい」と「仕事と子育ての両立が難しい」、「家事・育児に配偶者の協力が得られない」が、子どもが3人以上の人に比べて比較的割合が高くなっている。

■ 理想よりも子どもの数が少ない理由（性別、年代別、地域別、世帯年収別、夫婦の就業状況別、子どもの人数別）（1/2）

(%)

		回答者数 (n)	自分の趣味や自由な時間を優先したい	配偶者との関係を大切にしたい	配偶者が子どもを欲しがらない	高齢で産むのはいやだから	健康上の理由で妊娠・出産が難しい	子育てや教育にお金がかかる	育児の心理的、肉体的負担に耐えられない	育児に自信がない	仕事と子育ての両立が難しい
全体		1280	15.9	9.1	7.3	22.6	10.8	51.1	15.7	9.0	22.2
性別	男性	653	17.9	13.6	9.5	19.1	9.3	49.5	12.6	7.8	22.8
	女性	623	14.0	4.3	5.0	26.3	12.0	52.8	18.8	10.1	21.5
年代別	10代	10	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	60.0	20.0	30.0	50.0
	20代	89	22.5	13.5	1.1	5.6	6.7	70.8	16.9	15.7	23.6
	30代	287	16.7	9.8	8.0	21.3	9.8	56.1	23.3	15.0	26.1
	40代	639	16.7	10.3	7.2	28.2	11.3	48.5	13.6	7.4	18.5
	50代以上	255	11.0	3.9	8.6	16.9	12.2	44.7	11.8	3.1	25.5
	Z世代	99	21.2	12.1	2.0	5.1	7.1	69.7	17.2	17.2	26.3
地域別	神戸	353	16.4	9.6	7.6	22.9	9.9	44.8	18.4	8.8	20.4
	阪神南	255	14.9	9.4	9.0	23.9	8.6	48.6	12.2	5.9	22.4
	阪神北	179	15.1	7.8	7.8	20.1	11.7	54.2	16.2	7.8	23.5
	東播磨	157	15.9	7.0	7.6	22.3	15.9	56.1	13.4	8.9	16.6
	北播磨	58	17.2	5.2	6.9	27.6	10.3	65.5	15.5	22.4	31.0
	中播磨	122	15.6	13.1	4.9	20.5	11.5	54.9	16.4	10.7	24.6
	西播磨	62	16.1	3.2	3.2	25.8	11.3	51.6	16.1	12.9	19.4
	但馬	30	26.7	16.7	10.0	13.3	6.7	53.3	23.3	6.7	30.0
	丹波	27	7.4	3.7	3.7	25.9	7.4	59.3	22.2	7.4	33.3
	淡路	37	18.9	16.2	2.7	21.6	10.8	48.6	8.1	8.1	24.3
世帯年収別	200万円未満	122	17.2	9.0	3.3	21.3	10.7	51.6	18.0	18.9	15.6
	200～400万円未満	259	15.8	7.7	5.4	21.6	8.9	56.0	13.5	7.3	27.0
	400～600万円未満	269	18.2	11.5	5.9	22.7	11.2	53.9	18.2	8.9	20.1
	600～800万円未満	217	16.1	8.3	12.0	21.7	10.6	51.6	15.2	6.5	17.1
	800～1,000万円未満	138	13.8	10.9	5.8	19.6	13.8	47.1	14.5	8.7	22.5
	1,000万円以上	119	13.4	7.6	15.1	32.8	12.6	33.6	14.3	8.4	26.1
	わからない	156	14.7	7.7	4.5	21.2	9.6	53.8	16.0	8.3	26.9
夫婦の就業状況別	共働き世帯	596	16.9	10.9	10.6	23.2	12.1	48.3	14.3	6.9	22.7
	片働き世帯	234	11.5	4.3	7.3	20.5	12.8	52.1	20.5	5.6	18.4
	その他	41	4.9	2.4	9.8	7.3	19.5	39.0	12.2	4.9	39.0
子どもの数	1人	414	12.1	6.8	9.9	21.7	11.6	50.7	18.6	3.9	22.0
	2人	315	13.3	8.9	9.8	19.0	12.1	57.5	17.8	4.8	23.5
	3人以上	30	26.7	13.3	6.7	16.7	0.0	56.7	10.0	3.3	13.3

■ 理想よりも子どもの数が少ない理由（性別、年代別、地域別、世帯年収別、夫婦の就業状況別、子どもの人数別）（2/2） （%）

		回答者数 (n)	不安を感じる キャリア形成・ キャリアアップに	住宅面で課題がある (家が狭い・ 家賃が高い等)	家事・育児に配偶者の 協力が得られない	保育所等の預け先施設が 十分でない	子育て支援の施策やサー ビスが十分でない	継続する環境が十分な 助成や治療を	不妊治療等に対する 助成や治療を	欲しいけれどもできない	理想的な環境が十分 整備されていない	結婚しなくても子どもを 生み育てたい	その他
全体		1280	2.7	7.3	4.8	5.5	8.5	6.0	12.4	4.4	3.4		
性別	男性	653	2.8	10.3	3.2	4.9	9.6	4.3	10.0	4.3	2.9		
	女性	623	2.7	4.2	6.3	6.3	7.4	7.9	15.1	4.3	4.0		
年代別	10代	10	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0		
	20代	89	4.5	3.4	3.4	4.5	11.2	2.2	6.7	5.6	1.1		
	30代	287	3.5	7.3	5.6	4.5	7.7	7.7	11.5	2.4	1.7		
	40代	639	2.7	6.7	4.4	3.9	7.5	6.3	12.8	4.9	4.5		
	50代以上	255	1.6	10.2	5.5	11.4	11.0	5.1	14.9	5.1	3.1		
	7世代	99	4.0	3.0	3.0	4.0	11.1	2.0	6.1	5.1	2.0		
地域別	神戸	353	3.1	4.0	5.7	5.4	8.5	4.5	11.6	4.2	3.1		
	阪神南	255	3.1	10.2	3.9	7.1	7.8	7.1	14.1	4.7	3.5		
	阪神北	179	1.1	8.4	4.5	3.9	10.1	8.9	15.1	3.4	5.0		
	東播磨	157	2.5	8.3	2.5	8.9	7.0	4.5	12.7	6.4	1.3		
	北播磨	58	1.7	8.6	1.7	5.2	8.6	5.2	12.1	1.7	3.4		
	中播磨	122	3.3	7.4	7.4	2.5	4.9	5.7	13.1	6.6	4.1		
	西播磨	62	6.5	3.2	6.5	8.1	11.3	6.5	8.1	3.2	0.0		
	但馬	30	0.0	10.0	10.0	3.3	16.7	10.0	10.0	3.3	0.0		
	丹波	27	0.0	11.1	3.7	3.7	7.4	11.1	3.7	0.0	14.8		
	淡路	37	2.7	8.1	2.7	0.0	13.5	0.0	8.1	2.7	5.4		
世帯年収別	200万円未満	122	0.8	8.2	4.9	4.9	9.8	1.6	9.0	8.2	5.7		
	200～400万円未満	259	1.9	8.5	2.3	8.5	8.9	5.8	10.0	6.2	3.5		
	400～600万円未満	269	3.0	7.8	6.3	4.5	6.7	5.6	10.0	3.0	3.0		
	600～800万円未満	217	3.7	8.3	6.9	5.5	9.7	7.8	16.6	0.9	3.2		
	800～1,000万円未満	138	3.6	3.6	4.3	5.8	6.5	5.8	18.8	2.9	2.9		
	1,000万円以上	119	5.9	5.9	1.7	2.5	7.6	9.2	16.8	1.7	2.5		
	わからない	156	0.6	6.4	5.8	5.1	10.9	5.8	8.3	9.0	3.8		
夫婦の就業 状況別	共働き世帯	596	2.9	6.2	5.2	4.2	7.9	7.4	14.1	1.7	2.3		
	片働き世帯	234	2.6	8.1	6.4	6.4	10.7	9.4	14.1	2.6	3.0		
	その他	41	0.0	14.6	4.9	17.1	4.9	0.0	14.6	9.8	0.0		
子どもの数	1人	414	2.4	6.3	7.2	5.3	8.5	6.8	14.7	3.4	4.1		
	2人	315	2.5	11.1	5.4	7.0	7.6	1.0	4.8	3.2	3.8		
	3人以上	30	0.0	10.0	0.0	3.3	10.0	13.3	16.7	3.3	0.0		

#### (4) 不妊について

##### 【全員】

Q20 不妊について不安や悩みがある／ありましたか？また、不妊治療の経験はありますか？

##### (1) 悩みの有無（1つ）

1. 子どもができないことを心配したことはない
2. 過去に子どもができないのではないかと心配したことがある
3. 現在、子どもができないのではないかと心配している

【Q20 (1) 2 または 3 を選択した方のみ】

##### (2) 不妊治療の経験の有無（1つ）

1. 特に医療機関にかかったことはない
2. 過去に検査や治療を受けたことがある
3. 現在、検査や治療を受けている

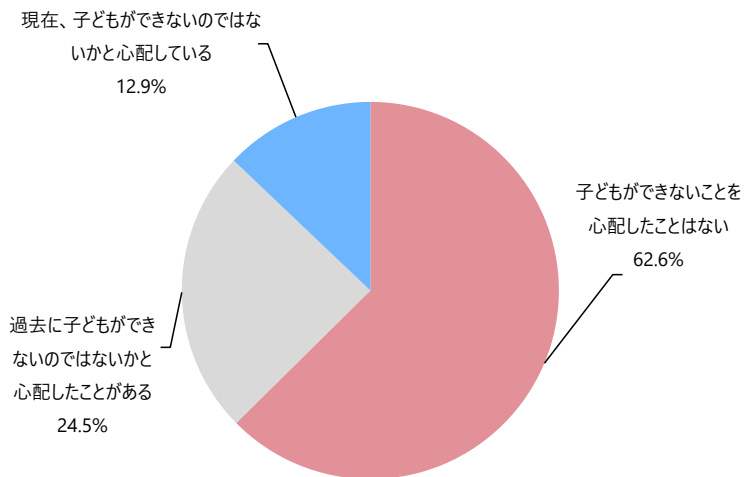
#### (4) -1 不妊についての不安や悩み

##### 【不妊についての不安や悩み（全体）】

・不妊についての不安や悩みについては、「子どもができないことを心配したことはない」が62.6%と最も割合が高くなっている。

・以下、「過去に子どもができないのではないかと心配したことがある」(24.5%)、「現在、子どもができないのではないかと心配している」(12.9%)と続いている。

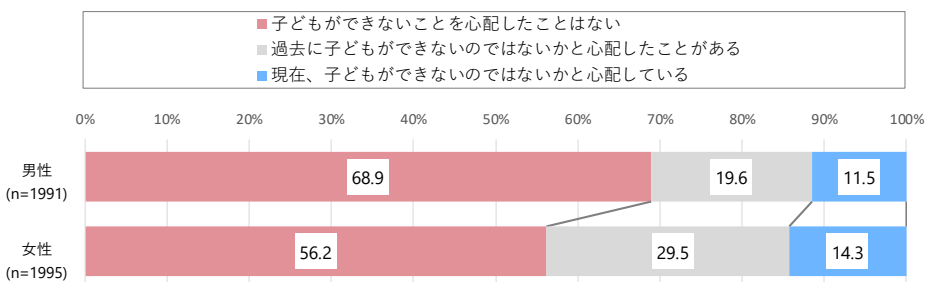
##### ■ 不妊についての不安や悩み（全体）(n=4,000)



##### 【不妊についての不安や悩み（性別）】

・女性では「過去に子どもができないのではないかと心配したことがある」が29.5%で男性（19.6%）と比べて約10ポイント高くなっている。

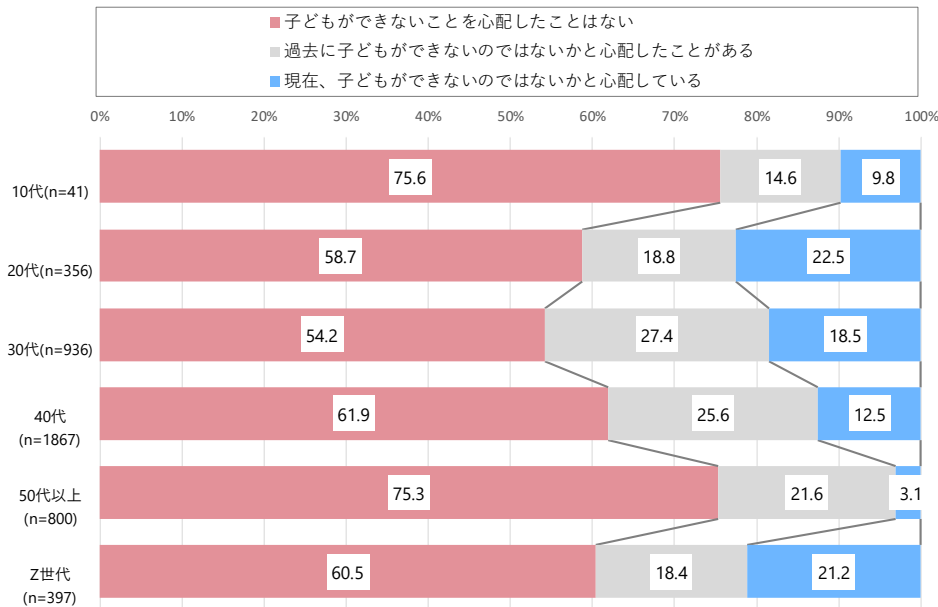
##### ■ 不妊についての不安や悩み（性別）



### 【不妊についての不安や悩み（年代別）】

- ・20代で、「現在、子どもができないのではないかと心配している」が22.5%と比較的割合が高く、年代が上がるとともに低くなっていく傾向にある。
- ・10代と50代以上では、「子どもができないことを心配したことはない」がそれぞれ7割を超えている。

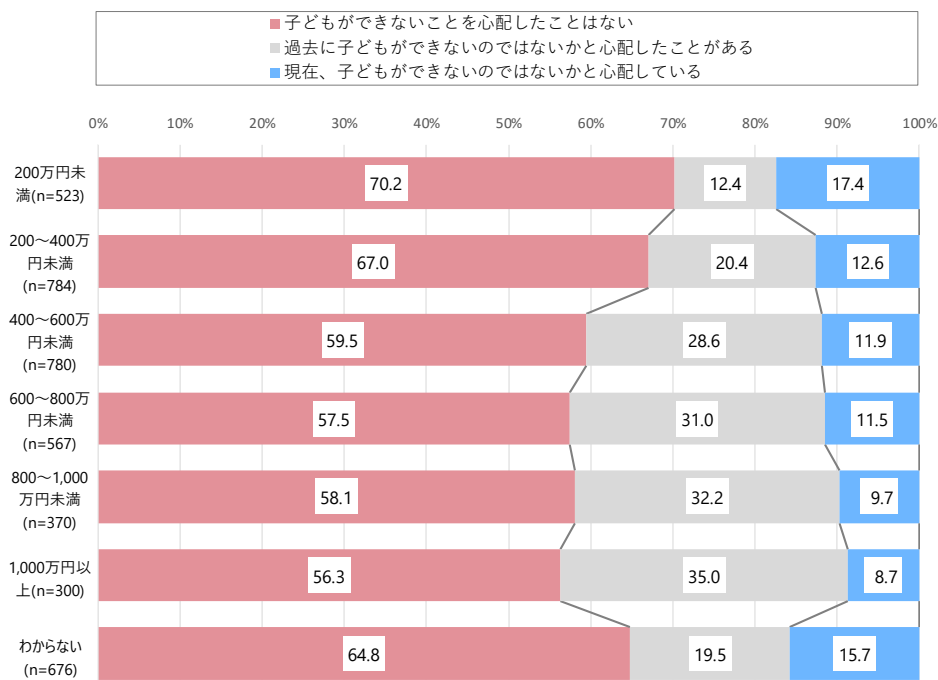
#### ■ 不妊についての不安や悩み（年代別）



### 【不妊についての不安や悩み（世帯年収別）】

- ・400万円未満で、「子どもができないことを心配したことはない」が6割以上と割合が高くなっている。
- ・一方、400万円以上で“心配したことがある”（過去に子どもができないのではないかと心配したことがある+現在、子どもができないのではないかと心配している）が4割を超えている。

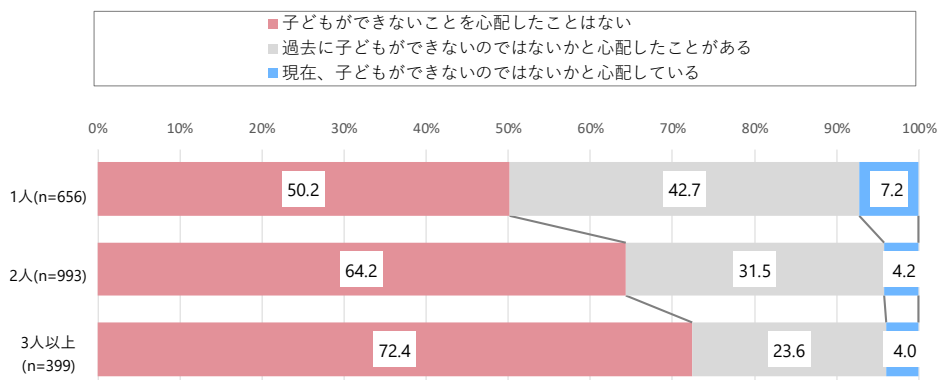
#### ■ 不妊についての不安や悩み（世帯年収別）



### 【不妊についての不安や悩み（子どもの人数別）】

- ・子どもの人数が多い人ほど「子どもができないことを心配したことはない」の割合が高くなる傾向にあり3人以上では7割を超えている。
- ・子どもが1人の人は「子どもができないことを心配したことはない」と“心配したことがある”がほぼ同じ割合になっている。

### ■ 不妊についての不安や悩み（子どもの人数別）



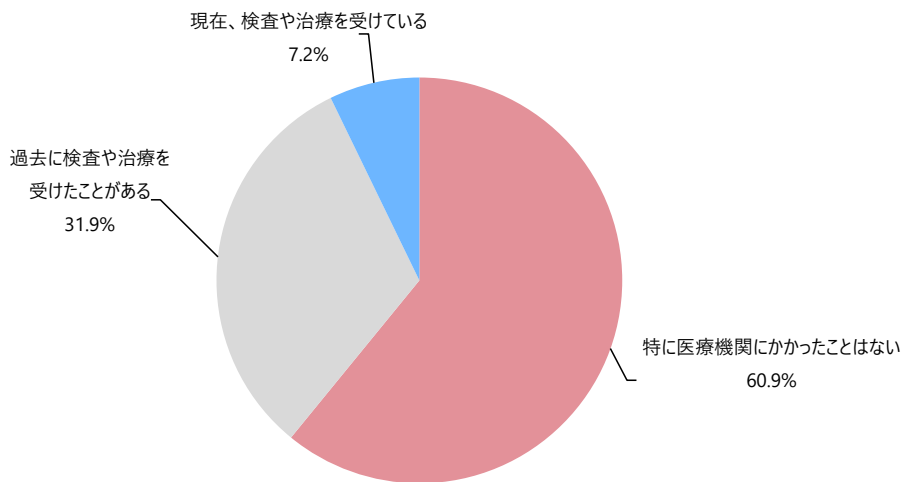


(4) -2 不妊治療の経験

【不妊治療の経験（全体）】

・不妊治療の経験については、「特に医療機関にかかったことはない」が60.9%と最も割合が高く、次いで「過去に検査や治療を受けたことがある」(31.9%)、「現在、検査や治療を受けている」(7.2%)と続く。  
 ・“治療を受けた”（過去に検査や治療を受けたことがある+現在、検査や治療を受けている）は39.1%となっており、「特に医療機関にかかったことはない」と“治療を受けた”の比率は6：4となっている。

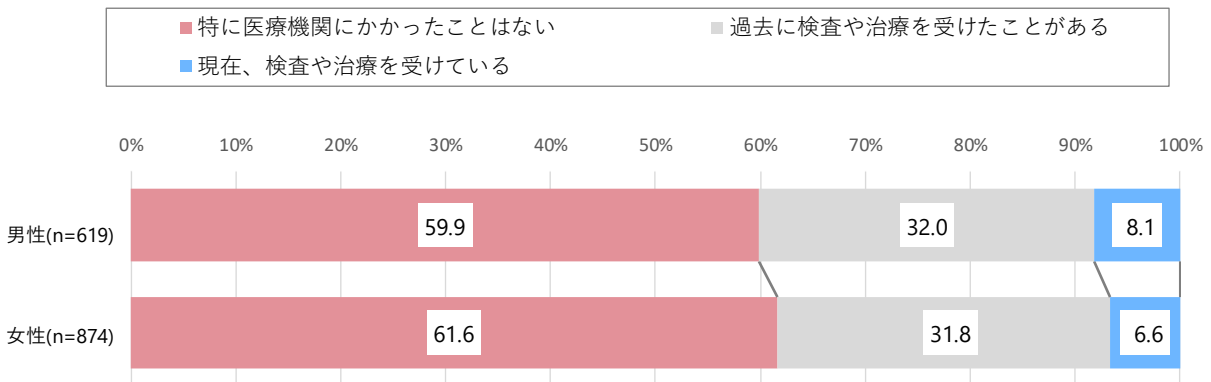
■ 不妊治療の経験（全体）(n=1,496)



【不妊治療の経験（性別）】

・男女ともに全体の結果とほぼ変わりなく、男女での差はみられなかった。

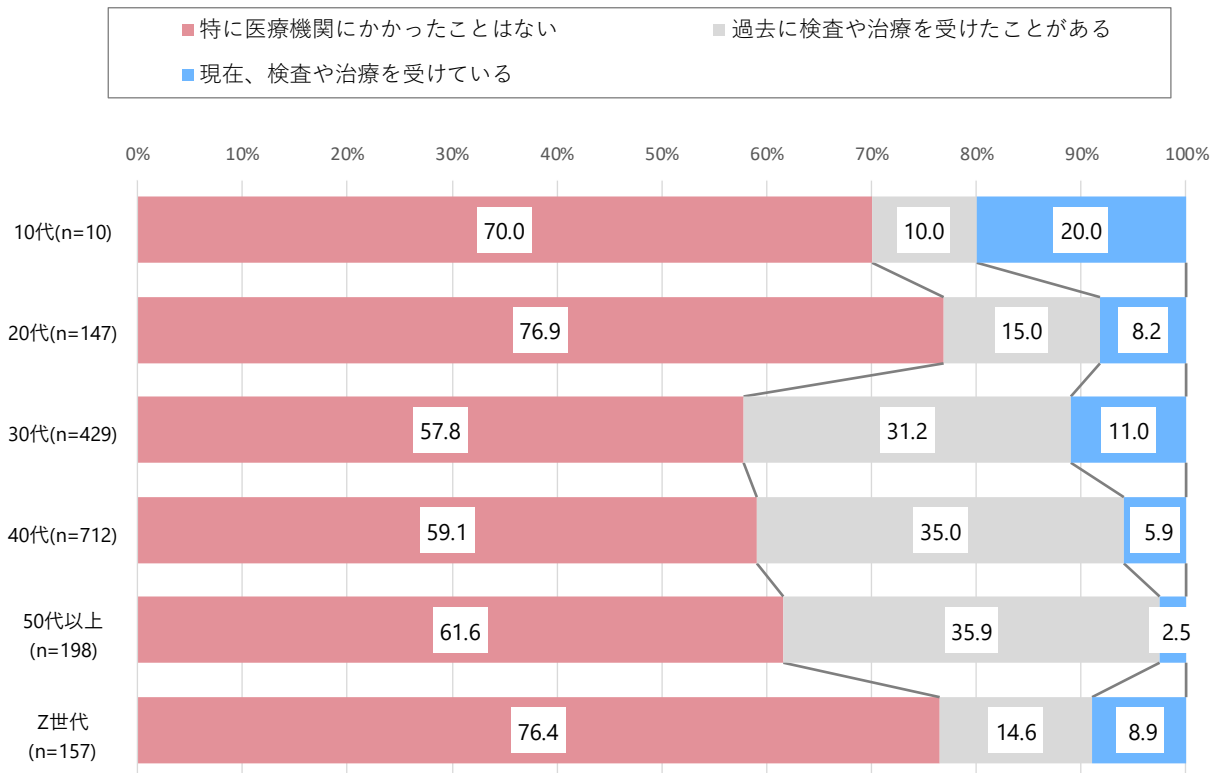
■ 不妊治療の経験（性別）



【不妊治療の経験（年代別）】

・30～50代以上で「過去に検査や治療を受けたことがある」が3割台と他の年代に比べて割合が高くなっている。  
 ・一方、10～20代、Z世代の若い層では「特に医療機関にかかったことはない」が7割以上となっている。

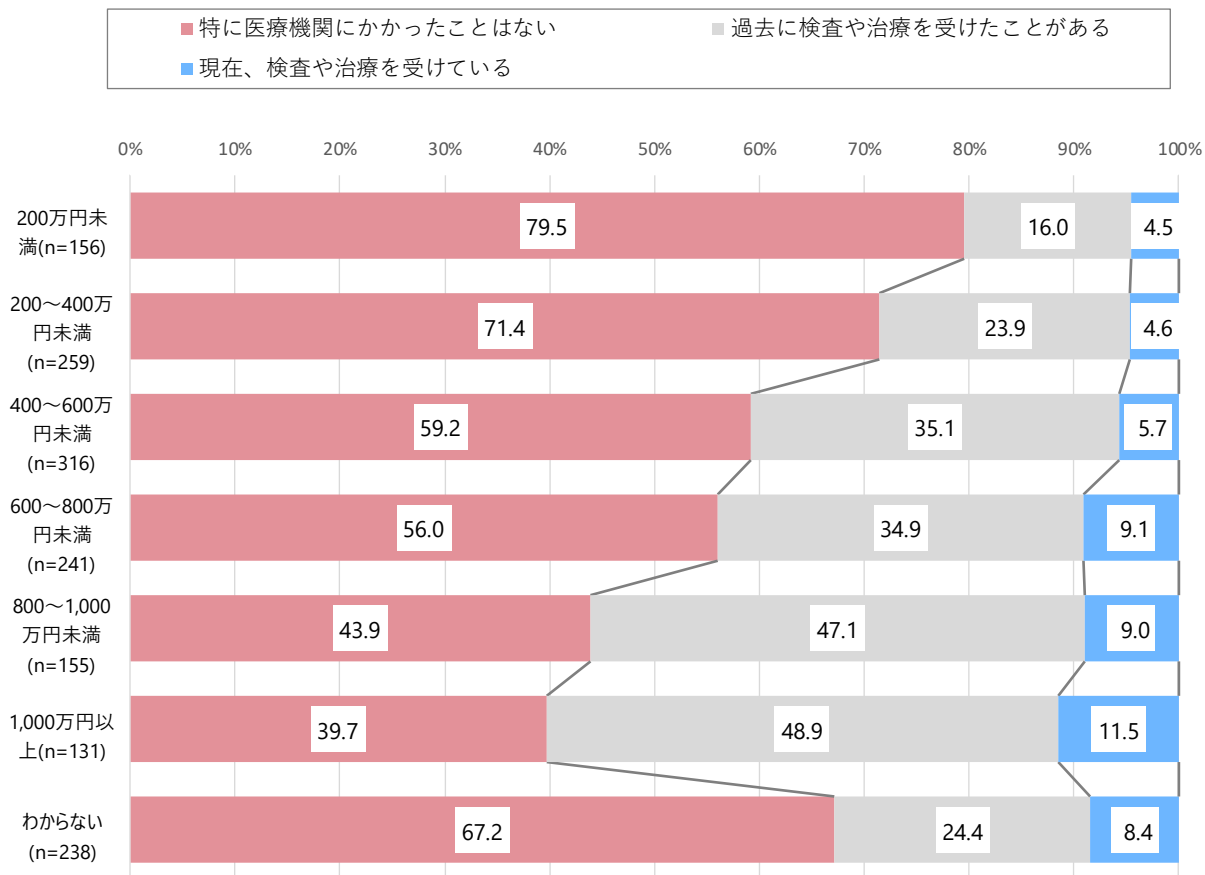
## ■ 不妊治療の経験（年代別）



### 【不妊治療の経験（世帯年収別）】

- ・世帯年収が多くなるほど“治療を受けた”の割合が高く、1,000万円以上では60.4%となっている。
- ・一方、世帯年収が低いほど「特に医療機関にかかったことはない」の割合が高くなっている。

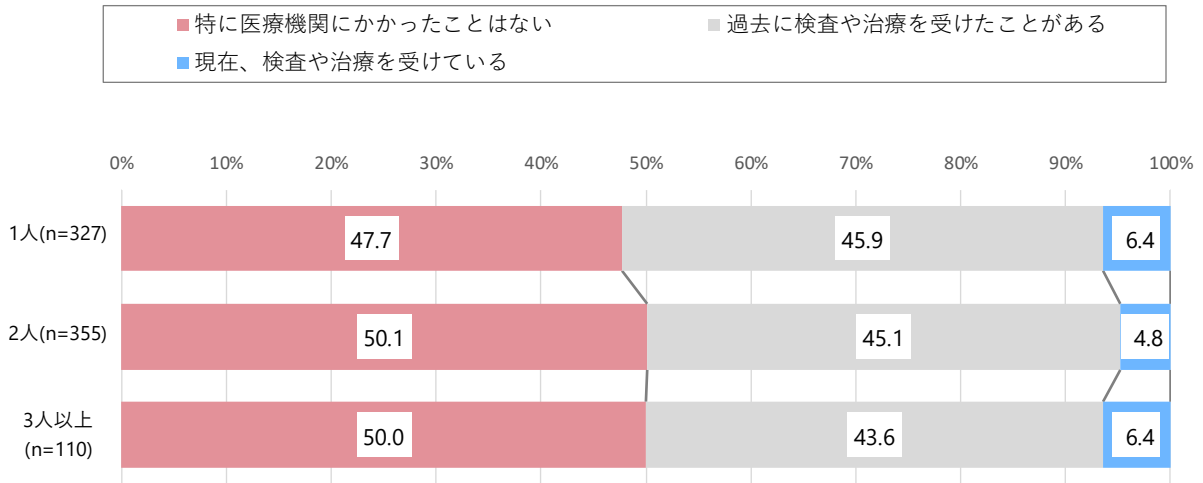
## ■ 不妊治療の経験（世帯年収別）



### 【不妊治療の経験（子どもの人数別）】

・子どもの人数にかかわらず「特に医療機関にかかったことはない」と“治療を受けた”の割合はほぼ同じ割合となっている。

#### ■ 不妊治療の経験（子どもの人数別）

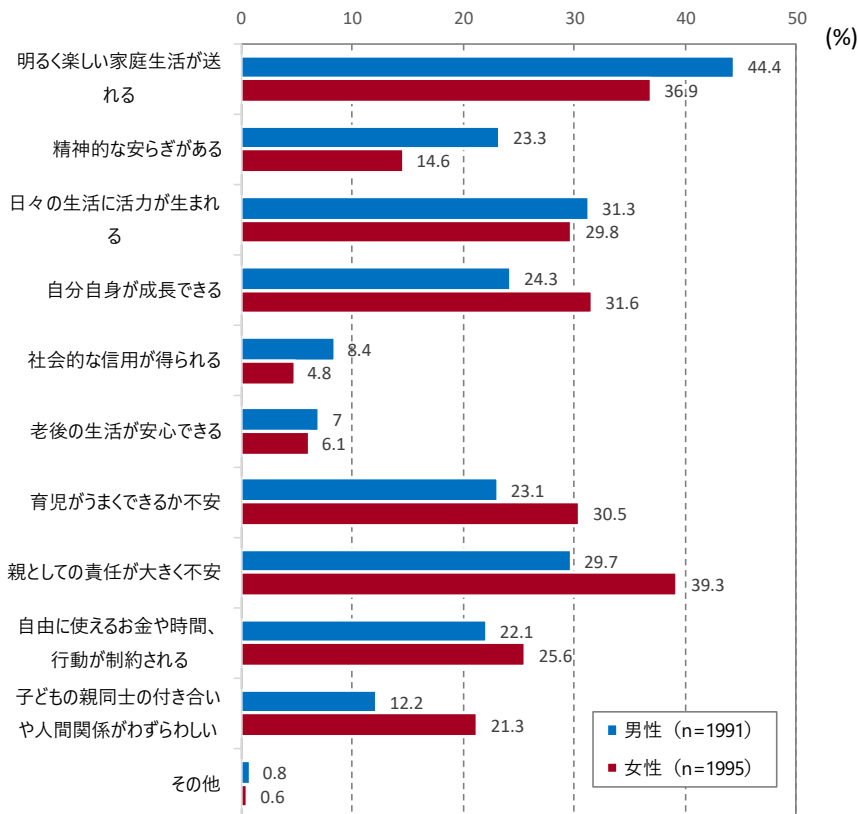




### 【子育てのイメージ（性別）】

- ・男性は「明るく楽しい家庭生活が送れる」（44.4%）や「日々の生活に活力が生まれる」（31.3%）、  
「精神的な安らぎがある」（23.3%）といった良いイメージで女性よりも割合が高くなっている。
- ・一方、女性は「育児がうまくできるか不安」（30.5%）や「親としての責任が大きく不安」（39.3%）、  
「子どもの親同士の付き合いや人間関係がわずらわしい」（21.3%）などの不安を感じる項目で、男性と  
大きな差がみられることから、男性よりも女性の方がより不安を感じていることがうかがえる。

### ■ 子育てのイメージ（性別）



### 【子育てのイメージ（年代別）】

- ・子育てに対する良いイメージは年代が高い層ほど割合が高く、不安面では年代の低い層ほど感じている傾向がみられる。

### 【子育てのイメージ（ライフステージ別）】

- ・独身者と夫婦のみで「親としての責任が大きく不安」や「育児がうまくできるか不安」、「子どもの親同士の付き合いや人間関係がわずらわしい」といった不安面をあげる人が多くなっている。
- ・一方、子どもがいるファミリー層では「明るく楽しい家庭生活が送れる」や「日々の生活に活力が生まれる」、「自分自身が成長できる」といった、良いイメージを持っている人が多くなっている。

### 【子育てのイメージ（世帯年収別）】

- ・年収が高くなるほど「明るく楽しい家庭生活が送れる」と「日々の生活に活力が生まれる」の割合が高くなっている。

・一方、年収が低くなるほど「親としての責任が大きく不安」や「育児がうまくできるか不安」がおおむね高くなる傾向にある。

■ 子育てのイメージ（年代別、ライフステージ別、世帯年収別） (％)

		回答者数 (n)	明るく楽しい家庭生活が送れる	精神的な安らぎがある	日々の生活に活力が生まれる	自分自身が成長できる	社会的な信用が得られる	老後の生活が安心できる	育児がうまくできるか不安	親としての責任が大きく不安	自由に使えるお金や時間、行動が	関係がわずらわしい	子どもの親同士の付き合いや人間	その他
全体		4000	40.6	18.9	30.5	27.9	6.6	6.6	26.8	34.6	23.9	16.8	0.7	
年代別	10代	41	58.5	4.9	19.5	17.1	2.4	4.9	31.7	41.5	19.5	9.8	0.0	
	20代	356	38.2	13.2	19.4	23.0	6.5	6.5	34.3	37.9	22.8	14.9	0.3	
	30代	936	39.2	15.5	27.7	24.7	6.8	6.2	31.4	36.5	27.7	18.3	0.6	
	40代	1867	41.3	19.3	29.9	29.4	6.3	6.7	25.3	33.6	23.2	16.9	0.9	
	50代以上	800	40.5	25.3	40.6	31.0	7.3	6.8	21.1	33.0	21.6	16.1	0.5	
	Z世代	397	40.3	12.3	19.4	22.4	6.0	6.3	34.0	38.3	22.4	14.4	0.3	
ライフステージ別	独身者	1459	26.7	13.2	19.2	20.1	6.9	8.2	32.2	42.6	27.3	24.7	1.1	
	夫婦のみ	493	36.3	13.2	23.9	28.4	5.3	8.5	30.0	31.4	20.9	19.5	1.0	
	ベビーファミリー層	629	54.5	21.9	38.6	31.0	7.2	5.2	28.3	29.6	23.1	9.2	0.2	
	ヤングファミリー層	457	52.3	24.9	34.4	34.8	7.2	7.0	19.7	30.9	21.7	9.0	0.2	
	ファミリー層	962	49.1	25.6	43.9	34.3	6.1	3.7	19.1	29.3	21.6	12.2	0.4	
世帯年収別	200万円未満	523	29.1	15.1	22.0	21.8	5.4	7.1	32.3	45.3	25.4	24.3	1.1	
	200～400万円未満	784	35.3	17.5	27.4	25.9	8.3	7.4	28.8	36.6	26.3	18.6	1.0	
	400～600万円未満	780	42.8	22.1	32.7	28.2	7.4	6.5	29.1	32.7	23.2	13.2	0.4	
	600～800万円未満	567	49.0	21.2	34.7	31.4	7.1	6.7	25.0	31.9	24.0	10.2	0.2	
	800～1,000万円未満	370	48.9	21.4	40.5	34.3	7.3	6.2	22.4	30.5	22.2	10.3	0.5	
	1,000万円以上	300	54.3	25.7	40.3	35.3	8.0	7.0	18.7	24.7	20.7	10.7	1.0	
	わからない	676	35.2	13.6	24.7	25.0	3.3	5.0	24.7	35.2	22.8	24.9	0.6	

## (2) 子育てにかかる費用の負担感

【子どもがいる方のみ】※Q8で「2～6」を選択した方

Q22 子育てにかかる費用について、子どもを持つ前に思っていた負担感と比べてどのように感じましたか（1つ選択）

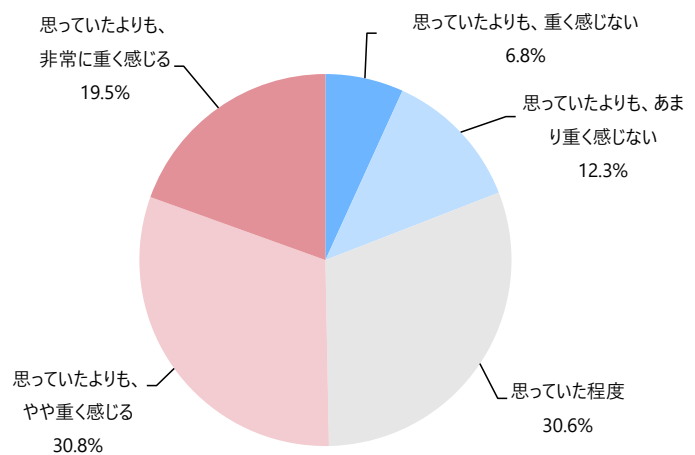
- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 思っていたよりも、重く感じない   | 2. 思っていたよりも、あまり重く感じない |
| 3. 思っていた程度           | 4. 思っていたよりも、やや重く感じる   |
| 5. 思っていたよりも、非常に重く感じる |                       |

### 【子育て費用の負担感（全体）】

・子育てにかかる費用について、「思っていたよりも、やや重く感じる」が30.8%と最も割合が高く、「思っていたよりも、非常に重く感じる」(19.5%)とあわせると50.3%と約半数が“費用面で負担を感じる”と回答している。

・「思っていた程度」が30.6%で、「思っていたよりも、重く感じない」(6.8%)と「思っていたよりも、あまり重く感じない」(12.3%)をあわせて19.1%となっている。

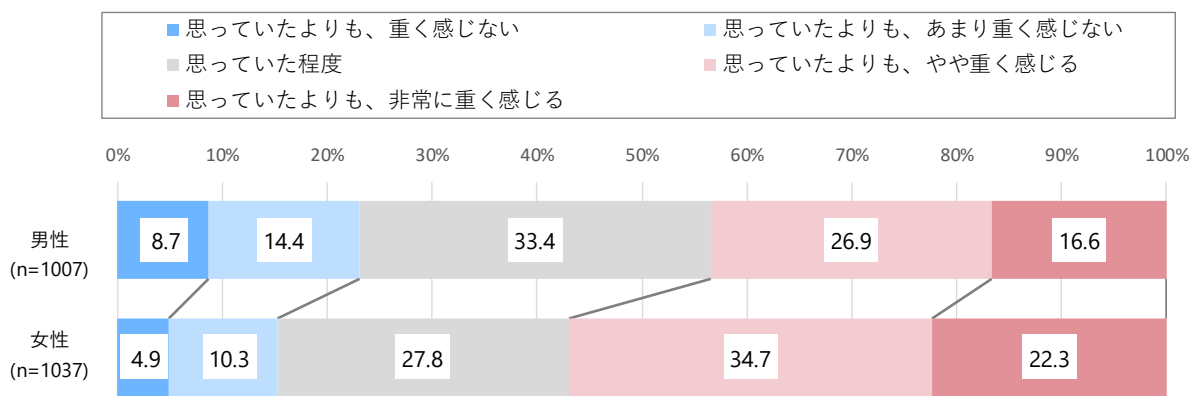
### ■ 子育て費用の負担感（全体）(n=2,048)



### 【子育て費用の負担感（性別）】

・女性で“費用面で負担を感じる人”（やや重く感じる＋非常に重く感じる）が57.0%と半数を超えており、男性の43.5%と比べて割合が高くなっている。

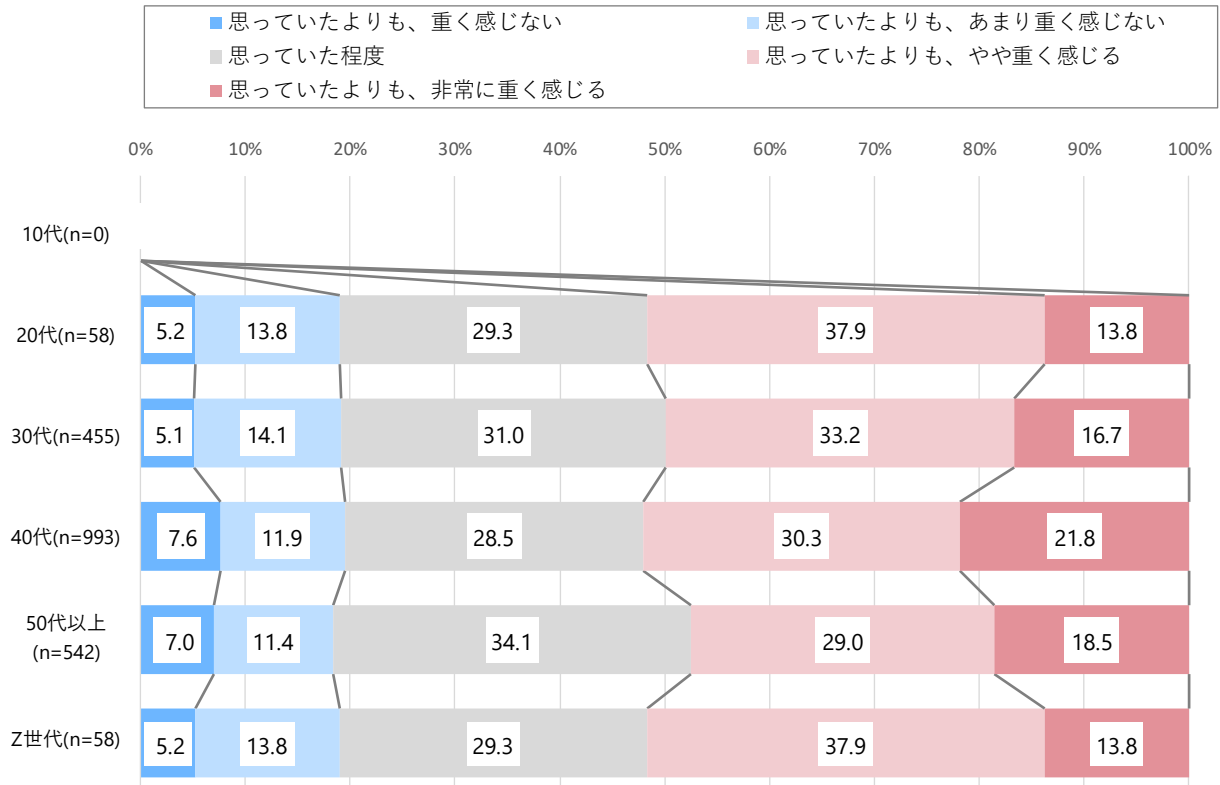
### ■ 子育て費用の負担感（性別）



### 【子育て費用の負担感（年代別）】

- ・全ての年代で“費用面で負担を感じる人”が約半数となっている。
- ・一方、“費用面で負担を感じない人”（重く感じない+あまり重く感じない）では全ての年代で2割未満にとどまっている。

### ■ 子育て費用の負担感（年代別）

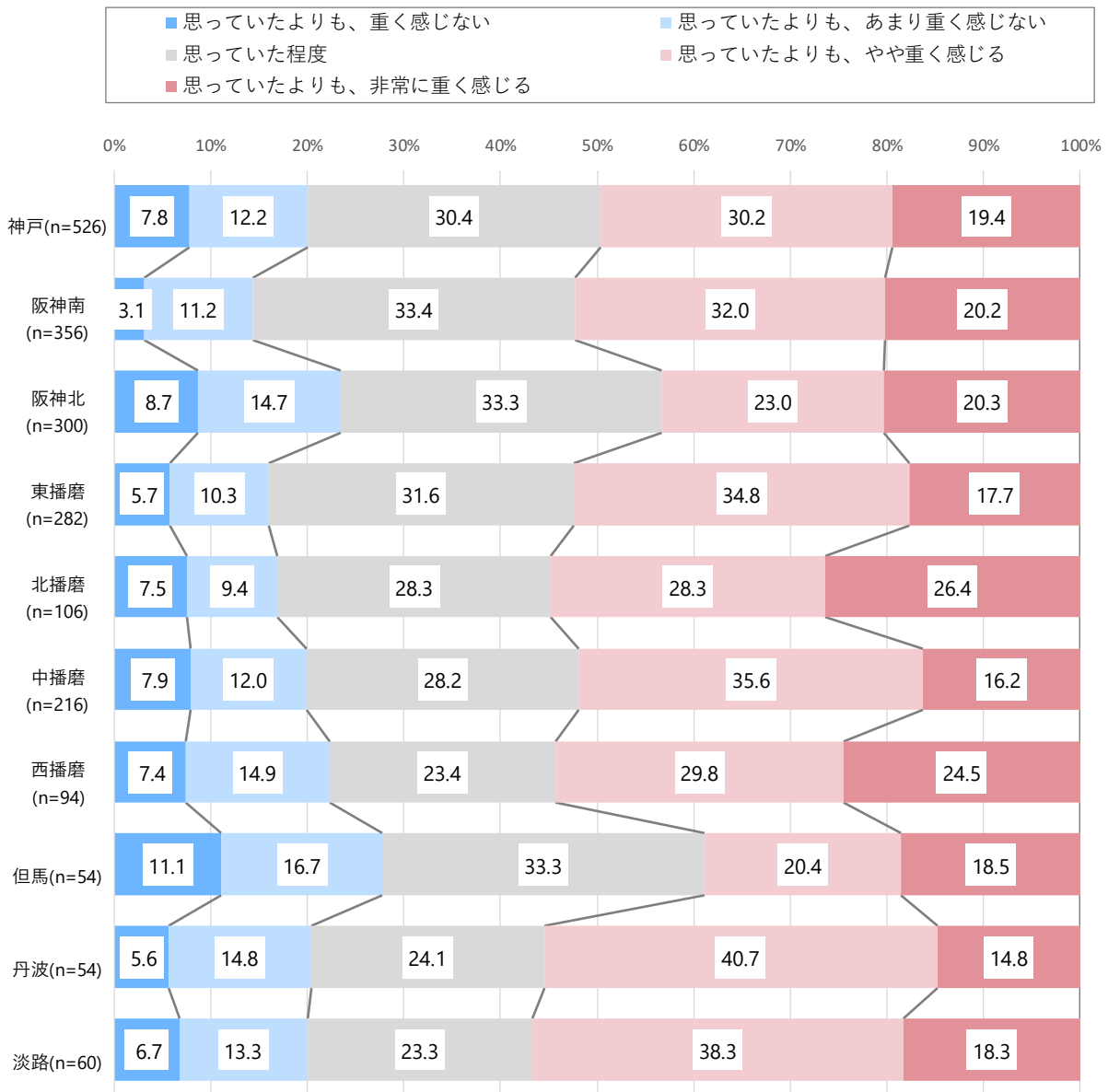




### 【子育て費用の負担感（地域別）】

・但馬で“費用面で負担を感じる人”が38.9%となっており、他の地域に比べて低くなっている。

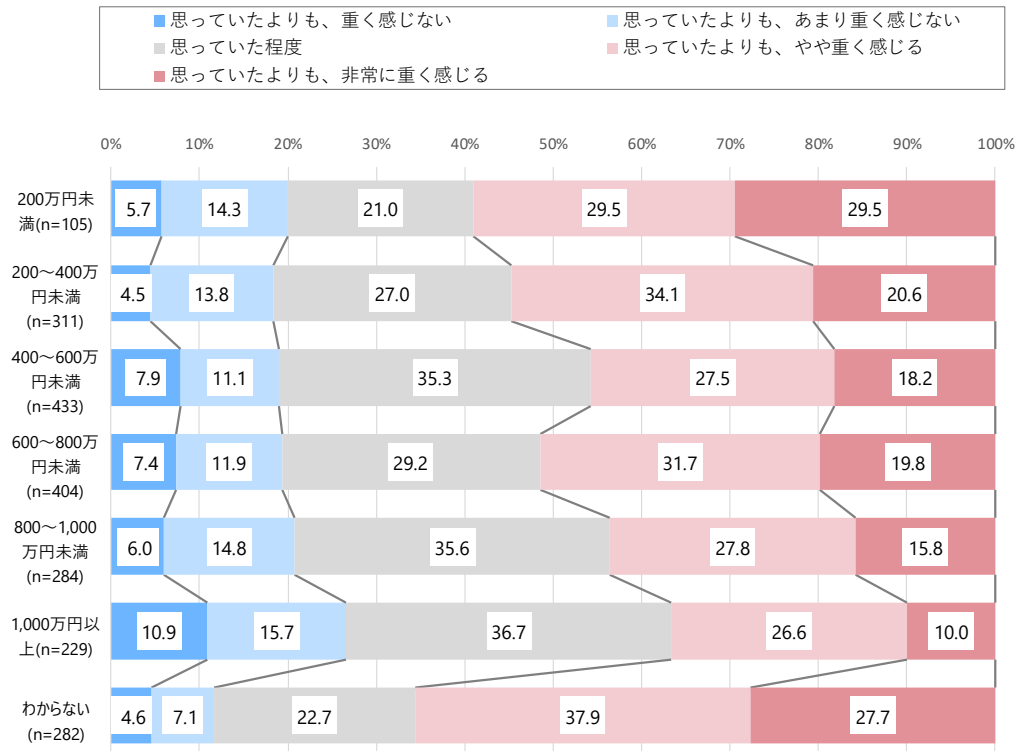
#### ■ 子育て費用の負担感（地域別）



### 【子育て費用の負担感（世帯年収別）】

・200万円未満の人で“費用面で負担を感じる人”が59.0%と特に割合が高く、年収が上がるにつれて負担を感じる人の割合はおおむね低くなり、1,000万円以上の人是最も低く、36.6%にとどまっている。

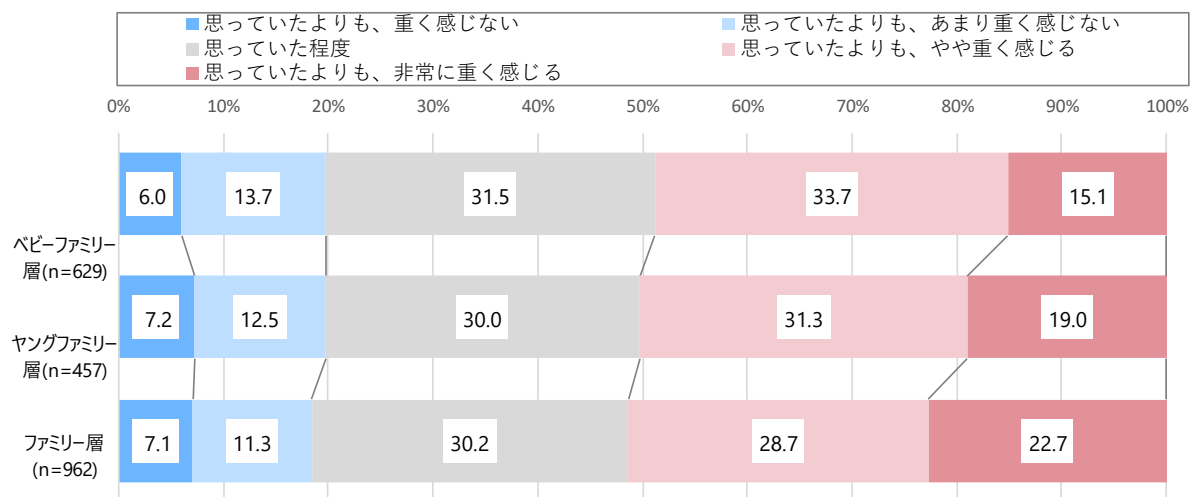
### ■ 子育て費用の負担感（世帯年収別）



### 【子育て費用の負担感（ライフステージ別）】

・末子が中学生以上のファミリー層で“費用面で負担を感じる人”が51.4%と他の層に比べて比較的割合が高く、末子の年代が上がるにつれて負担を感じる人が多くなっている。

### ■ 子育て費用の負担感（ライフステージ別）





【子育ての中で現在負担に感じる費用（地域別）】

・全ての地域で「食費」や、「小中高校にかかる費用」「大学にかかる費用」などの学費が高い傾向にある。

【子育ての中で現在負担に感じる費用（ライフステージ別）】

・ベビーファミリー層では「食費」の52.0%が最も割合が高く、次いで「保育等にかかる費用」が44.0%と高くなっている。

・ヤングファミリー層では「小中高校にかかる費用」が63.0%、ファミリー層では「大学にかかる費用」が50.8%と最も割合が高く、末子の年代に沿った教育費が多くなっている。

【子育ての中で現在負担に感じる費用（世帯年収別）】

・200万円未満で「医療費」が、200～400万円未満では「交通費」が他の層に比べて比較的割合が高くなっている。

・世帯年収にかかわらず“学費”（小中高校にかかる費用+大学にかかる費用）が6～7割台と大きな負担になっていることがうかがえる。

■ 子育ての中で現在負担に感じる費用（地域別、ライフステージ別、世帯年収別） (%)

		回答者数 (n)	食費	衣料・服飾費	医療費	保育等にかかる費用	小中高校にかかる費用	大学にかかる費用	教養娯楽費	交通費	通信費	大学等の進学に伴う仕送り	その他
地域別	神戸	526	41.3	22.1	9.3	20.5	43.0	32.1	18.4	11.2	8.6	8.4	4.4
	阪神南	356	42.1	27.0	10.1	24.7	44.4	30.9	19.4	6.5	6.2	6.5	5.6
	阪神北	300	40.3	20.0	12.0	16.0	44.3	34.3	21.7	12.0	6.0	8.0	5.7
	東播磨	282	35.5	28.4	9.2	13.8	35.8	32.6	19.1	8.9	6.4	9.2	5.3
	北播磨	106	36.8	24.5	9.4	16.0	33.0	39.6	17.9	6.6	6.6	18.9	6.6
	中播磨	216	46.8	23.6	8.3	16.7	36.6	28.7	16.7	8.8	7.9	11.6	8.3
	西播磨	94	42.6	26.6	6.4	19.1	39.4	31.9	14.9	10.6	3.2	13.8	5.3
	但馬	54	37.0	29.6	14.8	29.6	33.3	35.2	18.5	3.7	7.4	18.5	0.0
	丹波	54	44.4	24.1	5.6	24.1	29.6	37.0	9.3	9.3	3.7	14.8	7.4
	淡路	60	38.3	20.0	6.7	8.3	33.3	40.0	16.7	10.0	5.0	13.3	8.3
ライフステージ別	独身者	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	夫婦のみ	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ベビーファミリー層	629	52.0	39.3	9.1	44.0	28.6	12.4	26.4	2.9	3.8	2.2	2.1
	ヤングファミリー層	457	48.1	28.2	7.2	6.3	63.0	22.8	26.9	5.5	5.0	4.8	1.8
	ファミリー層	962	29.9	12.4	11.0	8.5	36.9	50.8	9.4	15.5	9.6	17.2	9.7
世帯年収別	200万円未満	105	44.8	34.3	16.2	10.5	38.1	29.5	9.5	10.5	8.6	6.7	6.7
	200～400万円未満	311	41.2	24.1	9.0	12.9	38.9	36.0	14.8	15.4	8.7	12.2	8.7
	400～600万円未満	433	46.2	27.7	10.9	23.3	40.9	27.9	19.4	6.7	5.8	7.9	4.8
	600～800万円未満	404	41.6	24.8	8.4	19.6	38.6	32.2	20.8	7.9	5.7	10.9	3.5
	800～1,000万円未満	284	35.6	18.7	8.1	24.3	44.0	31.0	19.7	9.2	7.4	7.7	6.0
	1,000万円以上	229	38.0	22.7	10.0	18.8	37.6	33.6	20.5	3.1	4.4	10.5	7.0
	わからない	282	36.9	20.9	8.5	16.0	41.8	39.7	18.4	13.8	8.5	11.3	4.3



【子育ての中で今後負担が増えそうな費用（地域別）】

- ・但馬で「大学にかかる費用」が6割を超えており、他の地域に比べて割合が高くなっている。
- ・また、「小中高校にかかる費用」が46.3%と比較的割合が高くなっており、教育に関わる費用が他の地域に比べて大きくなっている。

【子育ての中で今後負担が増えそうな費用（ライフステージ別）】

- ・ヤングファミリー層では「小中高校にかかる費用」や「大学にかかる費用」が他の層に比べていずれも割合が高くなっており、“学費”が今後負担になると考える声が特に多くなっている。

【子育ての中で今後負担が増えそうな費用（世帯年収別）】

- ・200万円未満で「衣料・服飾費」が24.8%と他の層に比べて比較的割合が高くなっている。
- ・世帯年収が高くなるにつれて「大学にかかる費用」の割合が高くなっている。

■ 子育ての中で今後負担が増えそうな費用（地域別、ライフステージ別、世帯年収別） (%)

		回答者数 (n)	食費	衣料・服飾費	医療費	保育等にかかる費用	小中高校にかかる費用	大学にかかる費用	教養娯楽費	交通費	通信費	大学等の進学に伴う仕送り	その他
全体		2048	31.6	15.0	8.1	8.7	40.3	49.5	14.7	13.6	12.4	16.1	6.9
地域別	神戸	526	31.0	13.7	7.6	9.9	41.4	51.7	11.8	14.6	11.6	17.3	6.5
	阪神南	356	35.1	17.4	7.0	6.7	45.2	48.9	16.3	14.0	12.6	12.6	6.7
	阪神北	300	29.7	15.3	11.0	8.7	41.7	49.7	16.3	16.7	13.7	8.7	7.3
	東播磨	282	26.6	17.0	7.8	5.7	39.7	46.8	17.4	14.9	13.8	14.9	6.7
	北播磨	106	33.0	12.3	7.5	10.4	33.0	55.7	17.9	9.4	10.4	25.5	4.7
	中播磨	216	36.1	12.0	6.0	7.4	40.7	43.5	12.0	11.1	12.0	18.1	11.1
	西播磨	94	40.4	23.4	11.7	6.4	27.7	42.6	18.1	8.5	11.7	18.1	5.3
	但馬	54	24.1	14.8	5.6	11.1	46.3	63.0	16.7	13.0	14.8	24.1	1.9
	丹波	54	29.6	11.1	11.1	20.4	31.5	48.1	9.3	7.4	7.4	24.1	9.3
	淡路	60	25.0	8.3	6.7	18.3	30.0	56.7	13.3	11.7	11.7	26.7	5.0
ライフステージ別	ベビーファミリー層	629	39.3	20.7	4.6	22.4	59.6	46.7	21.6	10.3	12.1	9.4	0.5
	ヤングファミリー層	457	35.7	15.8	3.3	1.5	62.6	57.5	15.1	16.4	15.1	15.8	0.7
	ファミリー層	962	24.6	11.0	12.6	3.2	17.0	47.5	10.1	14.4	11.2	20.6	14.1
世帯年収別	200万円未満	105	35.2	24.8	8.6	4.8	31.4	36.2	12.4	10.5	15.2	14.3	9.5
	200～400万円未満	311	35.0	15.1	9.0	8.4	32.8	45.0	13.8	13.5	14.8	16.1	10.9
	400～600万円未満	433	33.0	17.1	9.7	12.0	43.2	46.2	12.0	16.2	13.2	12.2	6.5
	600～800万円未満	404	30.4	12.6	7.2	8.9	42.8	54.0	17.6	14.6	12.4	19.1	4.5
	800～1,000万円未満	284	26.8	12.3	6.3	7.4	47.2	55.3	13.0	16.9	10.9	14.4	5.6
	1,000万円以上	229	29.7	14.4	5.7	5.2	38.9	54.6	15.7	7.4	10.5	19.2	7.4
	わからない	282	32.3	14.9	9.2	9.6	37.9	48.2	17.7	11.3	10.3	17.4	6.7

## (5) 子育て中において、住宅を選択するにあたり、重要と考える点

【子どもがいる方のみ】※ Q8 で「2～6」を選択した方

Q25 あなたが子育て中において、住宅を選択するにあたり、どういった点が重要と考えますか（考えていましたか）？

（3つまで選択可）

1. 交通の利便性が高いこと
2. 保育所・幼稚園・学校の利便性が高く、教育・保育環境が整っていること
3. 職場と住宅が近いこと
4. 親やきょうだいなど親族の支援が受けやすいこと
5. 買い物の利便性が高いこと
6. 安心して外で子どもを遊ばせることができること
7. 自然環境が豊かであること
8. 市町の子育て支援策が充実していること
9. 信頼できる医療機関（産科・小児科など）が近くにあること
10. 住宅購入価格・家賃が希望にかなうこと
11. 部屋数・間取り・広さが希望にかなうこと
12. その他（具体的に： ）

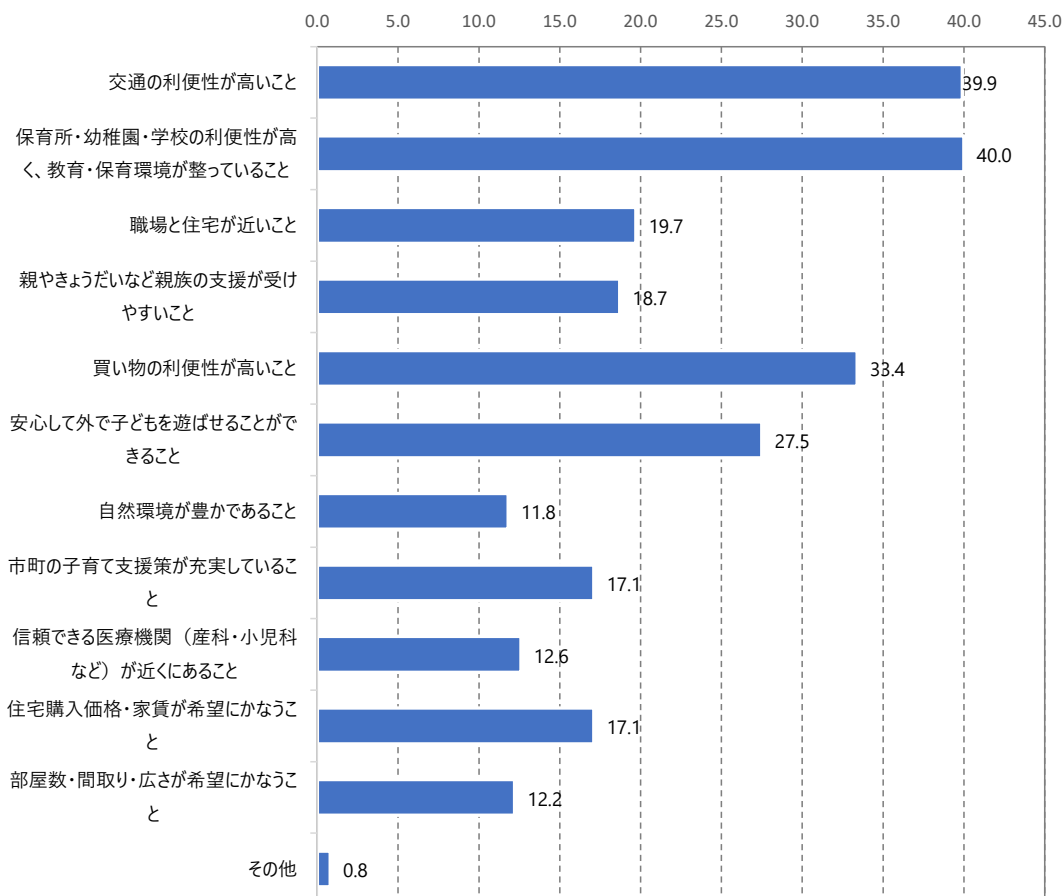
### 【住宅の選択で重視する点（全体）】

・子育て中、住宅を選択する際の重要点は「保育所・幼稚園・学校の利便性が高く、教育・保育環境が整っていること」が 40.0%と最も割合が高く、次いで「交通の利便性が高いこと」（39.9%）、「買い物の利便性が高いこと」（33.4%）と続いている。

・以下、「安心して外で子どもを遊ばせることができること」（27.5%）、「職場と住宅が近いこと」（19.7%）、「親やきょうだいなど親族の支援が受けやすいこと」（18.7%）と続く。

### ■ 住宅の選択で重視する点（全体）（n=2,048）

（%）



### 【住宅の選択で重視する点（性別）】

・女性は「買い物の利便性が高いこと」が38.7%と、男性（27.8%）よりも割合が高くなっている。

・また、女性は「保育所・幼稚園・学校の利便性が高く、教育・保育環境が整っていること」（42.0%）や「親やきょうだいなど親族の支援が受けやすいこと」（20.5%）、「市町の子育て支援策が充実していること」（17.9%）、「信頼できる医療機関（産科・小児科など）が近くにあること」（14.5%）、「住宅購入価格・家賃が希望にかなうこと」（18.5%）、「部屋数・間取り・広さが希望にかなうこと」（13.7%）が男性と比べて割合が高くなっている。

### 【住宅の選択で重視する点（年代別）】

・50代以上で「信頼できる医療機関（産科・小児科など）が近くにあること」が21.0%と他の年代に比べて割合が高くなっている。

・30代では「保育所・幼稚園・学校の利便性が高く、教育・保育環境が整っていること」（44.2%）が、最も多く「市町の子育て支援策が充実していること」（20.9%）が他の層に比べて割合が高くなっている。

### 【住宅の選択で重視する点（地域別）】

・但馬は「住宅購入価格・家賃が希望にかなうこと」が25.9%と、他の地域に比べて割合が高くなっているが「安心して外で子どもを遊ばせることができること」が13.0%と比較的低くなっている。

・神戸と阪神南で「交通の利便性が高いこと」がそれぞれ4割を超えている。

### 【住宅の選択で重視する点（ライフステージ別）】

・ベビーファミリー層では「保育所・幼稚園・学校の利便性が高く、教育・保育環境が整っていること」が47.5%となっており、「安心して外で子どもを遊ばせることができること」（30.8%）や「親やきょうだいなど親族の支援が受けやすいこと」（24.6%）も比較的割合が高く子育て環境を重視していることがうかがえる。

### 【住宅の選択で重視する点（世帯年収別）】

・200万円未満で「交通の利便性が高いこと」が45.7%と約5割と割合が高くなっている。一方、「自然環境が豊かであること」が8.6%と200万円以上と比べて比較的低くなっている。

・200～1,000万円以上では「安心して外で子どもを遊ばせることができること」の割合は世帯年収が増えるほど高くなっている。



■ 住宅の選択で重視する点（性別、年代別、地域別、ライフステージ別、世帯年収別）（％）

		回答者数 (n)	交通の利便性が高いこと	高く、教育・保育環境が整っていること	保育所・幼稚園・学校の利便性が高いこと	職場と住宅が近いこと	親やきょうだいなど親族の支援を受けやすいこと	買い物の利便性が高いこと	安心して外で子どもを遊ばせることができること	自然環境が豊かであること	市町の子育て支援策が充実していること	信頼できる医療機関（産科・小児科など）が近くにあること	住宅購入価格・家賃が希望にかなうこと	部屋数・間取り・広さが希望にかなうこと	その他
全体		2048	39.9	40.0	19.7	18.7	33.4	27.5	11.8	17.1	12.6	17.1	12.2	0.8	
性別	男性	1007	40.0	38.0	21.3	16.8	27.8	28.5	14.0	16.3	10.8	15.7	10.6	1.3	
	女性	1037	39.6	42.0	18.1	20.5	38.7	26.6	9.6	17.9	14.5	18.5	13.7	0.3	
年代別	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20代	58	27.6	32.8	27.6	24.1	31.0	31.0	10.3	12.1	6.9	15.5	12.1	0.0	
	30代	455	31.6	44.2	20.0	26.6	32.3	29.2	9.9	20.9	8.1	18.7	9.7	0.4	
	40代	993	43.8	36.6	20.9	18.5	32.8	26.1	10.9	15.9	10.5	17.1	11.9	0.8	
	50代以上	542	41.0	43.5	16.4	11.8	35.6	28.4	15.3	16.6	21.0	15.9	14.8	1.1	
	Z世代	58	27.6	32.8	27.6	24.1	31.0	31.0	10.3	12.1	6.9	15.5	12.1	0.0	
地域別	神戸	526	46.0	43.3	16.9	16.5	35.4	30.4	12.5	13.5	12.2	18.1	11.8	0.6	
	阪神南	356	46.9	40.2	20.5	20.5	36.0	27.0	10.1	15.2	12.6	19.4	14.6	0.3	
	阪神北	300	39.0	43.7	17.7	18.0	37.7	28.3	14.3	18.3	15.0	14.7	13.7	0.3	
	東播磨	282	37.2	36.5	21.6	15.2	29.4	27.3	11.0	21.3	10.6	17.4	10.3	1.1	
	北播磨	106	24.5	33.0	17.9	19.8	31.1	32.1	12.3	22.6	14.2	11.3	16.0	0.9	
	中播磨	216	38.9	37.5	20.4	24.1	30.1	23.1	9.7	14.8	13.9	14.4	10.6	1.9	
	西播磨	94	36.2	33.0	22.3	19.1	25.5	26.6	9.6	21.3	14.9	19.1	8.5	1.1	
	但馬	54	27.8	42.6	27.8	22.2	33.3	13.0	7.4	18.5	9.3	25.9	13.0	0.0	
	丹波	54	25.9	38.9	27.8	24.1	33.3	27.8	20.4	13.0	7.4	20.4	7.4	1.9	
	淡路	60	21.7	38.3	23.3	16.7	26.7	25.0	13.3	28.3	11.7	11.7	10.0	1.7	
ライフステージ別	ベビーファミリー層	629	32.9	47.5	21.1	24.6	31.6	30.8	10.7	18.9	8.4	17.6	8.1	0.5	
	ヤングファミリー層	457	41.6	37.6	19.9	21.9	30.4	29.3	11.2	16.2	10.7	15.8	11.6	0.4	
	ファミリー層	962	43.7	36.2	18.7	13.3	36.0	24.5	12.9	16.3	16.3	17.4	15.1	1.1	
世帯年収別	200万円未満	105	45.7	39.0	21.0	10.5	32.4	25.7	8.6	15.2	17.1	14.3	14.3	0.0	
	200～400万円未満	311	39.9	41.5	18.0	19.9	37.0	23.2	13.5	18.0	13.8	19.3	13.2	1.3	
	400～600万円未満	433	39.5	40.4	19.4	19.4	35.1	25.2	12.5	13.4	12.0	18.5	13.6	0.5	
	600～800万円未満	404	38.1	39.4	22.0	17.6	32.9	28.5	12.6	18.6	12.1	17.3	13.6	0.5	
	800～1,000万円未満	284	43.7	41.2	20.4	20.4	30.3	31.0	12.0	17.3	11.3	15.1	6.0	0.7	
	1,000万円以上	229	38.4	41.5	22.3	19.7	27.5	33.6	11.8	14.0	13.1	14.8	14.0	0.9	
	わからない	282	38.3	36.5	15.6	18.4	35.8	27.0	8.9	22.7	12.4	17.0	10.6	1.4	

## (6) 子育てに悩んだ時の相談先

【子どもがいる方のみ】※Q8で「2～6」を選択した方

Q26 子どもの就学前（0～6歳）において、あなたが子育てで悩んだり、不安に思ったりした場合、誰（どこ）に相談をしていますか？または、相談しましたか？

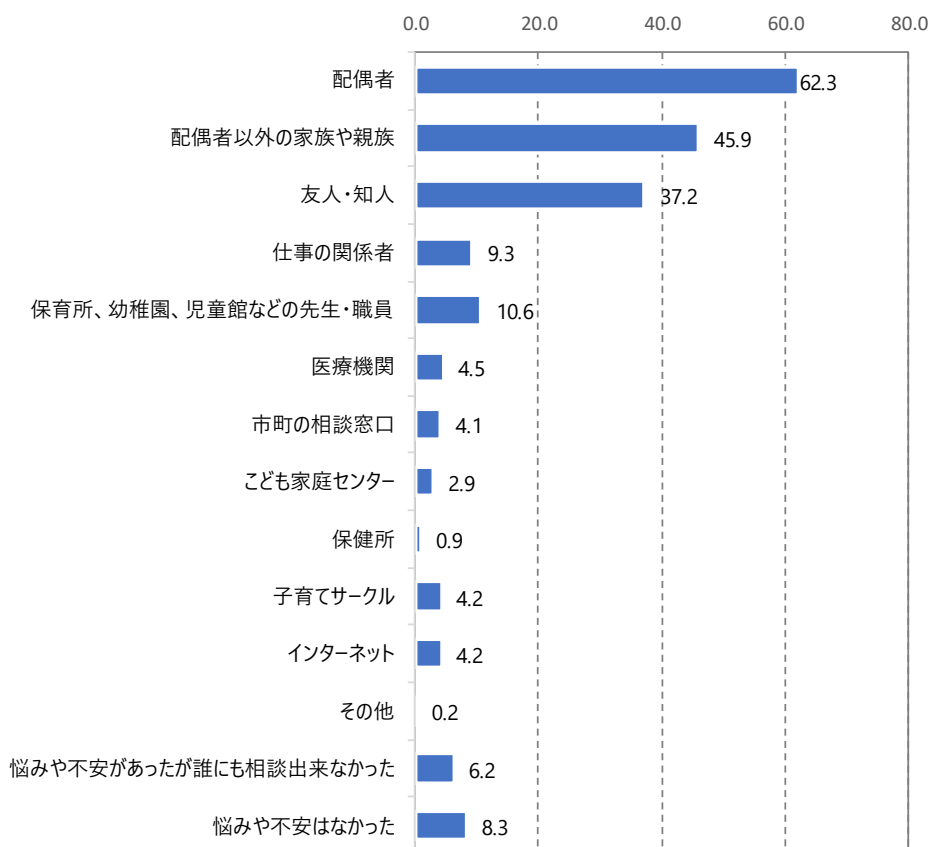
（3つまで選択可）

- |                                    |                           |
|------------------------------------|---------------------------|
| 1. 配偶者（夫または妻）                      | 2. 配偶者以外の家族や親族（親・きょうだい 等） |
| 3. 友人・知人                           | 4. 仕事の関係者（上司や同僚など）        |
| 5. 保育所、幼稚園、児童館などの先生・職員             | 6. 医療機関                   |
| 7. 市町の相談窓口                         | 8. こども家庭センター              |
| 9. 保健所                             |                           |
| 10. 子育てサークル（まちの子育てひろば、地域子育て支援拠点 等） |                           |
| 11. インターネット（育児に関するサイトなど）           | 12. その他（具体的に： )           |
| 13. 悩みや不安があったが誰にも相談出来なかった          | 14. 悩みや不安はなかった            |

### 【子育てに悩んだ時の相談先（全体）】

・子育てに悩んだ時の相談先として、「配偶者」が62.3%と最も割合が高く、以下、「配偶者以外の家族や親族」が45.9%、「友人・知人」が37.2%と続いており、それ以外の項目はおおむね10%未満となっている。

### ■ 子育てに悩んだ時の相談先（全体）（複数回答：n=2,048） (%)



【子育てに悩んだ時の相談先（性別）】

- ・「配偶者（夫または妻）」は男女ほぼ同じ割合となっており、女性は「配偶者以外の家族や親族」が56.8%、「友人・知人」が48.9%となっており、男性よりも高くなっている。
- ・男性は「悩みや不安はなかった」が13.0%となっており、女性と比べて高くなっている。

【子育てに悩んだ時の相談先（年代別）】

- ・20代以上で「配偶者」と「配偶者以外の家族や親族」、「友人・知人」は特に高くなっており、自分に近い人に相談する傾向にある。

【子育てに悩んだ時の相談先（地域別）】

- ・但馬で「配偶者以外の家族や親族」が57.4%と他の地域に比べて高くなっている。
- ・丹波で「子育てサークル」が11.1%となっており、他の地域に比べて高くなっている。

【子育てに悩んだ時の相談先（ライフステージ別）】

- ・末子の年代が小さい層ほど「配偶者」や「配偶者以外の家族や親族」、「友人・知人」は割合が高くなる傾向にある。
- ・一方、末子の年代が上がるにつれて「悩みや不安があったが誰にも相談出来なかった」の割合が高くなっている。

■ 子育てに悩んだ時の相談先（性別、年代別、地域別、ライフステージ別） (％)

		回答者数 (n)	配偶者	配偶者以外の家族や親族	友人・知人	仕事の関係者	先生・保育所、幼稚園、児童館などの職員	医療機関	市町の相談窓口	こども家庭センター	保健所	子育てサークル	インターネット	その他	悩みや不安があったが誰にも相談出来なかった	悩みや不安はなかった
全体		2048	62.3	45.9	37.2	9.3	10.6	4.5	4.1	2.9	0.9	4.2	4.2	0.2	6.2	8.3
性別	男性	1007	64.0	35.0	25.1	11.1	9.8	4.8	4.4	3.2	1.2	3.0	4.4	0.2	5.6	13.0
	女性	1037	60.8	56.8	48.9	7.4	11.4	4.2	3.8	2.7	0.7	5.4	4.1	0.2	6.7	3.8
年代別	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	58	63.8	48.3	44.8	19.0	5.2	8.6	3.4	3.4	3.4	1.7	1.7	0.0	3.4	1.7
	30代	455	67.7	49.9	38.2	10.5	13.8	4.0	5.5	4.2	0.9	6.6	4.6	0.0	3.7	5.3
	40代	993	62.0	45.6	36.9	10.7	11.0	4.4	3.7	2.9	0.8	3.7	4.5	0.3	5.1	8.4
	50代以上	542	58.1	43.0	36.0	4.6	7.9	4.6	3.5	1.8	0.9	3.3	3.7	0.2	10.3	11.4
	Z世代	58	63.8	48.3	44.8	19.0	5.2	8.6	3.4	3.4	3.4	1.7	1.7	0.0	3.4	1.7
地域別	神戸	526	60.1	47.3	36.7	8.6	12.0	4.4	2.9	2.9	1.9	4.0	4.2	0.2	6.8	8.4
	阪神南	356	68.5	48.0	40.4	10.1	10.4	4.8	2.5	2.8	0.6	2.5	4.8	0.3	6.5	5.9
	阪神北	300	59.7	40.7	42.3	8.7	10.7	6.3	6.7	2.0	0.0	4.3	4.0	0.3	7.3	9.3
	東播磨	282	58.2	48.6	29.8	9.9	9.9	5.0	5.7	2.8	0.4	4.3	3.9	0.0	6.7	8.2
	北播磨	106	58.5	41.5	41.5	6.6	8.5	4.7	7.5	6.6	1.9	5.7	3.8	0.0	5.7	8.5
	中播磨	216	63.9	45.8	34.3	7.9	8.3	2.3	3.2	2.3	0.5	4.6	5.6	0.5	4.2	12.5
	西播磨	94	58.5	38.3	33.0	16.0	11.7	2.1	6.4	2.1	1.1	4.3	3.2	0.0	3.2	10.6
	但馬	54	70.4	57.4	38.9	11.1	18.5	7.4	3.7	9.3	3.7	5.6	3.7	0.0	1.9	1.9
	丹波	54	64.8	40.7	42.6	11.1	13.0	1.9	0.0	1.9	0.0	11.1	0.0	0.0	7.4	7.4
淡路	60	75.0	50.0	33.3	6.7	5.0	3.3	0.0	1.7	0.0	3.3	6.7	0.0	5.0	5.0	
ライフステージ別	独身者	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	夫婦のみ	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ベビファミリー層	629	70.6	49.1	38.5	12.4	14.6	3.8	4.1	2.4	1.0	4.6	4.0	0.0	4.3	5.4
	ヤングファミリー層	457	59.7	45.3	35.9	11.4	11.2	5.5	3.5	4.4	1.3	4.6	5.7	0.4	3.5	9.2
	ファミリー層	962	58.1	44.2	36.9	6.2	7.8	4.5	4.3	2.6	0.7	3.7	3.7	0.2	8.6	9.8



## 【子育てをしながら働く際に困難な点（全体）】

### ①女性にとって、子育てをしながら働く際に困難な点

・「仕事をしている間、子どもを預ける人や施設の確保が難しい」が54.8%で最も割合が高く、「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」が44.0%、「職場に時短勤務や休みを取りにくい雰囲気がある」が22.5%と続いている。

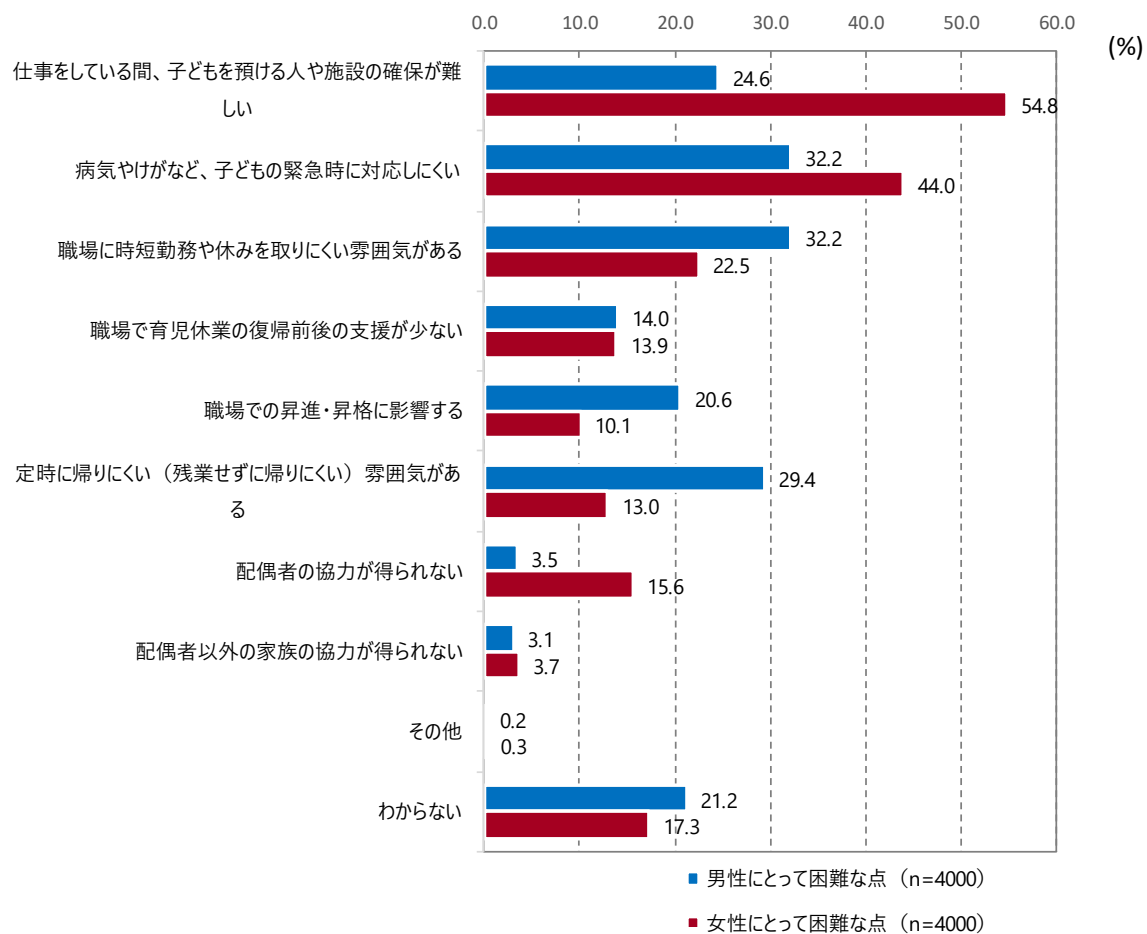
### ②男性にとって、子育てをしながら働く際に困難な点

・「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」と「職場に時短勤務や休みを取りにくい雰囲気がある」がそれぞれ32.2%と最も割合が高く、次いで「定時に帰りにくい（残業せずに帰りにくい）雰囲気がある」が29.4%と続いている。

・“女性にとって”困難な点は、子どもの預け先や子どもの緊急時の対応など、子どもに関する項目が“男性にとって”よりも割合が高くなっている。

・“男性にとって”困難な点は、職場の雰囲気や昇進・昇格への影響などが“女性にとって”よりも割合が高くなる傾向にある。

## ■ 子育てをしながら働く際に困難な点（複数回答）（n=4,000）



【子育てをしながら働く際に困難な点（年代別）】

①女性にとって、子育てをしながら働く際に困難な点

- ・年代が上がるほど、「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」、「配偶者の協力が得られない」の割合が高くなっている。
- ・10代では「職場で育児休業の復帰前後の支援が少ない」が他の年代に比べて割合が高くなっている。

【子育てをしながら働く際に困難な点（ライフステージ別）】

①女性にとって、子育てをしながら働く際に困難な点

- ・子どもがいる層では子どもの成長が進むにつれて「仕事をしている間、子どもを預ける人や施設の確保が難しい」や「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」が比較的割合が高くなっている。

■ ①女性にとって、子育てをしながら働く際に困難な点（年代別、ライフステージ別） (%)

		回答者数 (n)	仕事を している 間、子 どもを 預け る人 や施 設の 確 保が 難 し い	病 気 や け が な ど、 子 ど も の 緊 急 時 に 対 応 し な い	職 場 に 時 短 勤 務 や 休 み を 取 り に く い	職 場 で の 昇 進 ・ 昇 格 に 影 響 す る	職 場 で 少 な い 育 児 休 業 の 復 帰 前 後 の 支 援	定 時 に 帰 り に く い （ 残 業 せ ず に 帰 る ）	配 偶 者 の 協 力 が 得 ら れ な い	配 偶 者 以 外 の 家 族 の 協 力 が 得 ら れ な い	そ の 他	わ か ら な い
全体		4000	54.8	44.0	22.5	13.9	10.1	13.0	15.6	3.7	0.3	17.3
年代別	10代	41	53.7	22.0	12.2	29.3	7.3	7.3	7.3	2.4	0.0	19.5
	20代	356	48.0	33.4	22.8	13.2	12.1	10.1	14.3	2.2	0.0	23.3
	30代	936	47.8	38.6	24.5	14.6	13.5	13.4	15.3	4.9	0.2	19.9
	40代	1867	56.5	46.2	21.8	13.1	9.8	12.1	15.3	3.5	0.4	16.2
	50代以上	800	62.4	51.0	22.3	14.5	6.3	16.0	17.6	3.4	0.1	14.1
	Z世代	397	48.6	32.2	21.7	14.9	11.6	9.8	13.6	2.3	0.0	22.9
ライフステージ別	独身者	1459	51.3	36.4	18.6	15.3	10.9	11.5	13.8	2.7	0.1	24.7
	夫婦のみ	493	56.4	36.5	24.3	14.4	9.7	13.2	13.2	3.7	0.4	17.0
	ベビーファミリー層	629	52.0	45.8	26.9	13.4	15.3	13.0	15.6	4.6	0.5	11.0
	ヤングファミリー層	457	53.8	51.9	25.4	11.2	10.5	12.5	18.4	5.7	0.7	12.9
	ファミリー層	962	61.6	54.4	23.3	13.2	5.6	15.2	18.3	3.6	0.2	12.4

【子育てをしながら働く際に困難な点（年代別）】

②男性にとって、子育てをしながら働く際に困難な点

- ・年代が上がるほど、「職場に時短勤務や休みを取りにくい雰囲気がある」や「定時に帰りにくい（残業せずに帰りにくい）雰囲気がある」が比較的割合が高くなっている。
- ・30～50代以上で「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」が30%を超え割合が高くなっている。

【子育てをしながら働く際に困難な点（ライフステージ別）】

②男性にとって、子育てをしながら働く際に困難な点

- ・子どもがいる層は子どもがいない層に比べて「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」や「職場に時短勤務や休みを取りにくい雰囲気がある」、「定時に帰りにくい（残業せずに帰りにくい）雰囲気がある」の割合が高い傾向にある。

■ ②男性にとって、子育てをしながら働く際に困難な点（年代別、ライフステージ別） (%)

		回答者数 (n)	仕事を する人 や施設 の確保 が難しい を預	仕事 やけが など、 子ども の緊急	職場に 時短 勤務や 休みを 取りに くい	職場 で育児 休業の 復帰後 の支	職場 での昇 進・昇 格に影 響する	定時に 帰りに くい (残業 せずに 帰りに くい)	配偶者 の協力 が得ら れない	配偶者 以外の 家族の 協力が 得ら	その他	わから ない
全体		4000	24.6	32.2	32.2	14.0	20.6	29.4	3.5	3.1	0.2	21.2
年代別	10代	41	24.4	26.8	24.4	17.1	26.8	14.6	4.9	0.0	0.0	22.0
	20代	356	20.2	24.2	28.4	15.2	18.3	23.9	3.7	2.5	0.0	28.7
	30代	936	21.2	31.6	30.7	13.6	22.2	28.1	3.3	3.3	0.0	23.2
	40代	1867	26.6	34.6	33.0	14.0	19.8	28.2	3.5	3.0	0.3	19.7
	50代以上	800	26.0	31.0	34.0	14.0	21.4	36.8	3.3	3.5	0.3	19.1
	Z世代	397	20.7	24.4	28.0	15.4	19.1	22.9	3.8	2.3	0.0	28.0
ライフステージ別	独身者	1459	24.3	28.9	29.7	14.1	18.0	25.2	3.6	2.6	0.1	27.5
	夫婦のみ	493	25.6	28.0	29.6	16.8	20.9	24.3	4.7	4.1	0.4	19.5
	ベビーファミリー層	629	23.5	37.2	35.0	14.9	24.8	30.8	2.5	3.0	0.0	15.1
	ヤングファミリー層	457	25.6	36.1	31.7	11.6	21.7	31.5	3.7	3.5	0.4	18.4
	ファミリー層	962	24.8	34.2	35.6	13.1	21.3	36.4	3.0	3.2	0.2	17.9





**【男性が子育てに積極的に参加するために必要なこと（性別）】**

・女性は「企業が男女ともに子育てしやすい職場環境を整備すること」が59.9%と最も割合が高く、次いで「長時間労働の改善、休暇制度の普及」が34.4%、「男性が仕事中心の生き方・働き方の意識をかえること」が33.0%となっている。企業側の子育てに対する意識改革を求めていると推測される。

**【男性が子育てに積極的に参加するために必要なこと（年代別）】**

・年代が高くなるとともに「男性が仕事中心の生き方・働き方の意識をかえること」の割合が高くなっている。  
 ・全ての年代で「企業が男女ともに子育てしやすい職場環境を整備すること」が最も割合が高く、次いで「長時間労働の改善、休暇制度の普及」が高くなっている。

**【男性が子育てに積極的に参加するために必要なこと（ライフステージ別）】**

・全ての層で「企業が男女ともに子育てしやすい職場環境を整備すること」が最も割合が高く半数を超えている。  
 ・また、ファミリー層では「男女の役割分担についての社会通念、習慣の意識をかえること」が34.4%と他の層に比べて比較的高くなっている。

(%)

		回答者数 (n)	企業が男女ともに子育てしやすい職場環境を整備すること	男性が仕事中心の生き方・働き方の意識をかえること	仕事と家庭の両立などの課題について相談できる窓口の設けること	長時間労働の改善、休暇制度の普及	仕事、夫婦が協力し合っ育児をよ	通念、習慣の役割分担の意識をかえること	子どもに家庭教育や育て方を担	その他
全体		4000	57.6	31.7	11.7	37.6	26.6	28.3	17.7	1.4
性別	男性	1991	55.4	30.4	13.4	40.7	23.9	24.7	15.4	1.8
	女性	1995	59.9	33.0	10.0	34.4	29.5	31.9	19.7	1.0
年代別	10代	41	63.4	17.1	14.6	34.1	26.8	22.0	17.1	0.0
	20代	356	53.4	27.0	14.0	31.5	24.7	19.9	21.3	0.6
	30代	936	53.1	29.5	13.0	39.7	30.8	25.2	17.7	1.3
	40代	1867	59.0	32.5	10.4	37.5	24.8	28.1	18.6	1.8
	50代以上	800	61.4	35.5	11.8	38.1	26.9	36.4	13.9	1.1
	Z世代	397	54.4	25.9	14.1	31.7	24.9	20.2	20.9	0.5
ライフステージ別	独身者	1459	55.0	28.7	10.9	36.5	26.6	27.8	18.8	1.8
	夫婦のみ	493	56.8	31.6	14.0	34.5	26.4	26.4	17.2	1.2
	ベビーファミリー層	629	58.8	31.6	13.2	40.4	29.4	22.9	16.5	1.0
	ヤングファミリー層	457	52.1	34.8	11.2	38.1	28.0	26.3	21.0	2.4
	ファミリー層	962	63.8	34.9	10.9	38.8	24.3	34.4	15.4	0.7



**【育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと（全体）】**

①女性が育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと

・「職場の上司や同僚の理解」が63.3%と最も割合が高く、次いで「育児休業中の給与等の一部支給」（41.2%）、「制度を利用したことにより、昇進・昇格に不利益がないこと」（30.1%）と続いている。

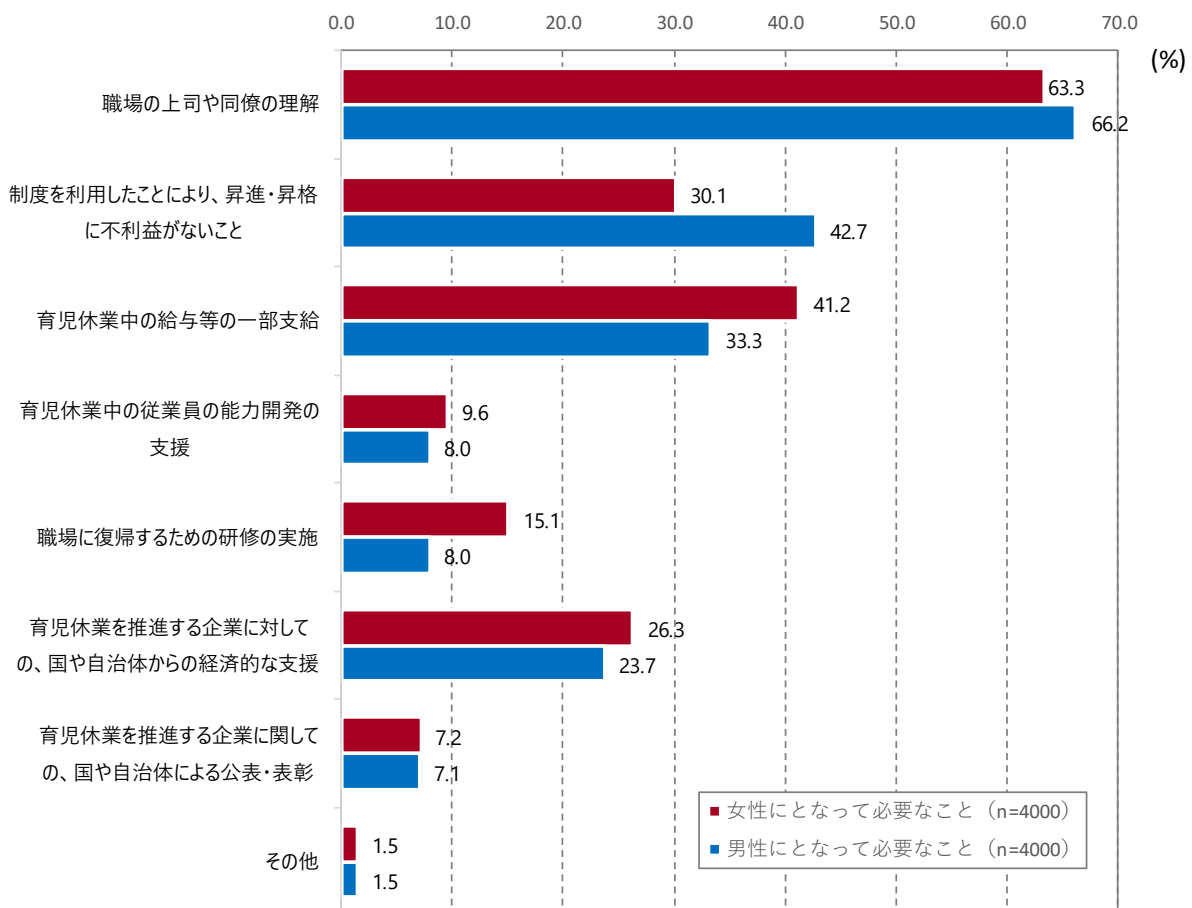
②男性が育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと

・「職場の上司や同僚の理解」が66.2%と最も割合が高く、次いで「制度を利用したことにより、昇進・昇格に不利益がないこと」（42.7%）、「育児休業中の給与等の一部支給」（33.3%）と続いている。

・男女ともに「職場の上司や同僚の理解」が最も割合が高く、職場の理解や雰囲気作りが必要と思われる。

・男性は「制度を利用したことにより、昇進・昇格に不利益がないこと」が42.7%と女性（30.1%）よりも高くなっている。

■ 育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと（全体）（複数回答）（n=4,000）



【①女性が育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと（年代別）】

- ・全ての年代で「職場の上司や同僚の理解」が最も割合が高くなっている。
- ・50代以上で「育児休業を推進する企業に対しての、国や自治体からの経済的な支援」が30.8%と他の年代に比べて比較的高くなっている。

【①女性が育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと（ライフステージ別）】

- ・全ての層で「職場の上司や同僚の理解」が最も割合が高く、それ以降の順位も全体とほぼ変わらない。
- ・“子どもがいる”層で「育児休業を推進する企業に対しての、国や自治体からの経済的な支援」が“子どもがいない”層に比べて比較的高くなっている。

■ ①女性が育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと（年代別、ライフステージ別）（%）

		回答者数 (n)	職場の上司や同僚の理解	進・昇格を利用したことがないこと、昇	制度を利用したことがないこと、昇	育児休業中の給与等の一部支給	の育児休業中の従業員の能力開発	施職場に復帰するための研修の実	な支援	て育児休業を推進する企業に経済的	表彰	て育児休業を推進する企業に	その他
全体		4000	63.3	30.1	41.2	9.6	15.1	26.3	7.2	1.5			
年代別	10代	41	58.5	24.4	41.5	14.6	9.8	12.2	4.9	2.4			
	20代	356	52.2	26.4	37.4	11.5	18.3	21.3	11.2	0.6			
	30代	936	59.0	30.3	41.5	9.0	15.1	25.6	8.0	1.4			
	40代	1867	64.5	29.9	39.3	9.6	13.5	25.9	7.6	1.9			
	50代以上	800	70.6	32.3	46.9	9.1	17.6	30.8	3.8	1.1			
	Z世代	397	52.9	26.2	37.8	11.8	17.4	20.4	10.6	0.8			
ライフステージ別	独身者	1459	60.4	30.8	36.7	10.0	17.1	21.9	7.9	1.9			
	夫婦のみ	493	58.4	29.8	40.2	11.0	14.4	25.4	5.9	1.8			
	ベビーファミリー層	629	60.3	30.8	43.4	10.3	12.4	27.0	9.2	1.3			
	ヤングファミリー層	457	68.7	28.4	41.8	9.6	11.6	28.0	7.0	2.2			
	ファミリー層	962	69.6	29.5	46.6	7.7	15.7	31.9	5.6	0.6			

【②男性が育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと（年代別）】

- ・女性と同様、全ての年代で「職場の上司や同僚の理解」が最も割合が高くなっている。
- ・10代で「育児休業中の給与等の一部支給」が39.0%と比較的高くなっており、「育児休業を推進する企業に対しての、国や自治体からの経済的な支援」は1割未満と他の年代に比べて低くなっている。

【②男性が育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと（ライフステージ別）】

- ・全ての層で「職場の上司や同僚の理解」が最も割合が高く、ファミリー層では7割を超えている。
- ・ほとんどの項目で全体の結果とほぼ変わらない。

■ ②男性が育児休業制度を利用しやすくするために必要なこと（年代別、ライフステージ別）（%）

		回答者数 (n)	職場の上司や同僚の理解	進・昇格を利用したことがないこと、昇	育児休業中の給与等の一部支給	育児休業中の従業員の能力開発の支援	職場に復帰するための研修の実	なて育、国や自治体からの経済的	表て育、国や自治体による企業に	その他
全体		4000	66.2	42.7	33.3	8.0	8.0	23.7	7.1	1.5
年代別	10代	41	53.7	36.6	39.0	7.3	9.8	9.8	7.3	2.4
	20代	356	57.0	35.7	31.7	9.6	9.0	19.1	11.2	0.6
	30代	936	63.7	39.3	33.2	8.7	9.3	24.0	8.2	1.4
	40代	1867	67.2	42.6	32.6	8.1	7.1	23.8	6.6	1.8
	50代以上	800	71.8	50.3	35.4	6.4	7.8	25.9	4.9	1.3
	Z世代	397	56.7	35.8	32.5	9.3	9.1	18.1	10.8	0.8
ライフステージ別	独身者	1459	64.2	41.8	30.2	8.8	8.8	20.4	8.0	1.9
	夫婦のみ	493	62.3	42.4	34.1	9.1	8.3	23.3	5.7	1.8
	ベビーファミリー層	629	65.5	42.8	34.8	7.6	7.8	27.3	8.6	1.3
	ヤングファミリー層	457	66.5	38.3	35.0	9.4	6.3	23.4	7.4	2.2
	ファミリー層	962	71.6	46.2	35.7	5.9	7.4	26.7	5.3	0.6



### 【子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度（性別）】

・女性は「短時間勤務制度やフレックスタイム制」が45.5%となっており、男性（36.9%）よりも割合が高くなっている。

### 【子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度（年代別）】

・10代では「残業をさせない制度」が34.1%で他の年代に比べて割合が高くなっている。  
 ・年代が高くなるほど「短時間勤務制度やフレックスタイム制」や「事業所内保育施設の設置」、「子育てを理由として退職した従業員の再雇用制度」の割合が高くなっている。

### 【子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度（ライフステージ別）】

・子どもがいる層で「短時間勤務制度やフレックスタイム制」が4割以上となっており、「子どもが2歳になるまで、希望する全ての親へ育児休業期間を延長」や「残業をさせない制度」も比較的割合が高い傾向にある。

### ■ 子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度（性別、年代別、ライフステージ別） (%)

		回答者数 (n)	育児休業期間 (最大2年)の更 なる延長	延長 する 子どもが2歳 になるまで、 希望する全ての 親へ育児休業 期間を	子 どもが2歳 になるまで、 希望	短 時間 勤 務 制 度 や フ レ ク ス タ イ ム 制	残 業 を さ せ な い 制 度	出 産 時 の 父 親 へ の 休 暇 付 与	事 業 所 内 保 育 施 設 の 設 置	在 宅 勤 務 ( テ レ ワ ー ク ) 制 度	子 育 て を 理 由 と し て 退 職 し た 従 業 員 の 再 雇 用 制 度	育 児 休 業 中 の 給 与 等 の 一 部 支 給	本 人 が 希 望 す る 業 務 ・ 部 署 へ の 異 動 制 度	そ の 他
全 体		4000	26.9	26.8	41.2	24.4	19.9	12.8	26.6	16.9	18.9	11.2	1.5	
性別	男性	1991	28.7	25.0	36.9	23.8	20.8	12.0	26.5	14.6	18.9	10.4	1.7	
	女性	1995	25.1	28.7	45.5	25.1	19.1	13.6	26.8	19.1	19.0	11.7	1.2	
年代別	10代	41	26.8	24.4	31.7	34.1	22.0	0.0	29.3	7.3	24.4	4.9	0.0	
	20代	356	29.8	26.4	34.3	21.1	23.9	9.8	20.2	13.2	14.3	11.0	0.8	
	30代	936	25.3	26.6	40.9	25.3	23.0	10.1	24.9	15.0	21.2	12.0	1.3	
	40代	1867	25.1	26.2	40.9	24.7	20.7	13.2	26.6	16.6	18.6	10.6	1.9	
	50代以上	800	31.8	28.6	46.0	23.6	12.8	16.8	31.3	22.0	18.6	12.0	0.9	
	Z世代	397	29.5	26.2	34.0	22.4	23.7	8.8	21.2	12.6	15.4	10.3	0.8	
ライフス テージ別	独身者	1459	26.0	24.4	37.5	23.5	20.0	11.6	28.6	15.8	16.6	13.1	2.0	
	夫婦のみ	493	32.3	22.9	38.1	20.5	15.8	13.8	24.7	16.6	18.9	11.8	1.8	
	ベビーファミリー層	629	26.2	34.0	41.8	26.9	25.8	12.4	20.2	14.3	23.4	7.5	1.1	
	ヤングファミリー層	457	21.7	25.8	45.5	25.6	18.6	13.3	26.5	17.3	20.6	11.2	1.1	
	ファミリー層	962	28.6	28.2	46.0	25.7	18.7	14.0	28.8	20.2	18.7	10.3	0.8	

## 7. 保育施設等の利用について

### (1) 幼稚園や保育施設の利用状況

【子どもがいる方のみ】※Q8で「2～6」を選択した方

Q31 幼稚園や保育所、保育施設の利用状況について、お聞きます。

幼稚園や保育所、保育施設、保育サービスに子どもを預けたことがありますか？

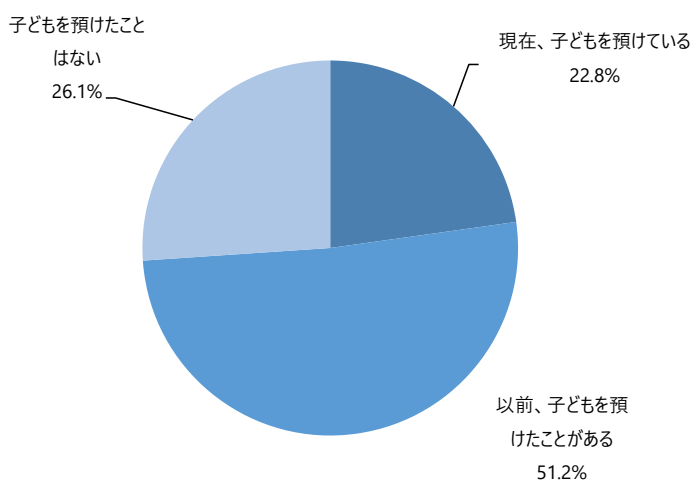
(1つ選択)

1. 現在、子どもを預けている      2. 以前、子どもを預けたことがある      3. 子どもを預けたことはない

【幼稚園や保育施設の利用状況（全体）】 ■ 幼稚園や保育施設の利用状況（全体）(n=2,048)

・幼稚園や保育所、保育施設の利用状況を見ると、「現在、子どもを預けている」が22.8%、「以前、子どもを預けたことがある」が51.2%となっており、あわせて74.0%が“子どもを預けたことがある”と回答している。

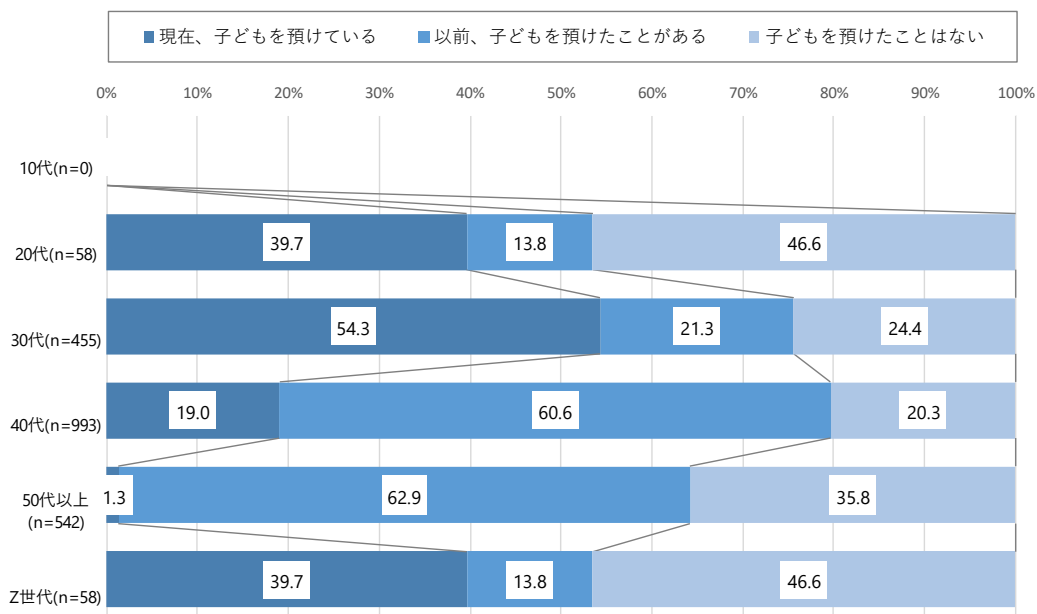
・「子どもを預けたことはない」と回答したのは26.1%となっており、子ども預けたことがある人と預けたことがない人の割合はおおむね7：3となっている。



【幼稚園や保育施設の利用状況（年代別）】

- ・30代で「現在、子どもを預けている」が54.3%と最も高く他の年代と比べても割合が高い。
- ・40～50代以上では「以前、子どもを預けたことがある」がそれぞれ6割台となっており年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

■ 幼稚園や保育施設の利用状況（年代別）

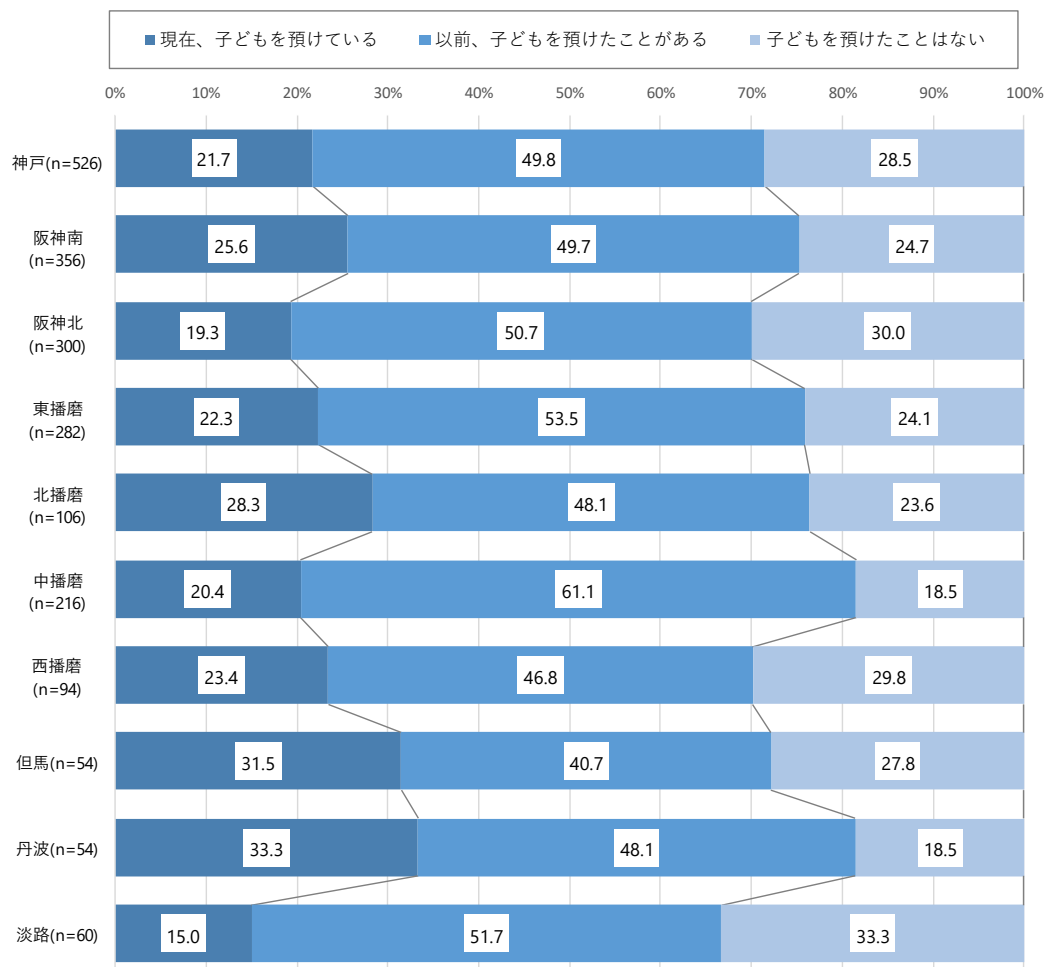




### 【幼稚園や保育施設の利用状況（地域別）】

- ・丹波と但馬で「現在、子どもを預けている」がそれぞれ3割を越えており、比較的割合が高くなっている。
- ・一方、阪神北と淡路では子どもを預けたことはない」がそれぞれ3割以上となっている。
- ・全ての地域で“子どもを預けたことがある（現在、子どもを預けている+以前、子どもを預けたことがある）”が6割以上となっている。

### ■ 幼稚園や保育施設の利用状況（地域別）



## (2) 子どもが利用したことのある施設

【子どもを預けている、預けたことがある方のみ】※Q31 で「1 または 2」を選択した方

Q32 子どもが、利用したことのある施設等は次のうち、どれですか？

(あてはまるもの全て)

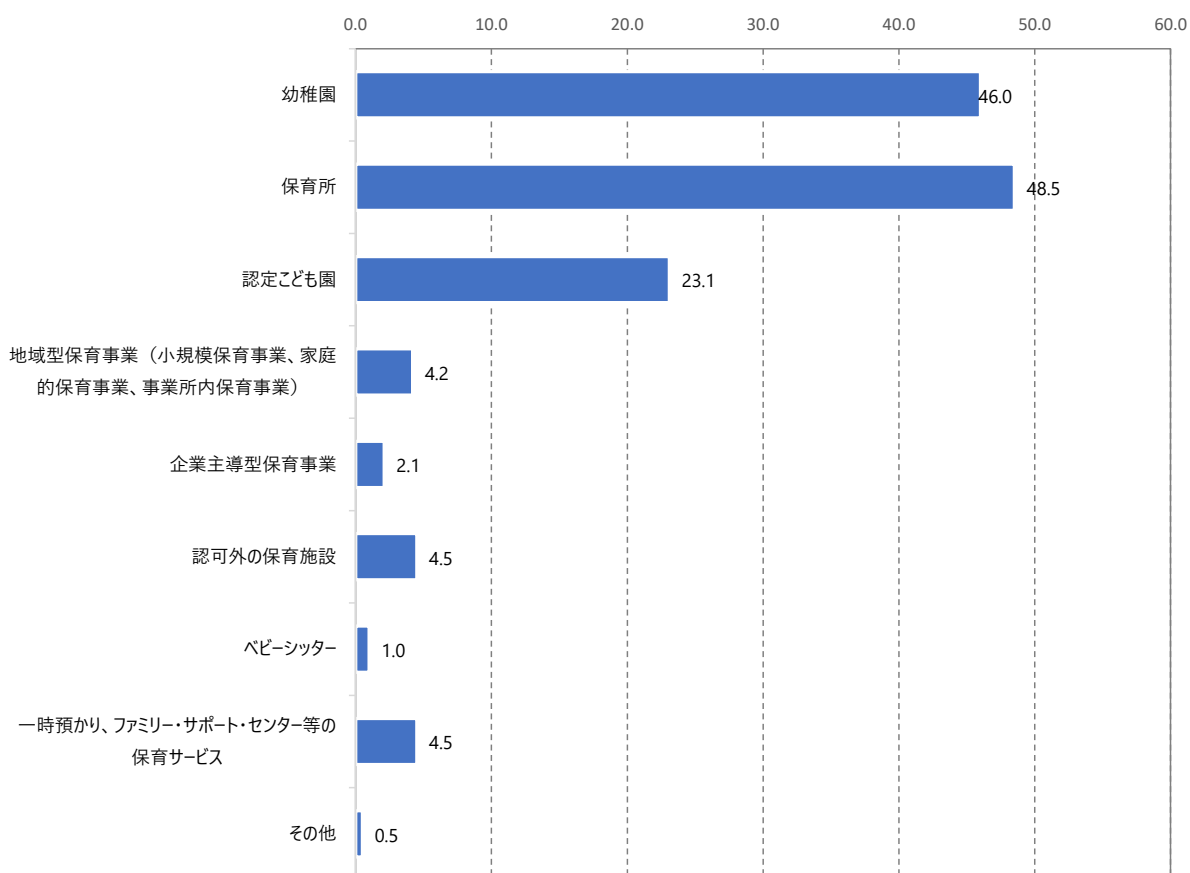
- |                                      |                |            |
|--------------------------------------|----------------|------------|
| 1. 幼稚園                               | 2. 保育所         | 3. 認定こども園  |
| 4. 地域型保育事業（小規模保育事業、家庭的保育事業、事業所内保育事業） |                |            |
| 5. 企業主導型保育事業                         | 6. 認可外の保育施設    | 7. ベビーシッター |
| 8. 一時預かり、ファミリー・サポート・センター等の保育サービス     | 9. その他（具体的に： ） |            |

### 【子どもが利用したことのある施設（全体）】

・子どもが利用したことのある施設は「保育所」が48.5%と最も割合が高く、「幼稚園」が46.0%と続いている。

・以下、「認定こども園」が23.1%と続き、「認可外の保育施設」、「一時預かり、ファミリー・サポート・センター等の保育サービス」が同率（4.5%）で、「地域型保育事業」（4.2%）、「企業主導型保育事業」（2.1%）、「ベビーシッター」（1.0%）は1割未満と低い。

### ■ 子どもが利用したことのある施設（全体）（複数回答：n=1,514）（%）



### 【子どもが利用したことのある施設（地域別）】

- ・淡路で「保育所」を利用した人が8割を超えて他の地域に比べて割合が高くなっている。
- ・但馬と丹波では「認定こども園」の割合が5割台と割合が高く、「保育所」と「幼稚園」よりも利用が多くなっている。
- ・また、丹波では「一時預かり、ファミリー・サポート・センター等の保育サービス」が15.9%となっており、他の地域と比べて割合が高くなっている。

### ■ 子どもが利用したことのある施設（地域別）

(%)

	回答者数 (n)	幼稚園	保育所	認定こども園	業地域型保育事業（小規模保育事業、家庭的保育事業、事業所内保育事業）	企業主導型保育事業	認可外の保育施設	ベビシッター	一時預かり、ファミリー・サポート・センター等の保育サービス	その他	
全体	1514	46.0	48.5	23.1	4.2	2.1	4.5	1.0	4.5	0.5	
地域別	神戸	376	47.6	42.8	23.4	5.6	1.3	6.6	1.3	4.8	0.5
	阪神南	268	50.4	50.4	13.1	5.2	2.2	3.4	0.7	6.0	0.4
	阪神北	210	62.9	44.3	15.2	3.8	1.0	4.8	1.9	7.1	1.0
	東播磨	214	41.1	49.1	23.8	3.3	3.7	4.7	0.9	2.3	0.0
	北播磨	81	28.4	55.6	39.5	2.5	3.7	4.9	1.2	2.5	2.5
	中播磨	176	39.8	51.1	28.4	2.3	1.7	2.8	0.6	2.3	0.0
	西播磨	66	43.9	48.5	24.2	4.5	4.5	3.0	0.0	1.5	1.5
	但馬	39	43.6	48.7	51.3	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0
	丹波	44	36.4	47.7	50.0	4.5	4.5	4.5	0.0	15.9	0.0
	淡路	40	20.0	82.5	7.5	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



【子どもの保育所等を選ぶときに重視した点（性別）】

・男女別にみても全体とほぼ変わらず、男女による差もほぼみられなかい。

【子どもの保育所等を選ぶときに重視した点（年代別）】

・50代以上で「公立施設であること」が27.4%となっており、他の年代に比べて割合が高くなっている。

・30～40代は「認可施設であること」が3割台となっており、比較的割合が高くなっている。

【子どもの保育所等を選ぶときに重視した点（地域別）】

・淡路で「公立施設であること」が36.1%で、他の地域に比べて割合が高くなっている。

・阪神北では「職員の対応や感じが良いか」と「早朝・延長保育等が利用しやすいか」が比較的高くなっている。

・西播磨では「施設における保育の方針や特徴的な取り組み」が28.0%となっており、比較的高くなっている。

【子どもの保育所等を選ぶときに重視した点（夫婦の就業状況別）】

・片働き世帯で「施設における保育の方針や特徴的な取り組み」が26.9%となっており、共働き世帯（17.8%）よりも高くなっている。

■ 子どもの保育所等を選ぶときに重視した点（性別、年代別、地域別、夫婦の就業状況別）（%）

		回答者数 (n)	認可施設であること	公立施設であること	私立施設であること	自宅から近いこと	職場に近いこと	施設における保育の方針や特徴的な取り組み	職員の対応や感じが良いか	早朝・延長保育等が利用しやすいか	休日保育を行っているか	送迎サービスがあるか	病気のときでも預かることができるか	給食のアレルギー対応	その他
全体		1081	34.9	18.6	3.0	71.3	16.4	17.9	21.6	16.0	3.0	2.9	2.3	1.1	1.1
性別	男性	502	34.7	19.3	4.2	68.7	15.1	18.9	20.5	16.1	2.4	3.0	2.4	0.8	0.8
	女性	576	35.1	17.7	1.9	74.0	17.2	17.2	22.7	15.8	3.5	2.8	2.3	1.4	1.4
年代別	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	29	27.6	13.8	6.9	65.5	20.7	17.2	17.2	13.8	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0
	30代	271	34.3	13.7	5.5	72.3	14.0	21.8	22.9	15.9	4.1	1.8	0.7	1.8	0.7
	40代	569	37.4	17.9	1.8	69.4	16.7	17.9	22.0	15.3	1.8	2.3	2.8	0.7	1.6
	50代以上	212	29.7	27.4	2.4	75.9	17.9	13.2	19.8	18.4	5.2	6.1	3.3	0.9	0.5
	Z世代	29	27.6	13.8	6.9	65.5	20.7	17.2	17.2	13.8	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0
地域別	神戸	254	39.0	16.1	3.5	71.7	16.1	20.5	20.9	15.7	2.4	3.1	2.4	1.6	0.8
	阪神南	173	35.3	16.2	2.9	74.0	15.0	22.5	23.7	16.8	2.3	2.9	1.7	1.2	1.7
	阪神北	119	37.0	10.9	2.5	76.5	14.3	17.6	29.4	21.8	5.9	2.5	0.0	0.8	0.8
	東播磨	161	37.3	16.1	3.7	74.5	16.1	19.9	21.1	14.3	3.7	1.9	3.1	1.9	1.2
	北播磨	73	39.7	24.7	1.4	64.4	20.5	19.2	17.8	9.6	2.7	2.7	2.7	1.4	1.4
	中播磨	138	34.8	25.4	2.2	69.6	15.9	10.1	20.3	13.8	0.7	5.1	2.2	0.0	1.4
	西播磨	50	26.0	20.0	6.0	54.0	16.0	28.0	22.0	20.0	4.0	0.0	2.0	0.0	2.0
	但馬	36	22.2	13.9	0.0	72.2	16.7	11.1	16.7	16.7	5.6	2.8	5.6	2.8	0.0
	丹波	41	26.8	29.3	2.4	63.4	26.8	4.9	12.2	22.0	2.4	4.9	7.3	0.0	0.0
	淡路	36	11.1	36.1	2.8	77.8	13.9	5.6	22.2	11.1	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0
夫婦の就業状況別	共働き世帯	741	35.6	17.3	2.8	71.7	16.1	17.8	21.7	16.3	2.7	2.2	1.2	1.1	0.8
	片働き世帯	167	34.1	18.6	5.4	64.7	14.4	26.9	26.3	10.2	3.0	5.4	1.2	0.6	2.4
	その他	19	26.3	47.4	0.0	89.5	10.5	5.3	10.5	15.8	5.3	10.5	10.5	5.3	0.0



【保育所や保育施設に子どもを預けた際に困ったこと（性別）】

・女性は「子どもが病気になった時に預けられない」が59.5%となっており、男性（43.0%）よりも割合が高い。

【保育所や保育施設に子どもを預けた際に困ったこと（年代別）】

・50代以上で「保育料・教材費が高い」が30.2%となっており、他の年代に比べて割合が高い。また年代が低いほど割合が低い。

【保育所や保育施設に子どもを預けた際に困ったこと（地域別）】

・阪神北と但馬で「保育料・教材費が高い」が3割を超えて割合が高くなっている。  
 ・阪神北で「子どもが病気になった時に預けられない」が62.2%と最も割合が高く、他の地域に比べて高くなっている。

【保育所や保育施設に子どもを預けた際に困ったこと（夫婦の就業状況別）】

・片働き世帯では「預かってもらえる時間が短い」や「休日に預けられない」が比較的割合が高い。  
 ・夫婦の就業状況にかかわらず、「子どもが病気になった時に預けられない」と「保育料・教材費が高い」が比較的高くなっている。

■ 保育所や保育施設に子どもを預けた際に困ったこと（性別、年代別、地域別、夫婦の就業状況別）

		回答者数 (n)	預かってもらえる時間が短い	休日に預けられない	子どもが病気になった時に預けられない	障がいのある子どもの受入れ体制が整っていない	保育所が便利な場所がない	子どもの送迎サービスがない	安全面・子どもへの対応面に不安がある	保育料・教材費が高い	その他	特に困ったことはない	(%)
全体		1081	17.4	22.1	51.8	4.2	7.5	9.9	6.9	24.0	0.8	20.1	
性別	男性	502	18.7	22.7	43.0	5.2	8.2	9.0	8.2	23.3	0.0	22.3	
	女性	576	16.1	21.7	59.5	3.3	6.8	10.8	5.9	24.5	1.6	18.1	
年代別	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	29	20.7	24.1	48.3	3.4	13.8	10.3	13.8	13.8	0.0	13.8	
	30代	271	14.0	19.6	51.7	4.4	6.6	12.9	6.3	20.3	1.5	21.0	
	40代	569	16.5	22.8	50.1	4.0	7.2	8.1	7.2	23.9	0.5	20.4	
	50代以上	212	23.6	23.1	57.1	4.2	8.5	10.8	6.1	30.2	0.9	18.9	
	Z世代	29	20.7	24.1	48.3	3.4	13.8	10.3	13.8	13.8	0.0	13.8	
地域別	神戸	254	15.4	22.0	53.1	3.9	8.7	11.4	7.1	24.8	2.0	15.0	
	阪神南	173	23.1	24.9	52.6	4.6	13.3	8.7	4.0	23.1	0.0	16.2	
	阪神北	119	18.5	22.7	62.2	5.9	5.0	5.0	6.7	31.9	0.0	17.6	
	東播磨	161	14.9	23.6	49.1	6.2	3.1	12.4	5.0	19.9	1.2	25.5	
	北播磨	73	13.7	13.7	41.1	5.5	9.6	9.6	8.2	16.4	1.4	27.4	
	中播磨	138	15.9	19.6	48.6	0.0	6.5	11.6	10.1	26.8	0.7	23.9	
	西播磨	50	16.0	26.0	56.0	6.0	8.0	20.0	10.0	20.0	0.0	16.0	
	但馬	36	16.7	13.9	50.0	5.6	8.3	5.6	5.6	33.3	0.0	22.2	
	丹波	41	22.0	22.0	51.2	2.4	4.9	0.0	9.8	24.4	0.0	29.3	
	淡路	36	22.2	30.6	47.2	0.0	0.0	5.6	8.3	13.9	0.0	22.2	
夫婦の就業状況別	共働き世帯	741	16.1	20.5	49.9	4.0	7.3	10.4	6.9	23.9	0.9	20.5	
	片働き世帯	167	20.4	23.4	46.7	4.2	8.4	9.6	7.8	22.2	1.2	23.4	
	その他	19	26.3	21.1	57.9	0.0	21.1	10.5	10.5	36.8	0.0	10.5	

## (5) 放課後児童クラブの利用状況

【子どもがいる方のみ】※ Q8 で「2～6」を選択した方

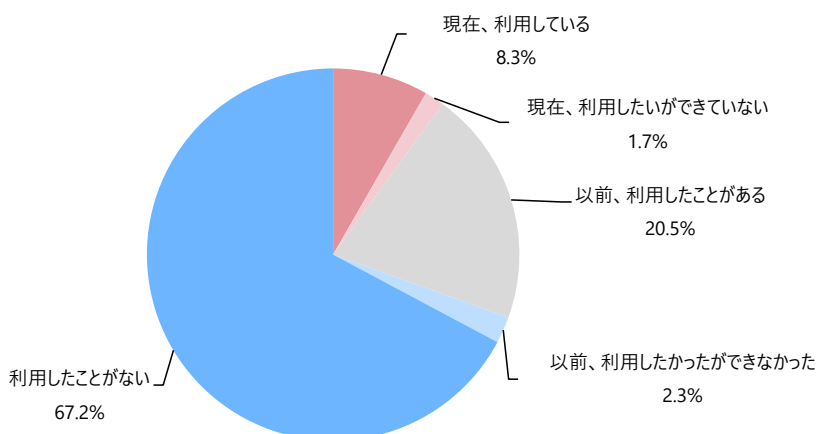
Q35 放課後児童クラブ（学童保育）の利用状況について、お聞きます。（1つ選択）

1. 現在、利用している
2. 現在、利用したいができていない
3. 以前、利用したことがある
4. 以前、利用したかったができなかった
5. 利用したことがない

### 【放課後児童クラブの利用状況（全体）】

- ・放課後児童クラブの利用状況を見ると、「利用したことがない」が 67.2%と最も割合が高くなっている。
- ・「現在、利用している」が 8.3%、「以前、利用したことがある」が 20.5%となっており、“利用したことがある” はあわせて 28.8%となっている。

### ■ 放課後児童クラブの利用状況（全体）（n=2,048）





**【放課後児童クラブの利用状況（地域別）】**

- ・但馬で“利用したことがある”（現在、利用している+以前、利用したことがある）はあわせて38.9%となっており、比較的割合が高くなっている。
- ・一方、阪神北では“利用したことがある”が24.3%となっており、他の地域に比べて利用が低くなっている。
- ・丹波では“利用したいができていない”（現在、利用したいができていない+以前、利用したかったができなかった）が9.3%と約1割となっている。

**■ 放課後児童クラブの利用状況（地域別）**

		全 体	現 在 、 利 用 し て い る	い 現 在 、 利 用 し た い が で き て い な い	以 前 、 利 用 し た こ と が あ る	か 以 前 、 利 用 し た か つ た が で き な か つ た	利 用 し た こ と が な い
全 体		2048	8.3	1.7	20.5	2.3	67.2
地域別	神戸	526	8.6	1.9	21.3	1.5	66.7
	阪神南	356	9.8	2.8	19.7	3.1	64.6
	阪神北	300	6.0	0.3	18.3	2.3	73.0
	東播磨	282	6.0	1.4	22.7	3.9	66.0
	北播磨	106	13.2	0.0	17.9	1.9	67.0
	中播磨	216	7.9	0.9	17.1	1.4	72.7
	西播磨	94	9.6	2.1	20.2	1.1	67.0
	但馬	54	14.8	0.0	24.1	3.7	57.4
	丹波	54	5.6	5.6	24.1	3.7	61.1
	淡路	60	6.7	3.3	28.3	1.7	60.0



【放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったこと（性別）】

- ・女性では「学級閉鎖や警報発令の時は預けられない」が40.2%と特に高く、また「給食・弁当（有料）の提供体制がない」が28.9%と比較的高くなっている。
- ・男性は「休日に預けられない」が31.6%と最も高くなっている。

【放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったこと（年代別）】

- ・50代以上で「一定学年以上は預かってくれない」が22.3%と比較的高くなっている。
- ・20代では「開設時間が短い」が5割を超え、他の年代に比べて高くなっている。
- ・また、30～50代以上で「給食・弁当（有料）の提供体制がない」が2割前後と他の年代に比べて高くなっている。

【放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったこと（地域別）】

- ・東播磨や西播磨、淡路では「休日に預けられない」が最も高くなっている。また、但馬では「学級閉鎖や警報発令の時は預けられない」と並んで高くなっている。
- ・丹波と淡路では「開設時間が短い」が約3割と他の地域に比べて高くなっている。

■ 放課後児童クラブに子どもを預けた際に困ったこと（性別、年代、地域別） (%)

	回答者数 (n)	開設時間が短い	開設場所が少ない	休日に預けられない	学級閉鎖や警報発令の時は預けられない	障がいのある子どもの受け入れ体制が整っていない	施設が狭い	運動場など遊べる場所が整っていない	安全対策や衛生対策に不安がある	夏休み等の長期休暇の開所時間が短い	他のきょうだいで利用施設が異なる（保育園、幼稚園等も含む）	給食・弁当（有料）の提供体制がない	一定学年以上は預かってくれない	その他	特に困ったことはない	
全体	589	18.2	4.8	28.2	35.0	5.1	8.0	5.3	4.9	10.4	2.4	20.4	10.9	3.1	22.1	
性別	男性	297	17.8	5.4	31.6	30.0	6.4	6.7	4.0	5.1	10.8	3.0	12.1	11.4	1.3	25.6
	女性	291	18.2	4.1	24.7	40.2	3.8	8.9	6.5	4.8	10.0	1.7	28.9	10.0	4.8	18.6
年代別	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	9	55.6	0.0	22.2	33.3	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1
	30代	117	10.3	7.7	26.5	39.3	8.5	8.5	5.1	2.6	12.8	4.3	23.1	2.6	1.7	19.7
	40代	351	18.2	4.6	28.2	35.3	5.4	7.7	5.7	5.4	8.8	2.6	19.9	10.3	4.6	21.9
	50代以上	112	23.2	2.7	30.4	29.5	0.9	8.9	4.5	6.3	11.6	0.0	19.6	22.3	0.0	25.9
	Z世代	9	55.6	0.0	22.2	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1
地域別	神戸	157	15.9	7.0	26.1	35.0	5.1	7.6	10.8	6.4	8.3	0.6	15.9	8.3	4.5	24.2
	阪神南	105	17.1	4.8	26.7	35.2	7.6	12.4	5.7	4.8	10.5	3.8	12.4	14.3	1.9	25.7
	阪神北	73	16.4	4.1	24.7	35.6	2.7	4.1	4.1	5.5	13.7	0.0	23.3	12.3	2.7	26.0
	東播磨	81	19.8	4.9	28.4	27.2	4.9	8.6	0.0	2.5	11.1	1.2	24.7	9.9	3.7	23.5
	北播磨	33	21.2	0.0	27.3	39.4	6.1	9.1	3.0	6.1	6.1	12.1	30.3	12.1	0.0	9.1
	中播磨	54	18.5	0.0	31.5	48.1	3.7	7.4	3.7	11.1	16.7	3.7	31.5	18.5	3.7	13.0
	西播磨	28	14.3	7.1	39.3	35.7	7.1	7.1	3.6	0.0	17.9	0.0	25.0	3.6	3.6	21.4
	但馬	21	19.0	4.8	28.6	28.6	4.8	9.5	0.0	0.0	4.8	0.0	19.0	9.5	4.8	23.8
	丹波	16	31.3	0.0	31.3	50.0	6.3	6.3	0.0	0.0	6.3	12.5	31.3	0.0	0.0	12.5
	淡路	21	28.6	9.5	38.1	14.3	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	9.5	9.5	0.0	19.0

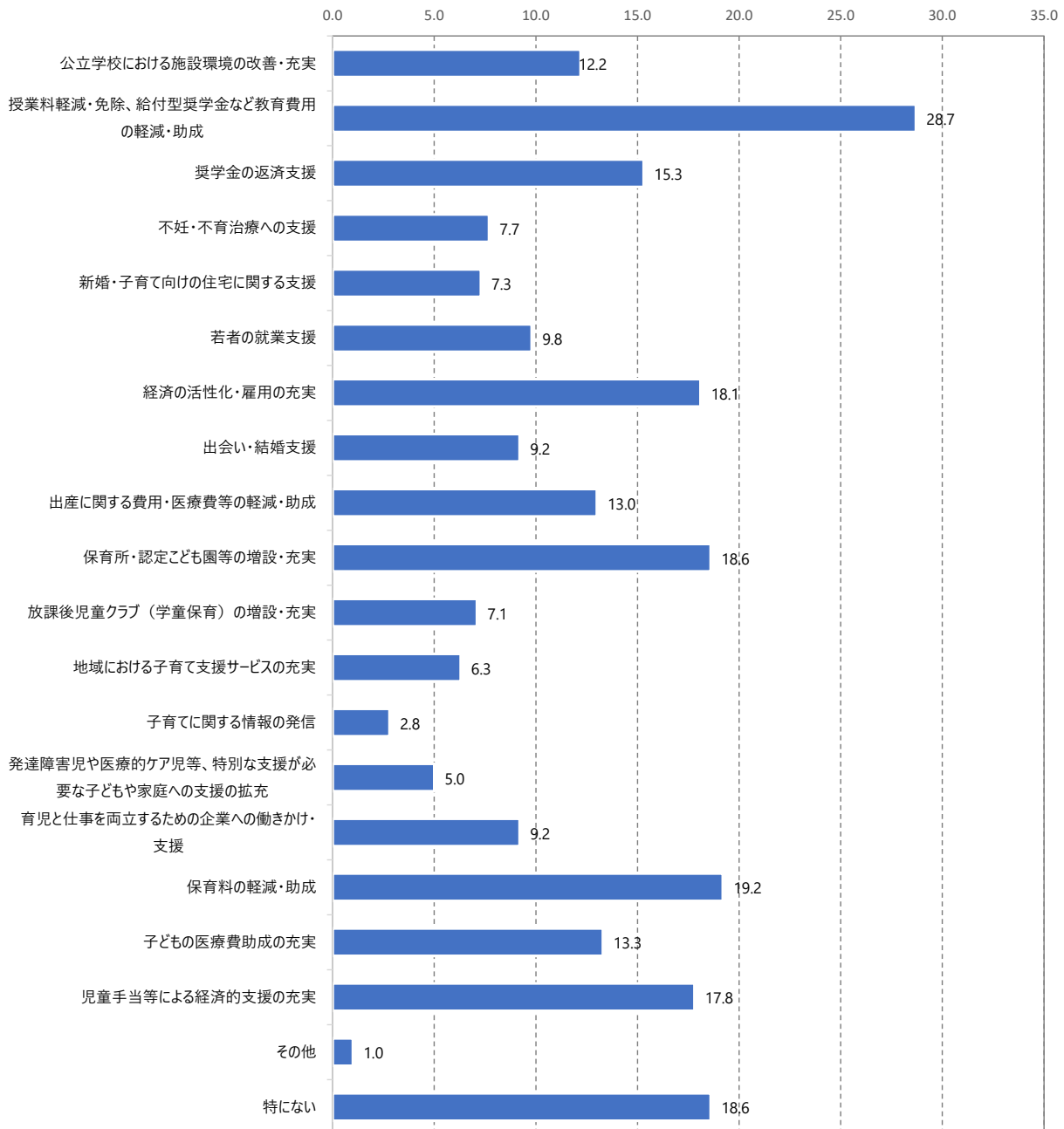


### 【充実してほしい支援策（全体）】

・充実してほしい支援策は「授業料軽減・免除、給付型奨学金など教育費用の軽減・助成」が28.7%と最も高くなっている。次いで「保育料の軽減・助成」（19.2%）、以下「保育所・認定こども園等の増設・充実」（18.6%）、「経済の活性化・雇用の充実」（18.1%）とほぼ同じ割合が続いている。

### ■ 充実してほしい支援策（複数回答：n=4,000）

(%)



### 【充実してほしい支援策（性別）】

- ・男性は「公立学校における施設環境の改善・充実」や「経済の活性化・雇用の充実」、「出会い・結婚支援」が女性よりも比較的高く、就業や出会いに関する項目で多くみられる。
- ・一方、女性は「出産に関する費用・医療費等の軽減・助成」や「保育所・認定こども園等の増設・充実」、「育児と仕事を両立するための企業への働きかけ・支援」、「授業料軽減・免除、給付型奨学金など教育費用の軽減・助成」、「不妊・不育治療への支援」、「発達障害児や医療的ケア児等、特別な支援が必要な子どもや家庭への支援の拡充」など出産、育児に関する項目で男性よりも高い割合となっている。

### 【充実してほしい支援策（年代別）】

- ・50代以上は「保育所・認定こども園等の増設・充実」が25.0%となっており、他の年代に比べて高くなっている。
- ・30～40代では「児童手当等による経済的支援の充実」が約20%となっており比較的高くなっている。
- ・年代が上がるにつれて「経済の活性化・雇用の充実」の割合が高くなっている。

### 【充実してほしい支援策（地域別）】

- ・丹波では「児童手当等による経済的支援の充実」が25.0%と最も高くなっている。
- ・また、丹波では「出産に関する費用・医療費等の軽減・助成」が22.0%、「発達障害児や医療的ケア児等、特別な支援が必要な子どもや家庭への支援の拡充」が11.0%となっており、他の地域に比べて高くなっている。

### 【充実してほしい支援策（ライフステージ別）】

- ・全ての層で「授業料軽減・免除、給付型奨学金など教育費用の軽減・助成」が最も高くなっている。
- ・独身者では「経済の活性化・雇用の充実」(21.1%)と「保育所・認定こども園等の増設・充実」(18.2%)が比較的高くなっている。
- ・夫婦のみでは「授業料軽減・免除、給付型奨学金など教育費用の軽減・助成」(21.5%)とほぼ並んで「保育所・認定こども園等の増設・充実」が21.1%と高くなっている。
- ・ベビーファミリー層では「授業料軽減・免除、給付型奨学金など教育費用の軽減・助成」の他に「保育所・認定こども園等の増設・充実」や「保育料の軽減・助成」、「児童手当等による経済的支援の充実」、が2割台と比較的高くなっている。
- ・また、ヤングファミリー層では「授業料軽減・免除、給付型奨学金など教育費用の軽減・助成」の他に「児童手当等による経済的支援の充実」が比較的高く、一方、「保育所・認定こども園等の増設・充実」が1割未満で他の層に比べて比較的少くなっている。

### 【充実してほしい支援策（子どもの人数別）】

- ・全ての層で「授業料軽減・免除、給付型奨学金など教育費用の軽減・助成」が最も高くなっている。
- ・3人以上では「児童手当等による経済的支援の充実」が31.1%と3割を超えている。
- ・2人では「保育料の軽減・助成」、「子どもの医療費助成の充実」が他人数と比べて高くなっている。

■ 充実してほしい支援策（性別、年代別、地域別、ライフステージ別、子どもの人数別）1/2（％）

		回答者数 (n)	公立学校における施設環境の改善・充実	授業料軽減・免除、給付型奨学金など教育費用の軽減・助成	奨学金の返済支援	不妊・不育治療への支援	新婚・子育て向けの住宅に関する支援	若者の就業支援	経済の活性化・雇用の充実	出会い・結婚支援	出産に関する費用・医療費等の軽減・助成	保育所・認定こども園等の増設・充実
全体		4000	12.2	28.7	15.3	7.7	7.3	9.8	18.1	9.2	13.0	18.6
性別	男性	1991	13.8	26.9	15.0	5.6	7.8	9.7	19.4	11.6	11.4	17.8
	女性	1995	10.7	30.4	15.6	9.8	6.7	9.8	16.8	6.8	14.6	19.4
年代別	10代	41	17.1	24.4	14.6	2.4	7.3	12.2	14.6	7.3	12.2	17.1
	20代	356	9.6	25.3	15.2	4.8	10.7	9.8	15.2	8.7	18.5	12.1
	30代	936	13.1	25.4	13.1	9.3	8.7	8.4	15.5	9.4	14.3	16.7
	40代	1867	13.5	31.0	16.1	8.3	6.0	9.3	19.3	8.8	11.3	18.1
	50代以上	800	9.1	28.8	15.9	6.0	7.1	12.4	19.5	10.1	13.1	25.0
	Z世代	397	10.3	25.2	15.1	4.5	10.3	10.1	15.1	8.6	17.9	12.6
地域別	神戸	1083	12.5	28.5	15.0	7.1	7.6	10.2	19.3	9.0	11.0	19.6
	阪神南	760	12.6	27.0	13.4	8.4	8.6	9.5	19.2	9.9	12.6	19.2
	阪神北	524	12.2	32.6	17.0	9.2	8.2	9.9	18.1	8.0	13.0	20.0
	東播磨	524	10.5	29.8	18.5	9.4	6.5	7.6	16.2	8.8	13.4	20.4
	北播磨	194	14.4	26.8	13.9	5.2	5.7	10.8	19.6	11.3	14.9	13.4
	中播磨	419	12.9	27.7	14.3	6.7	6.9	8.4	19.1	8.6	13.6	13.6
	西播磨	180	12.8	27.2	14.4	4.4	5.0	13.3	17.2	6.7	15.0	21.1
	但馬	116	11.2	31.9	13.8	6.0	6.0	12.1	13.8	12.9	16.4	13.8
	丹波	100	11.0	21.0	13.0	6.0	7.0	11.0	10.0	7.0	22.0	22.0
	淡路	100	10.0	30.0	19.0	11.0	4.0	11.0	12.0	15.0	14.0	14.0
ライフステージ別	独身者	1459	9.8	21.6	13.8	6.1	8.0	11.5	21.1	12.0	14.2	18.2
	夫婦のみ	493	12.0	21.5	10.8	15.6	8.5	10.3	18.7	10.8	13.6	21.1
	ベビーファミリー層	629	16.2	29.4	14.5	9.9	8.1	5.2	13.5	4.3	11.8	21.9
	ヤングファミリー層	457	16.6	40.5	17.1	6.3	4.6	7.0	14.7	7.7	9.8	9.2
	ファミリー層	962	11.3	36.9	19.5	5.3	6.2	11.1	17.7	8.0	13.3	20.1
子どもの数	1人	656	13.0	31.7	15.9	10.1	7.5	9.6	13.6	4.9	13.3	18.3
	2人	993	15.5	37.4	17.6	5.6	5.9	7.6	15.6	7.8	11.6	19.9
	3人以上	399	12.0	36.6	19.5	5.0	6.0	8.5	19.5	7.5	11.3	13.8

■ 充実してほしい支援策（性別、年代別、地域別、ライフステージ別、子どもの人数別）2/2（％）

		回答者数 (n)	放課後児童クラブ (学童保育)の増設・充実	地域における子育て支援サービスの充実	子育てに関する情報の発信	発達障害児や医療的ケア児等、特別な支援が必要な子どもや家庭への支援の拡充	育児と仕事を両立するための企業への働きかけ・支援	保育料の軽減・助成	子どもの医療費助成の充実	児童手当等による経済的支援の充実	その他	特にない
全体		4000	7.1	6.3	2.8	5.0	9.2	19.2	13.3	17.8	1.0	18.6
性別	男性	1991	6.6	6.4	3.3	3.5	6.4	17.9	13.3	18.5	1.3	19.5
	女性	1995	7.5	6.3	2.3	6.6	12.0	20.5	13.3	17.1	0.7	17.4
年代別	10代	41	4.9	7.3	2.4	2.4	7.3	12.2	17.1	9.8	0.0	29.3
	20代	356	4.5	4.8	2.8	4.2	8.4	19.9	9.3	11.8	0.3	26.4
	30代	936	7.5	5.6	2.5	5.6	9.3	20.0	11.4	19.6	1.1	18.9
	40代	1867	6.5	6.1	2.8	5.4	8.7	18.4	14.4	19.4	1.1	17.1
	50代以上	800	9.0	8.3	3.1	4.1	10.5	20.1	14.6	15.0	0.8	17.5
	Z世代	397	4.5	5.0	2.8	4.0	8.3	19.1	10.1	11.6	0.3	26.7
地域別	神戸	1083	7.1	6.2	3.2	5.5	9.2	19.5	14.6	17.0	1.2	18.0
	阪神南	760	8.8	5.1	3.4	4.1	8.9	19.1	14.3	16.4	0.8	18.4
	阪神北	524	7.1	5.7	2.1	4.0	7.6	18.3	14.3	18.7	1.3	16.6
	東播磨	524	5.5	6.5	2.1	5.9	10.1	15.1	11.1	17.4	0.6	19.5
	北播磨	194	6.7	6.7	2.1	6.7	10.8	22.2	13.4	18.6	0.0	18.6
	中播磨	419	6.0	7.4	2.6	4.1	8.4	19.3	12.2	19.1	1.0	22.7
	西播磨	180	7.2	9.4	4.4	5.0	11.7	21.7	8.9	17.8	1.1	18.9
	但馬	116	7.8	6.0	1.7	6.0	10.3	25.9	13.8	19.0	0.9	16.4
	丹波	100	4.0	5.0	1.0	11.0	9.0	23.0	11.0	25.0	2.0	20.0
	淡路	100	8.0	9.0	3.0	1.0	7.0	21.0	13.0	18.0	0.0	14.0
ライフステージ別	独身者	1459	5.1	6.3	2.9	5.1	8.5	15.8	8.6	10.5	0.8	26.4
	夫婦のみ	493	7.7	6.3	3.0	3.0	8.5	18.5	12.6	12.0	1.2	19.7
	ベビーファミリー層	629	10.3	7.3	2.2	5.6	9.2	27.3	13.8	28.6	1.4	10.5
	ヤングファミリー層	457	8.5	5.7	3.1	6.6	12.5	18.8	18.4	31.9	1.1	11.6
	ファミリー層	962	6.8	5.9	2.7	4.9	8.8	19.5	18.1	18.0	0.6	14.7
子どもの数	1人	656	9.9	7.9	2.1	4.7	10.1	20.6	15.9	22.1	0.6	12.8
	2人	993	7.7	5.1	2.6	5.2	10.1	23.3	18.1	23.2	1.1	12.8
	3人以上	399	7.0	6.5	3.5	7.3	8.5	20.1	15.3	31.1	1.3	12.3



## (2) 現在行っている支援策の評価

### 【全員】

Q38. 現在、行政が行っている支援策は、評価できるものになっていますか。次の項目について、それぞれひとつずつお答えください（1つ選択）

- |                   |                           |
|-------------------|---------------------------|
| ①若者の就業支援          | ②出会い・結婚支援                 |
| ③不妊・不育治療への支援      | ④出産費用・医療費等の軽減・助成          |
| ⑤出産や育児に関する相談機関の充実 | ⑥小児医療体制の充実                |
| ⑦保育所等の増設・充実       | ⑧放課後児童クラブの増設・充実           |
| ⑨公立学校における施設環境の充実  | ⑩子育てに関する情報の発信             |
| ⑪子どもと一緒に集まれる場づくり  | ⑫保育料の軽減・助成                |
| ⑬こどもの医療費助成の充実     | ⑭授業料軽減・免除、奨学金など教育費用の軽減・助成 |
| ⑮奨学金の返済支援         | ⑯児童手当等による経済的支援の充実         |
| ⑰仕事と子育ての両立支援      |                           |

- |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| 1.よくやっている   | 2.まあよくやっている | 3.どちらともいえない |
| 4.もう少し努力が必要 | 5.もっと努力が必要  | 6.取り組みを知らない |

### 【全体】

- ・上記①～⑰の項目についての評価をみると、平均点【※】の高い順に「こどもの医療費助成の充実」（2.33点）や「子育てに関する情報の発信」（2.22点）、「子どもと一緒に集まれる場づくり」（2.21点）、「小児医療体制の充実」（2.20点）などがあげられている。
- ・一方、「不妊・不育治療への支援」（1.98点）と「出会い・結婚支援」（1.94点）、「仕事と子育ての両立支援」（1.94点）と「奨学金の返済支援」（1.92点）で2.00点以下となり、いずれも「取り組みを知らない」がおおむね2割となっている。

### ■ 現在行っている支援策の評価（n=4,000）

（%、点）

	る や よ っ く て い	る や ま っ あ て よ い く	い も ど い ち え ら な と	要 努 も 力 う が 少 必 し	要 努 も 力 っ が と 必	い を 取 知 り ら 組 な み	平 均 点
若者の就業支援	2.6	7.2	39.1	13.2	14.8	23.3	2.00
出会い・結婚支援	1.4	6.6	40.2	13.4	13.0	25.4	1.94
不妊・不育治療への支援	1.5	9.0	36.5	14.2	17.3	21.6	1.98
出産費用・医療費等の軽減・助成	2.9	13.6	33.2	15.8	17.7	16.8	2.18
出産や育児に関する相談機関の充実	1.7	10.8	39.7	14.3	13.9	19.7	2.13
小児医療体制の充実	2.7	13.8	35.7	14.5	15.1	18.3	2.20
保育所等の増設・充実	2.1	11.2	35.8	16.8	17.9	16.2	2.14
放課後児童クラブの増設・充実	1.6	10.2	38.7	16.4	14.8	18.3	2.13
公立学校における施設環境の充実	1.7	10.0	40.5	15.5	13.5	18.9	2.14
子育てに関する情報の発信	2.1	12.3	41.2	13.4	11.9	19.2	2.22
子どもと一緒に集まれる場づくり	2	12.4	40.2	14.4	11.9	19.1	2.21
保育料の軽減・助成	2.5	11.4	34.3	16.4	17.7	17.7	2.12
こどもの医療費助成の充実	5.8	15.8	31.8	14.7	16.3	15.6	2.33
授業料軽減・免除、奨学金など教育費用の軽減・助成	2.3	11.0	34.0	15.8	19.9	17.1	2.09
奨学金の返済支援	1.6	6.0	36.3	15.4	20.5	20.4	1.92
児童手当等による経済的支援の充実	2.4	9.8	36.7	15.1	19.2	17.0	2.10
仕事と子育ての両立支援	1.5	6.4	35.8	16.4	20.9	19.0	1.94

【※】平均点・・・「よくやっている」が5点、「まあよくやっている」が4点、「どちらともいえない」が3点、「もう少し努力が必要」が2点

「もっと努力が必要」が1点、「取り組みを知らない」が0点

### (3) 意見・要望【自由回答】

#### 【全員】

Q39. 最後に、少子化対策や子育て支援について、兵庫県や市町に取り組んでほしいことなど、何でも結構ですので自由にご記入ください。

#### 【全体】

・少子化対策や子育て支援について自由回答形式で聞いたところ、『結婚・託児・子育てについて』の意見が877件と最も多く、次いで『社会や職場の意識・支援について』が636件となっている。

・以下、『行政への要望について』（480件）、『教育について』（281件）、『医療について』（69件）と続いている。

・『社会や職場の意識・支援について』では、雇用の安定化、育休を取りやすい環境、経済的な支援を求める意見等が多い。

・『結婚・託児・子育てについて』では、所得制限のない援助、子育て支援の拡充や児童手当の増額、給食費の無償化を求める意見等が多い。

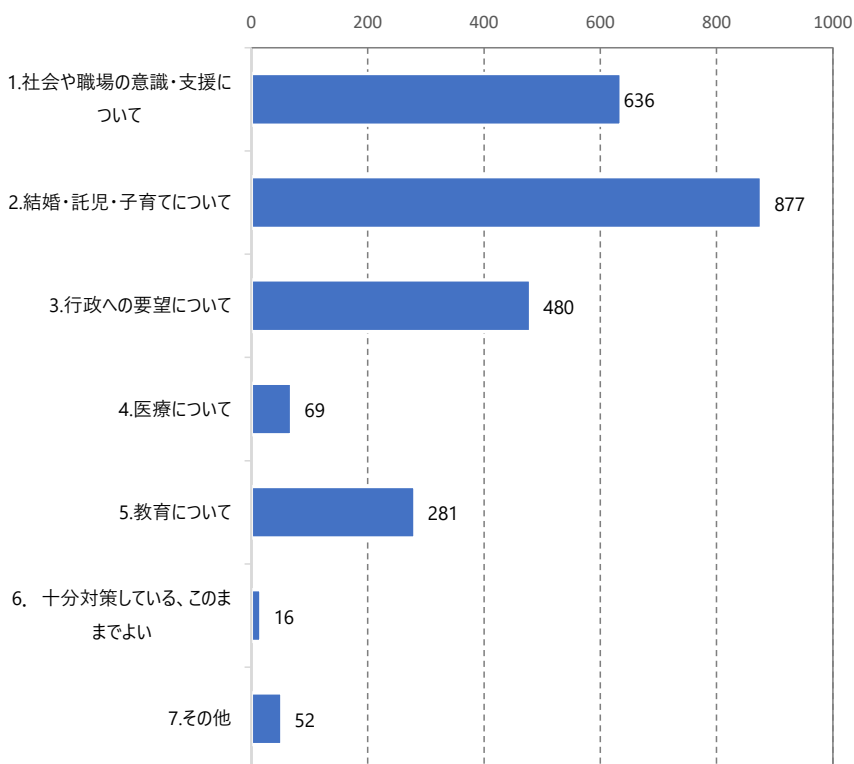
・『行政への要望について』では、給付金や減税、また特定の自治体をモデルケースにしてほしいという意見等が多かった。

・『医療について』では、高校生までの医療費無償化、不妊治療に対する助成を求める意見等が多い。

・『教育について』では、高校や大学の学費の無償化、奨学金の利用手続きの改善や返済負担の軽減に関する意見等が多い。

#### ■ 意見・要望【自由回答】(n=2,411)

(件)



■ 意見・要望【自由意見】（性別、年代別、地域別）

（件）

	全 体 (n)	1 ・ 支 援 に つ い て ・ 社 会 や 職 場 の 意 識 ・	2 ・ に つ い て ・ 結 婚 ・ 託 児 ・ 子 育 て	3 ・ て ・ 行 政 へ の 要 望 に つ い	4 ・ 医 療 に つ い て	5 ・ 教 育 に つ い て	6 ・ こ の ま ま で よ い ・ 十 分 対 策 し て い る 、	7 ・ そ の 他	
全 体	2411	636	877	480	69	281	16	52	
性別	男性	1161	315	343	297	26	142	9	29
	女性	1250	321	534	183	43	139	7	23
年代別	10代	23	5	7	4	2	4	0	1
	20代	174	51	58	45	4	12	0	4
	30代	563	147	230	120	17	35	2	12
	40代	1132	292	375	224	31	177	8	25
	50代以上	519	141	207	87	15	53	6	10
	Z世代	197	56	65	49	6	16	0	5
地域別	神戸	670	173	215	158	23	75	6	20
	阪神南	472	115	182	89	15	55	2	14
	阪神北	330	77	116	74	9	48	2	4
	東播磨	305	69	124	57	1	44	3	7
	北播磨	103	29	35	16	7	13	2	1
	中播磨	243	87	83	41	9	20	0	3
	西播磨	108	32	46	13	1	13	1	2
	但馬	63	28	20	9	1	5	0	0
	丹波	56	11	31	9	2	2	0	1
淡路	61	15	25	14	1	6	0	0	